

## 国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）ロードマップ

平成28年10月  
国連生物多様性の10年日本委員会

はじめに

### <UNDB-Jのこれまでの取組の経緯>

2011年から2020年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」。生物多様性条約第10回締約国会議（2010.10 愛知県名古屋市）で採択された、新たな世界目標である「愛知目標」の達成に貢献するため、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に取り組むこととされている。

これを受け、愛知目標の達成を目指し、国内のあらゆるセクターの参画と連携を促進し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進するため、「国連生物多様性の10年日本委員会」（UNDB-J）が2011年9月に設立された。

UNDB-Jは、国、地方自治体、経済界、NGO/NPO・ユース、学識経験者、文化人等といった7名・31団体から構成されており、これまで各構成団体がそれぞれの立場で生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進してきており、着実な成果を上げてきた。

政府においても、生物多様性国家戦略2012-2020の策定、実施を通じ、愛知目標の達成に向けた取組を進めている。一方で、世論調査によれば「生物多様性」の言葉の認知度が平成24年度の55.7%から平成26年度は46.4%に低下している。また、生物多様性の認知度に加え、自然とふれあう実体験を通じ、自然の恵みを実感し、自然共生社会への理解を深めることも必要であるが、近年では自然体験

をほとんどしたことがないという子どもや若者が増えている。加えて、生物多様性に関する取組は、地球温暖化防止の取組のように、一般化している状況には至っていない。

また、生物多様性の保全や持続可能な利用に向けた動きは各地で進展しつつあるものの、個々の地域での点的な取組や個別主体の取組にとどまっており、面的にも分野的にも横断的な取組を進めていくことが課題となっている。

この点については、UNDB-Jのこれまでの取組においても、セクター間の連携や構成団体内外の連携が十分でなかったことが、UNDB-J 中間評価（平成 27 年 11 月）においても課題として上げられているところである。

こうした状況から、現状の取組を続けるだけでは愛知目標 1 に掲げられた、2020 年までに「人々が生物多様性の価値と行動を認識する」を我が国で達成することは困難である。

したがって、愛知目標の達成期限である 2020 年に向けて、更なる取組の強化を行うため、UNDB-J 運営部会、幹事会等の場における議論を経て、国家戦略において示されている「自然共生社会における国土のグランドデザイン」を踏まえつつ、UNDB-J として目指すべき社会像を再度確認・共有し、その社会像に向けた具体的取組や数値目標を含む「UNDB-J ロードマップ」をとりまとめた。

今後、本ロードマップに基づき、多様な主体の連携のプラットフォームである UNDB-J の場を活用しながら、各構成団体は目指すべき社会像に向けた取組を進めていく。

## <社会的背景と UNDB-J の役割>

我が国では、今後 10 年、20 年先の社会を考えた時、少子高齢化による人口減少、それに伴う地方の衰退といった社会的課題が顕在化するものと考えられる。この影響は、例えば、人口減少や高齢化による活力の低下に伴い、里地里山では自然に対する働きかけの縮小による生態系への危機といった形で現れつつある。一方で、ICT 等の技術革新を通じた新たな産業の創出やそれを通じた社会環境の変革の可能性もある。また、地球温暖化等、地球環境の変化についても、例えば災害の激甚化等といった形で、人間生活や社会経済へ大きな影響を及ぼすことが予測されている。

2015 年は、持続可能な開発目標（SDGs）を含む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」や、気候変動に対する新たな法的枠組みである「パリ協定」が採択されるなど、持続可能な社会の実現に向けて、世界は動き出している。また、2016 年 5 月の G7 環境大臣会合においては、生物多様性の保全が議題の一つになったところである。

このような中で、私たちの暮らしをはじめ、さまざまな経済活動が、食料や水といった資源の供給だけでなく、自然災害による被害の軽減、自然景観やレクリエーションの場の提供等も含む生物多様性の恵みに支えられていることを十分認識し、このような自然の恵みを活かした産業や地域づくりといった取組を進めていくことが必要である。

そのためには、まず私たち自身の日頃の暮らしの中に生物多様性に関する認識をしっかりと根付かせ、自然の恵みを意識したライフスタイルに変えていく必要がある。

このため、UNDB-J では、自然の恵みを意識したライフスタイルへの転換を通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用を、地球規模から身近な市民生活のレベルまで、さまざまな社会経済活動の中に組み込む「生物多様性の主流化」に向けた取組を今後より一層促進することで、自然共生社会を構築し、持続可能な社会の実現を目指していく必要がある。

## I. 目指すべき社会像

愛知目標の達成期限である2020年に向けて、更なる取組の強化を行うために、生物多様性国家戦略において示されている「自然共生社会における国土のグランドデザイン」を踏まえつつ、UNDB-Jとして目指すべき社会像を、以下の通り確認・共有する。

### <目指すべき社会像>

自然の恵みを意識したライフスタイルへの転換を通じた、生物多様性の保全と持続可能な利用が組み込まれた自然共生社会の構築と、持続可能な社会の実現。

#### 1. 生物多様性に配慮した消費活動・産業活動が普及している

- ① 認証商品等の環境に配慮した多種多様な商品・サービスの価値が広く認識されることで、それらの商品・サービスが流通し、選択する消費者が増えている。
- ② 企業活動における生物多様性へ配慮した取組が進み、適切に評価されている。

#### 2. 日頃から自然とふれあうライフスタイルが一般化している

- ① 四季折々の身近な自然も含めた、自然に触れ、学ぶ機会が増加している。
- ② 動物園、水族館、植物園、博物館、図書館等の市民が集う場が、学校教育とも連携し自然を学ぶ場となっている。
- ③ 自然を守る活動に多くの人々が参加し、また活発に行われている。

#### 3. 生物多様性の保全と持続可能な利用を通じた都市や地域づくりが進んでいる

##### (1) 自然あふれる都市空間の創造

- ① 生物多様性に配慮したまちづくりがなされている。
- ② 東京オリンピック・パラリンピックで生物多様性に配慮した取組が行われ、その取組はその後も定着している。

##### (2) 生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化

- ① 農林漁業において生物多様性に配慮した取組が進み、生物多様

性が回復している。

- ② 森里川海を保全し、つなげ、活用することを通じた地域活性化がなされている。

#### 4. 生物多様性の保全と持続可能な利用が組み込まれた自然共生社会の基盤が形成されている

- ① 環境教育等を通じて、生物多様性の概念が広く国民に認知・理解され、多くの国民が生物多様性に配慮した行動を行っている。
- ② 様々な主体の連携による取組を促進するためのプラットフォームが形成されている。

## Ⅱ. 目指すべき社会像に向けたステップ

Iで再度確認・共有した「目指すべき社会像」に向けて、長期的視野に立ち、以下のステップを念頭におき取組を進めていく。

- ① MY 行動宣言数、にじゅうまるプロジェクト登録数の増加等による、生物多様性の保全及び持続可能な利用に取り組む、社会的な機運の醸成【2016年～2020年まで】
- ② 社会像に向けた各主体による具体的な取組の展開【2016年～】
- ③ 目指すべき社会像の達成【20XX年】

### Ⅲ. 目指すべき社会像に向けた取組の方向性

UNDB-J 構成団体は、企業、NPO 等の UNDB-J 構成団体以外の様々な主体と連携しながら、I で再度確認・共有した目指すべき社会像に向けて、以下の方向性に基づいた取組を進める。

#### 目指すべき社会像「1. 生物多様性に配慮した消費活動・産業活動が普及している」に向けた取組の方向性

- ① 企業、消費者に対して、生物多様性に配慮した生産・流通・消費活動等に関する教育・普及啓発を行う。【1. ①】
- ② それぞれのもつ既存のツールを活用し、認証商品等の生物多様性に配慮した商品について、消費者に対して的確な情報提供を行う。【1. ②】

#### 目指すべき社会像「2. 日頃から自然とふれあうライフスタイルが一般化している」に向けた取組の方向性

- ① 自然のフィールドにおける自然体験活動や動物園、水族館、植物園、博物館、図書館等における環境学習の場において、学校教育とも連携しながら、生物多様性に関する普及啓発活動を行う。【2. ①】
- ② 国、自治体、NPO 等の民間団体、地域住民、農林漁業者、企業、専門家等の様々な関係者の連携による自然環境保全活動を推進する。【2. ②】

#### 目指すべき社会像「3. 生物多様性の保全と持続可能な利用を通じた都市や地域づくりが進んでいる」に向けた取組の方向性

##### (1) 自然あふれる都市空間の創造

- ① 生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。【3. (1) ①】
- ② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。【3. (1) ②】

##### (2) 生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化

- ① 生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化（農産物販売、里山暮らし体験等）の取組を推進する。【3. (2) ①】
- ② 多様な主体の連携による、農林漁業を活用した環境学習を通じた生物多様性理解のための取組を推進する。【3. (2) ②】

目指すべき社会像「4. 生物多様性の保全と持続可能な利用が組み込まれた自然共生社会の基盤が形成されている」に向けた取組の方向性

- ① 生物多様性に関する普及啓発、取組を推進する人材育成を行う。  
【4. ①】
- ② 生物多様性地域戦略の策定、様々な主体が意見交換を行う場の設定等を通じて、取組の促進を図る。  
【4. ②】
- ③ 生物多様性に配慮した取組について適切な評価を行う。  
【4. ③】

## IV. 目指すべき社会像に向けた具体的な取組

UNDB-J 構成団体は、II で確認・共有した目指すべき社会像に向けて、III で示した方向性に基づき、2020 年までに具体的に以下の取組を行っていく。なお、具体的な取組や目標は、今後随時、追加・更新していく。

### (1) UNDB-J の取組

自然の恵みを意識したライフスタイルへの転換にあたっては、国民一人ひとりの意識の変革が必要。意識の変革を通じて、各構成団体の取組の実効性も上がる。そのためのツールとして、「MY 行動宣言 100 万人」、「にじゅうまるプロジェクト 2020 宣言」、「生物多様性の本箱 300 館展示」、「グリーンウェイブ」、「生物多様性の日普及一斉キャンペーン」といった取組を実施する。

また、各主体の取組を一層促進するため、各主体の取組の連携促進のための場を設ける。また、引き続き、認定連携事業や生物多様性アクション大賞を通じて、優良な取組を発掘・広報することで、生物多様性に関する取組を日本全国に広げていく。

これらの取組を通じて、自然の恵みを意識したライフスタイルへの転換に向けた、社会的な機運の醸成を図る。

具体的な取組のロードマップは別紙 1 の通り。

### (2) 構成団体による取組

国民意識の変革を具体的な行動につなげ、目指すべき社会像を実現するために、構成団体はそれぞれの取組を行う。なお、具体的な取組のロードマップは別紙 2 の通り。

### (3) 構成団体の連携による取組

目指すべき社会像を実現するために、構成団体による個別の取組だけではなく、構成団体内外の連携した取組を行う。具体的な取組のロードマップは別紙 3 の通り。

※ 別紙に記載の取組のうち、参考指標や 2020 年の目標は、参考 1 に抜粋して整理している。

※ 別紙に記載の取組の詳細は、参考 2 に整理している。

別紙

具体的な取組のロードマップ(工程表)



取組	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)			
様々なツールによる普及啓発	1. ① 2. ① 3. ①② 3. ②②	UNDB-J	UNDB-J構成団体	・新たな協力団体の発掘・連携強化 ・ウェブによる取組強化	同左	同左	同左	同左	同左	約24.4万宣言 (2020. 3)	100万宣言
		日本動物園水族館協会 (JAZA) 国際自然保護連合 (IUCN-J)	JAZA加盟園館での取り組み促進 目標の20%達成	同左	同左	同左	同左	同左	同左	約9.5万宣言 (2019. 12)	10万宣言
		IUCN-J	JAZA (各園館)	・UNDB-Jロゴおりがみワークショップ ・動物園でのことも向けMV行動宣言活用事例紹介動画の作成公開	同左	同左	同左	同左	同左	同左	2558宣言 (2020. 3)
生物多様性の本種の普及啓発	2. ①	UNDB-J (香腸プロジェクトのiki-tomo推進事務局：日本自然保護協会)	図書館関係団体を通じた普及活動 ・地方自治体を通じた普及活動 ・新たな協力団体の発掘・調整 ・本箱寄贈プロジェクトの実施	同左	同左	同左	同左	同左	同左	232館・施設等 (2020. 3)	300館・施設等
		IUCN-J	日本自然保護協会、CEPAジャバ、国連生物多様性の10年市民ネットワーク、日本動物園水族館協会、生物多様性わかものネットワーク、UNDB-J構成団体	501宣言 (16年度) ・拡大のためのデータベース整備 ・生物多様性ネットワーク、生物多様性シオン大賞等を通じた宣言集め (～H32) ・認定連携事業実施団体との協働模索 ・地域セミナー開催	783宣言 (17年度) ・UNDB-J構成団体との連携を通じた拡大 ・認定連携事業実施団体との協働を通じた拡大 ・生物多様性シオン大賞等を通じた宣言集め (～H32) ・地域セミナー開催	902宣言 (18年度) 同左	1054宣言 (19年度) 同左	2020宣言 (20年末) 同左	1054宣言 (2020. 03)	2020宣言	
グリーンウェイブ	1. ① 2. ① 3. ①② 3. ②②	UNDB-J (iki-tomo推進事務局：国土緑化推進機構)	環境省、林野庁、国土交通省	・グリーンウェイブの参加呼びかけ等の実施	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
		UNDB-J (iki-tomo推進事務局：IUCN-J)	環境省、林野庁、国土交通省	・グリーンウェイブの参加呼びかけ等の実施	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
連携事業の認定	4. ③	UNDB-J (iki-tomo推進事務局：IUCN-J)		連携事業の認定	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左

取組	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)			
生物多様性アクション大賞	1. ①② 2. ② 3. ② 4. ②③	UNDB-J (iki-tomo推進事務局: OEPAジャパン)	UNDB-J構成団体	生物多様性アクション大賞の実施	同左	同左	同左	生物多様性アクションフォーラムの開催	応募数	2013年 122件 2014年 124件 2015年 135件 2016年 104件 2017年 116件 2018年 100件 2019年 91件	
		UNDB-J		岐阜県で開催	神戸市で開催	1回開催	1回開催	1回開催			
様々な形での情報発信等	4. ②	UNDB-J		岡山市、仙台市、東京都で開催	全国2カ所で開催	全国数カ所で開催	同左	同左			
		UNDB-J		UNDB-J							
特別事業	4. ③	UNDB-J		COP13サイドイベント (UNDB-Day) における国際的発信		COP14における国際的発信		COP15における国際的発信 UNDB-J総括会合 (仮)			
		UNDB-J (iki-tomo推進事務局: 日本自然保護協会)		UNDB-Jウェブサイトに、生物多様性.comによる情報発信の実施	同左	同左	同左	同左			
地球生きもの応援団、小冊子iki-tomo等による様々な主体への働きかけの実施	1. ① 2. ① 3. ①② 3. ②②	UNDB-J		地球生きもの応援団、小冊子iki-tomo等による様々な主体への働きかけの実施	同左	同左	同左	同左			
		UNDB-J									
関連する会合等				COP13		COP14		COP15			
その他イベント等						第6回国別報告書提出 ・愛知目標の達成状況をCBD事務局に報告		・GB05で愛知目標の達成状況評価 ・ポスト愛知目標採択			

■構成団体による取組（「取組の方向性」に沿った取組）

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性1. ①企業、消費者に対して、生物多様性に配慮した生産・流通・消費活動等に関する教育・普及啓発を行う。	1-1	1.① 2.② 3.②	経団連自然保護協議会	環境省、外務省、農林水産省、関係NGO等、関係企業、基金、寄附団体、基金、O等、研究機関、地方公共団体等	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（168件、約1億4,900万円） (2)平成29年度支援に係る公募を実施 (3)創設25周年記念特別助成事業の企画・募集等（平成29～31年度の3年間で1億5,000万円の支援） (4)現地視察会の開催	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（168件、約1億4,900万円） (2)平成30年度支援に係る公募を実施 (3)協議会・基金創設25周年記念特別助成事業の企画・募集等（平成30～31年度の2年度の第2年度助成の実施） (4)現地視察会の開催	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（72件、約1億5,906万円） (2)令和2年度支援に係る公募を実施 (3)協議会・基金創設25周年記念特別助成事業（3か年）の総括助成の実施 (4)現地視察会の開催	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（82件、約1億7,392万円） (2)令和3年度支援に係る公募を実施 (3)協議会・基金創設25周年記念特別助成事業（3か年）の総括助成の実施 (4)現地視察会の開催			
企業とNGOの交流・協働	1-2	1.① 2.② 4.②	経団連自然保護協議会	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体、企業、団体、NGO等や大学、研究機関、地方公共団体等	(1)企業とNGOの交流と協働をテーマとしたシンポジウムの開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（2017年1月） (3)海外視察ミッション（マニラ、バタナム、10月） (4)国内視察（鳥取県）等を実施（11月） (5)協議会ホームページ上にビジネスマッチング方式の「連携・協働先募集コーナー」の創設（11月）	(1)協議会・基金創設25周年記念式典、NGO等との交流会の開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（12月） (3)海外視察ミッション（インドネシア、10月） (4)国内視察（北海道、横浜）の実施（9月、11月、1月）	(1)協議会・基金シンポジウム、NGO等との交流会の開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（12月） (3)海外視察ミッション（実施）（12月、10月） (4)国内視察の実施（長野、佐渡、7月）	(1)協議会・基金シンポジウム、NGO等との交流会の開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（12月） (3)海外視察ミッション（実施）（先行・時期未定） (4)国内視察の実施（青森・白神山地、9月）			
企業への啓発・情報提供	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体、企業、団体、NGO等や大学、研究機関、地方公共団体等	(1)経団連環境基礎講座の開催（8月～12月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月） (5)協議会・基金創設25周年記念講演の開催（5月）	(1)経団連環境基礎講座の開催（8月～12月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月） (5)協議会・基金創設25周年記念講演の開催（5月）	(1)経団連生物多様性宣言と「その手引き」の改定（10月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)講演会・シンポジウム等の開催（5月） (5)生物多様性民間参画ハートネット会合の開催（2月）	(1)国内外へアピールするため、「経団連生物多様性宣言」に賛同する企業を募集（1月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)講演会・シンポジウム等の開催（5月） (5)生物多様性民間参画ハートネット会合の開催（2月） *生物多様性民間参画ハートネット会合はコロナウィルスにより中止（2月）	(1)経団連生物多様性宣言「Jの賛同企業」の一覧と取組事例集を日英で作成（6月） (2)機関誌の発行（年3回） (3)講演会・シンポジウム等の開催（未定） (4)生物多様性民間参画ハートネット会合の開催（2月）		

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	指標	最新値	2020年の目標
生物多様性保全を通じた地域創生支援	1-4	1.0② 2.0② 3.0①② 4.0②	経団連自然保護協議会	環境省、農林水産省、地産地消推進機構、事業者団体、企業、団体、NGO等や大学・研究機関、地方公共団体等	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-J連定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-J連定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-J連定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(最終年度)(6月、9月) (2)石巻・南三陸プロジェクトの実施(通年) (3)「生物多様性の本箱」の寄贈、企業への寄贈の働きかけ(通年)	全都道府県に「生物多様性の本箱」1の寄贈数	44都道府県、49市所(2020年3月末時点)	少なくとも全都道府県に1セットずつ寄贈	
JA都市農村交流優良活動表彰	9-1	1.0① 3.0①①	JA都市農村交流全国協議会(事務局、JA全中)	国際自然保護連合日本委員会	・活動表彰を行い、3JAを表彰、事例をグループ内で共有。 ・関東を中心として講演・カタリストを育成	・活動表彰を行い、3JAを表彰、事例をグループ内で共有。 ・関東を中心として講演・カタリストを育成	・活動表彰を行い、3JAを表彰、事例をグループ内で共有していく。 ・地方でも講演・カタリストを育成	・全国に講演・カタリストを育成	・活動表彰を行う(予定)。 ・全国で講演・カタリストを育成	①講演回数 ②カタリスト講師/育成人数	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①累積講演回数 ②累積育成人数 10人
生物多様性カタリスト	18-3	1.0① 4.0①	生物多様性ネットワークのネットワーク	国際自然保護連合	・関東を中心として講演・カタリストを育成	・関東を中心として講演・カタリストを育成	・地方でも講演・カタリストを育成	・全国に講演・カタリストを育成	・活動表彰を行う(予定)。 ・全国で講演・カタリストを育成	①講演回数 ②カタリスト講師/育成人数	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①累積講演回数 ②累積育成人数 10人
多様な主体の参加による協同活動	20-1	1.0② 2.0② 3.0①② 4.0②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク	政府機関、市民団体、NGO、研究機関、企業、大学、地方自治体等	・関東を中心として講演・カタリストを育成 ・地方でも講演・カタリストを育成	・関東を中心として講演・カタリストを育成 ・地方でも講演・カタリストを育成	・地方でも講演・カタリストを育成	・全国に講演・カタリストを育成	・活動表彰を行う(予定)。 ・全国で講演・カタリストを育成	①講演回数 ②カタリスト講師/育成人数	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①累積講演回数 ②累積育成人数 10人
新・木づかい顕彰「ウツト子サイン賞」	23-7	1.0②	(公社)国土緑化推進機構、(NPO)活木活用ネットワーク、㈱ニハ・サルティン総合研究所	林野庁、各種森林、林業、木材団体	・関東を中心として講演・カタリストを育成 ・地方でも講演・カタリストを育成	・関東を中心として講演・カタリストを育成 ・地方でも講演・カタリストを育成	・地方でも講演・カタリストを育成	・全国に講演・カタリストを育成	・活動表彰を行う(予定)。 ・全国で講演・カタリストを育成	①講演回数 ②カタリスト講師/育成人数	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①累積講演回数 ②累積育成人数 10人
経済産業分野における生物多様性関連の取組み	29-1	1.0①	経済産業省	(一財)バイオインダストリー協会(独)製品評価技術基盤機構	・我が国産業界が運送資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ・ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ・国内取得書発給開始	・我が国産業界が運送資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ・ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ・国内取得書発給開始	・我が国産業界が運送資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ・ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ・国内取得書発給開始	・我が国産業界が運送資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ・ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ・国内取得書発給開始	・活動表彰を行う(予定)。 ・全国で講演・カタリストを育成	①応募数 ②入賞数	令和元年度 ①413点 ②197点(うち上位賞23点)	第17回入賞を兼ね、参加機関と微生物資源の保全とその持続可能な利用についての意見交換を行う。
生物多様性国家戦略の推進	31-1	全て	環境省	環境省、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省等	・各種取組の推進 ・関係省庁が取り組む具体的な施策の関連省庁連絡会議での公表	・各種取組の推進 ・第6回別報告書作成に向け「次期国家戦略」の検討	・各種取組の推進 ・第6回別報告書作成に向け「次期国家戦略」の検討	・各種取組の推進 ・第6回別報告書作成に向け「次期国家戦略」の検討	・各種取組の推進 ・第6回別報告書作成に向け「次期国家戦略」の検討	生物多様性国家戦略に定める国別目標の関連指標の改善割合 (※現状維持が目標のものには現状維持も含む)	75%	100%

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
名古屋議定書に関する取組	31-2	1.①	環境省	外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、内閣官庁、財務省、厚生労働省	・可能な限り早期の名古屋議定書の締結と国内措置の実施に向けた国内措置検討 ・名古屋議定書及びABSについての普及啓発	・名古屋議定書の国内措置の公布、締結 ・国内措置の実施 ・ABS名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発	・国内措置の実施 ・ABS名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発	同左	同左	55 ・諸外国のABS法令の和訳作成と情報提供(数)	60
生物多様性の経済価値評価	31-5	1.① 4.③	環境省		・企業のCSR活動等による生物多様性保全への貢献度の経済価値評価の試行 ・生物多様性の経済価値評価に関する各種情報収集、発信	・企業のCSR活動等による生物多様性保全への貢献度の経済価値評価の試行 ・企業のCSR活動等に関わる生態系サービス価値評価、算定のためのツールの作成 ・生物多様性の経済価値評価に関する各種情報収集、発信	・サブライチエーンを含めた企業の本業における生態系への負荷量評価の手法、意義の整理 ・生物多様性の経済価値評価に関する各種情報の収集、発信	同左	同左	なし	なし
経済社会における生物多様性の保全等の促進	31-6	1.①	環境省		・事業者団体向け「手引き(案)」公表及び普及等 ・民間参画ガイドラインの改定に向けた検討	・事業者団体向け「手引き(案)」の普及等 ・民間参画ガイドラインの普及等(必要に応じて改訂検討)	・前年度の取組状況を踏まえ、必要な検討等を実施	・生物多様性に関する民間参画事例の収集と整理 ・生物多様性開催地の拡大 ・サービスの情報収集	・生物多様性に関する民間参画事例の収集と情報整理 ・生物多様性に関する技術情報の拡大 ・サービスの情報収集	404宣言(2019.3)	400宣言
ワシントン条約を通じた絶滅危惧種に対する国際取引の影響の抑制	31-16	1.①	環境省	経産省、外務省、農林水産省、適正な象牙の推進に関する官民協議会、企業、NGO等	・COPI7での適切な対応 ・普及啓発等	・COPI7での適切な対応 ・普及啓発等	同左	・COPI8決定事項の履行 ・普及啓発等	ワシントン条約該当物品の輸入差止め実績	674件(令和元年)	400件
MY行動宣言・農林水産関係アクションの推進	28-1	1.①②	農林水産省、環境省、JA全中、日本全農、全国漁業協同組合連合会、全国森林組合連合会、国土緑化推進機構、日本林業協会	UNDB-J事務局	・MY行動宣言・農林水産関係アクションのハンパレットを作成した。	・各種イベントにおけるMY行動宣言・農林水産関係アクションの普及	同左	同左	同左	6,602 (R1.1,848、H30.2,006、H29.2,748)	5万宣言

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程						2020年の目標	最新値	指標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	2020年(R2)			
日本発の水産エコラベルの普及促進	5-1	1. ① 3. ②, ①	大日本水産会	マリナ・エコラベル・ジャパン協議会、水産庁、各漁業、水産関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に認められる日本発の水産エコラベルの構築のための取組み(団体設立)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に認められる日本発の水産エコラベルとなるための認証規格の改定、再構築</li> <li>制度と取組の紹介、普及のための講習会の開催</li> </ul>	向左	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及のための講習会開催</li> <li>ローフードショーほかの展示会開催による広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外認証制度管理者と認証事業者および認証物のバイヤーを一堂が会し、取組の紹介と展示商談会を同時に行うラウンドミニミーティングの開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>65 (2020年2月)</li> <li>講習会300名</li> <li>ワーキングショップ240名 (2020年3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認証数</li> <li>イベントの参加者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認証数の倍増</li> <li>500名(延べ)</li> </ul>	

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性1. ②それぞれのもつ既存のツールを活用し、認証商品等の生物多様性に配慮した商品について、消費者に対して的確な情報提供を行う。												
生物多様性に配慮した農業の推進	25-1	1.② 3.②①②	全国農業協同組合連合会(JA全農)等	全国農業協同組合連合会(JA全農)等	・水田部会の開催(平成28年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	・水田部会の開催(平成29年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	・水田部会の開催(平成30年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	・水田部会の開催(令和元年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	同左	水田部会の開催 4回	5回(5年累計)	
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会									
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会									
多様な主体の参加による協同活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMA-イニシアティブ推進ネットワーク									
新・木づかい顕彰「うつろデザイン賞」【再掲】	23-7	1.①②	(公社)国土緑化推進機構、(NPO)活木活木ネットワーク、㈱エコハーバルデザイン総合研究所									
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省									

再掲のため施署名のみ

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性2. ① 自然のフィールドにおける自然体験活動や動物園、水族館、博物館、図書館等における環境学習の場において、学校教育とも連携しながら、生物多様性に関する普及啓発活動を行う。												
いきもの学びネット	14-3	2①② 4①②	日本動物園水族館協会	JAZA加盟館	同左	同左	同左	同左	同左	情報提供を行う情報提供を行っている園館数	情報提供実施園館数6園館11件(令和元年度)	15園館以上が何らかの形で情報提供を行っている
UNB-J事業の周知啓もう支援	15-1	2①	日本博物館協会	日博協加盟館	・情報元となる動物園水族館の参加数を増やす努力をする ・リンク先のウェブサイトを増やす努力をする ・機関誌による一斉掲載	・情報元となる動物園水族館の参加数を増やす努力をする ・リンク先のウェブサイトを増やす努力をする ・個別博物館への働きかけ	・機関誌による情報提供 ・ウェブによる取組強化 ・ICOM京都大会でのPR	・機関誌による情報提供 ・ウェブによる取組強化 ・博物館大会での報告	同左	総合博物館、自然史系博物館での情報提供	10館	全国の支部、会員への周知・活動への働きかけ。
ことごとプロジェクト	18-1	2①	生物多様性わかものネットワーク		・実体験を交えた啓発 ・企画づくり支援 ・企画運営支援	・実体験を交えた啓発 ・通年の企画づくり支援 ・企画運営支援	同左	同左 ・地方のフィールドで活動する人たちと協働	同左	参加者人数	54人	累積参加者数 200人
自然ふれあい行事	19-1	2①②	一般財団法人自然公園財団	地元小中学校、地元の植物研究会等、各地の国立公園のパークボランティア	・地元小中学校や植物研究会との連携 ・国立公園のパークボランティアとの連携 ・ホームページ告知強化	・地元小中学校や植物研究会との連携 ・国立公園のパークボランティアとの連携 ・ホームページ告知強化	同左	同左	同左	参加者数	R01:24,300人	3万人を目標に参加者数の増加を図る
自然しらべ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～	21-2	2① 4①②	公益財団法人日本自然保護協会	市民、市民団体、NGO、研究者、企業、博物館、環境省、文部科学省	・自然しらべ2016! 海辺の花しらべ! 海辺の自然の健康診断 ・参加者:3121人 全国466カ所の海岸から海岸植物、砂浜の健全度を市民調査。アンケート写真:7500枚 ・海辺の写真コンテスト、砂浜教室3回開催	・自然しらべ2017! うなぎ自給で川・海しらべ!」 ・参加数:1194人、402カ所の河川からデータ収集 ・自然への愛着と、絶滅危惧種保全、多様な生育生息環境の保全、河川の上下流の連続性を回復への関心強化	・自然しらべ2018 身近な自然の健康診断市民調査「身近なアリスらべ」 ・参加者:611人、2年で287地点、81種のアリスらべの報告を得た。専門家による外産種識別講座 ・2019年はアリスらべのアリをわか所で確認。市民が外来種検知の大きな役割を担える状況がつくれた。	・自然科学のツール活用を通じて身近な自然の健康診断市民調査 ・参加目標:3000人 ・自然への愛着と、絶滅危惧種保全、多様な生育生息環境の保全への関心強化	参加者	6516人(4年累積)	1万人(5年累積)	

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	指標	最新値	2020年の目標
国連大学/地方EPOとの協働による生物多様性の普及	22-1	2① 4.①②	GEOC	環境省、国連大学、地方EPO、NPO、自治体・中間支援組織、ESD実践団体等	・国際生物多様性の日シンポジウム「生物多様性の主流化 人々と暮らしを支える森川海」(5/21) ・UNU-GEOCアクティブ展示「SDGsへの挑戦～生物多様性と農業、技術-」(7/15) ・「つな環」公開座談会「Made in Earth」生物多様性の主流化に向けて、衣食性を考える(8/20) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(5月～3月) ・「国連生物多様性の10年」展示(通年) ・UNDB～推薦「子供向け図書」(愛称:「生物多様性の本箱」～みんなが生きものどつながる100冊～)展示(通年) ・「グリーンウェイブ 2016」に参加(プランター田植え、グリーンカーテンの実施)	・国際生物多様性の日「生物多様性と持続可能な観光シンポジウム～生物多様性とSDGs～」(5/24) ・国際サンゴ礁年2018記念セミナー「サンゴと未来」(6/20) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(通年) ・「お山ん画」コラボレーション企画展示(通年) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(5月～3月) ・「巨樹を守る!」ハネ展示(3月) ・「国連生物多様性の10年」展示(通年) ・UNDB～推薦「子供向け図書」(愛称:「生物多様性の本箱」～みんなが生きものどつながる100冊～)展示(通年) ・「グリーンウェイブ 2016」に参加(プランター田植え、グリーンカーテンの実施)	・国際生物多様性の日「生物多様性と持続可能な観光シンポジウム～生物多様性とSDGs～」(5/11) ・SDGsへの挑戦～サンゴ礁の現状と保全の取組」(6/23) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(通年) ・「お山ん画」コラボレーション企画展示(通年) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(5月～3月) ・「国連生物多様性の10年」展示(通年) ・UNDB～推薦「子供向け図書」(愛称:「生物多様性の本箱」～みんなが生きものどつながる100冊～)展示(通年) ・「グリーンウェイブ 2018」に参加(グリーンカーテンの実施)	・国際生物多様性の日「生物多様性と持続可能な観光シンポジウム～生物多様性とSDGs～」(5/11) ・SDGsへの挑戦～サンゴ礁の現状と保全の取組」(6/23) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(通年) ・「お山ん画」コラボレーション企画展示(通年) ・「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる一日」展示(5月～3月) ・「国連生物多様性の10年」展示(通年) ・UNDB～推薦「子供向け図書」(愛称:「生物多様性の本箱」～みんなが生きものどつながる100冊～)展示(通年) ・「グリーンウェイブ 2018」に参加(グリーンカーテンの実施)	コロナウイルス感染拡大の状況を見極めながら、オンラインのイベント実施も検討している。	メルマガ 年間25分 機関紙「つな環」 ●つな環34号: 2件 ・「脱炭素」を 起こす～平成から令和へ～ ・国内事例「生物多様性の主流化に向けた取り組み」 みみ/千葉県いすみ市 ●つな環35号: 2件 ・GEOC/EPOからのお知らせ「未来へつなぐ『国連生物多様性の10年』はいかり」 ・「データで見る気候変動による影響」 総合計 29件	年間30件	
森林ESDの推進	23-2	2① 3.(2)②	(公社)国土緑化推進機構、美しい森林づくり全国推進会議	経団連自然保護協議会、林野庁、都道府県、都道府県緑化推進委員会、企業・NPO等	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・教科書会社への説明会等の教育分野との連携 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催	・研究会の開催 ・ガイドブックの製作 ・プロフェッショナル・アドバイザーの意見交換会開催
普及教材「木の木の物語」制作・配布	23-3	2①	(公社)国土緑化推進機構、生物多様性と子どもへの森」キャンペーン実行委員会	(一社)日本森林インストラクター協会、(公社)アイスカ	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(次年度への継続) ・図書館と連携した推進体制の整備	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及	・全国の「都道府県の木」をカバーした教材の作成 ・学校教育(生活科、理科、社会等)に対応させた教材の書籍化(配布) ・林野図書資料館と連携した普及
機関紙における生物多様性に関する掲載	23-4	2①	(公社)国土緑化推進機構	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事	・子ども向け連載記事 ・絶滅危惧種に関する連載記事

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
東日本大震災復興支援 【海岸防災林再生活動】	23-5	2①②	(公社)国土緑化推進機構、(一社)宮城県緑化推進委員会、福島県森林・林業・緑化協会	林野庁、岩手県、宮城県、福島県、(一社)岩手県緑化推進委員会等	企業・NPO等向けセミナー開催、現地検討会の開催、情報発信、企業と地域NPOとのマッチング等 ・「緑の基金」(東日本大震災復興事業)を通じた、地域住民や企業、NPO等の参画した海岸防災林再生活動を支援	企業・NPO等向けセミナー開催、現地検討会の開催、情報発信、企業と地域NPOとのマッチング等 ・「緑の基金」(東日本大震災復興事業)を通じた、地域住民や企業、NPO等の参画した海岸防災林再生活動を支援	企業・NPO等向けセミナー開催、現地検討会の開催、情報発信、企業と地域NPOとのマッチング等 ・「緑の基金」(東日本大震災復興事業)を通じた、地域住民や企業、NPO等の参画した海岸防災林再生活動を支援	企業・NPO等向けセミナー開催、現地検討会の開催、情報発信、企業と地域NPOとのマッチング等 ・「緑の基金」(東日本大震災復興事業)を通じた、地域住民や企業、NPO等の参画した海岸防災林再生活動を支援			
みどりの感謝祭 【みどりふれあうフェスティバル】	23-10	2①	農林水産省・林野庁、東京都、(公社)国土緑化推進機構ほか	国土連生物多様性の10年日本委員会、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会、図書館流通センター	式典 ・ステージ ・体験プログラム ・出展ブース ・飲食ブース ・クイズラリー	式典 ・ステージ ・体験プログラム ・出展ブース ・飲食ブース ・クイズラリー	式典 ・ステージ ・体験プログラム ・出展ブース ・飲食ブース ・クイズラリー	式典 ・ステージ ・体験プログラム ・出展ブース ・飲食ブース ・クイズラリー	中止(新型コロナウイルスの拡大を要して)		
エコプロ2020 【森林から生まれるエコライフ展】	23-11	2①	(公社)国土緑化推進機構、美しい森林づくり全国推進会議	日本経済新聞社、(公社)産業環境管理協会、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会	テーマゾーン ・ステージ ・スタンプラリー ・会場木造化 ・記念シンポジウム	テーマゾーン ・ステージ ・スタンプラリー ・会場木造化 ・記念シンポジウム	テーマゾーン ・ステージ ・スタンプラリー ・会場木造化 ・セミナー	テーマゾーン ・ステージ ・会場木造化 ・セミナー			
自然公園等利用ふれあ い推進事業	31-11	2①	環境省	地方公共団体	関係機関と連携し、国立公園等において、子どもを対象とした自然ふれあい行事を実施	同左	同左	同左	参加者数 R1:20,733人	3万人	
絶滅のおそれのある野 生生物種の保全	31-12	2①②	環境省	公益社団法人日本動物園水族館協会、公益社団法人日本植物園協会、地方公共団体、企業、NGO等	・希少種保全に関する普及啓発活動 ・レッドリストの作成・更新 ・国内希少種の追加指定等及び保護増進事業計画の新規策定	同左	同左	同左	国内希少野生動物種の追加指定種数	270種(令和元年)	
外来種対策の推進	31-14	2①②	環境省	公益社団法人日本動物園水族館協会、公益社団法人日本植物園協会、地方公共団体、各地の外来生物対策協議会、NGO等	・外来種に関する広報、普及啓発の推進	同左	同左	同左	「外来種」という言葉の意匠を知っている人の割合	59.3%(2019年度)	
生物多様性保全を通じ た地域創生支援【再掲】	1-4	1①② 2①② 3②①② 4①②	経団連自然保護協議会	経団連自然保護協議会							
生物多様性国家戦略の 推進【再掲】	31-1	全て	環境省								

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性2. ② 国、自治体、NPO等の民間団体、地域住民、農林漁業者、企業、専門家等の様々な関係者の連携による自然環境保全活動を推進する。											
水産多面的機能発揮対策	6-1	2.② 3.②①	JF全漁連、漁業者、地域住民等		同左	同左	同左	同左	同左	生物量の増加、参加人数等	(活動を行う全国約650の活動組織が、それぞれ活動水準の生物量の増加等の目標を設定)
漁民の薪づくり活動	6-2	2.②	JF全漁連、漁業者、地域住民等		同左	同左	同左	同左	同左	①植樹本数 ②参加人数	平成28年 ①49,921本 ②15,471人
外来種駆除等環境保全活動	11-1	2.②	(一社)日本旅行業協会	外来種駆除活動をはじめ環境保全活動を行うNPO、NGOや地域行政との協力	同左	当協会地方支部(北海道、関東、中部、関西)の在る7地域で、外来種駆除活動や清掃活動などの環境保全活動を実施	当協会地方支部6地域が中心となり外来種駆除をはじめとした環境保全活動を実施。中四国地区のみコロナの影響により中止となる。(3月)	当協会地方支部7地域が中心となり外来種駆除をはじめとした環境保全活動を実施	同左	①参加者数 ②実施地域数	(2019年度) ①合計168名参加 ②6地域で実施
JATAの連携プロジェクト	11-2	2.②	(一社)日本旅行業協会	地域行政や交通機関、宿泊観光等の地域の観光事業者	同左	岩手県菅代村南部～田野畑村「みちのく潮風トレイル」地域で実施	宮城県仙沼市～南三陸町の「みちのく潮風トレイル」地域で実施	宮城県石巻市、東松島市、塩釜市エリアでの「みちのく潮風トレイル」地域で実施予定	同左	①参加者数	(2019年度)末までの累積) ①3333名参加
植物多様性保全拠点ネットワーク事業	13-1	2.②	日本植物園協会	全国各地の植物園、博物館等施設、NPO、植物研究団体、愛好会、研究者、地方公共団体等	同左	・1182種の域外保全 ・384種の種子保存 ・647種のDB登録 ・ナショナルコレクション(野生種調査種間わず、生息域外保全、334種の遺伝資源としての植物保全)認定開始	・1241種の域外保全 ・431種の種子保存 ・700種のDB登録 ・種子保存受入れが新(植物園の絶滅危惧種保有数)開始	・2020年目標335種の生息域外保全を目指して収集活動の継続 ・2020年目標の成長報告と活動評価、報告	同左	植物園未保有種で新たに生息域外保全の種子保存が実施された絶滅危惧種の数	・生息域外保全数 70% 1241種 (2019.4) ・種子・孢子等保存数 25% 451種 (2020.3)
生物多様性わかもの白書	18-5	2.② 4.③	国際自然保護連合日本委員会	生物多様性わかものネットワーク	同左	・Ver1について見直し ・Ver2についての準備	・Ver2について見直し ・Ver3についての作成	・Ver2について見直し ・Ver3についての作成	同左	配布部数	日本語版(vol.17ルバーション): 640部 英語版(GOP13にて、紙略版): 180部 vol.2(日本語版のみ): 40部

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	指標	最新値	2020年の目標
自然観察指導員講習会・自然の守り手の育成	21-1	2(2) 4.①	公益財団法人 日本自然保護協会	地方公共団体、 企業、NGO、市 民団体、大学等	自主・新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員545人・ネイチュア・フーリング研修会・若手育成支援・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者4000人超	自主・新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員545人・ネイチュア・フーリング研修会・若手育成支援・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者4000人超	自主・新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員562人・研修会・若手育成支援・新たな自然の守り手育成・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者12514人	自主・新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員470人・研修会・若手育成支援・新たな自然の守り手育成・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者13637人	自主・新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員500人・研修会・若手育成支援・新たな自然の守り手育成・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者7000人超	①指導員養成回数 ②イベント参加者数	36229人(4年累計) ①、②の合算で5万人(5年累計)	①、②の合算で5万人(5年累計)
STOP! 日本の絶滅危惧種	21-3	2(2) 4.①②③	公益財団法人 日本自然保護協会	市民団体、NGO、企業、研究者、環境省、動物植物園、博物館	イヌワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノワグマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数1450件 ・地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング	イヌワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノワグマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数1322件 ・地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング	イヌワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノワグマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数1600件 ・地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング	イヌワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノワグマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数2500件 ・地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング	日本の絶滅危惧種保全活動への寄付者数	5572件(4年累計)	8000件(5年累計)	
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユネスコエコパーク登録支援・国有林の協働管理・保全事業人材育成～	21-4	2(2) 3(2)①② 4.①②	公益財団法人 日本自然保護協会	自治体、研究者、市民、環境省、林野庁、文部科学省、生物多様性自治体ネットワーク	生物多様性地域戦略策定自治体、エコパーク登録自治体での保全事業支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・自然資源を活かした地域創生保全人材育成23人/シンポジウム参加者350人 ・民間保護地域、Green List研究	生物多様性地域戦略策定自治体、エコパーク登録自治体での保全事業支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・ユネスコエコパーク登録支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・二ホンジカカの低密度管理の検討	生物多様性地域戦略策定自治体、エコパーク登録自治体での保全事業支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・ユネスコエコパーク登録支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・二ホンジカカの低密度管理の検討	生物多様性地域戦略策定自治体、エコパーク登録自治体での保全事業支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・ユネスコエコパーク登録支援活動(綾町・みなかみ町・志賀・只見町・南アルプス・国有林の協働管理(赤谷・綾)) ・二ホンジカカの低密度管理の検討	①地域戦略策定 ②エコパーク登録地域支援回数 ③保全事業育成人材数	①7件 ②人材493人(4年累計)	①38件 ②人材500人(5年累計)	
「グリーンウェイブ」	23-1	2(2)	(公社)国土緑化推進機構、生物多様性と子どもノボル実行委員会	美しい森林づくり推進会議	キックオフ・フォーラム開催 ・基調報告、事例報告 ・「ノボル」イノベーション	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ」金実施	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ」金実施	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ」金実施	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ」金実施			
「緑の募金(使途限定募金(熊本地震復興支援事業))」	23-6	2(2)	(公社)国土緑化推進機構	(公社)熊本県緑化推進委員会、各種NPO等	熊本県産産材を使用し、県内加工の「くまモン」キャラクターグッズを用いた募金の呼びかけ ・避難所等への間伐材等使用什物の寄贈、仮設住宅への「アヲカ」等の寄贈、森林復旧等の実施	熊本県産産材を使用し、県内加工の「くまモン」キャラクターグッズを用いた募金の呼びかけ ・避難所等への間伐材等使用什物の寄贈、仮設住宅への「アヲカ」等の寄贈、森林復旧等の実施	熊本県産産材を使用し、県内加工の「くまモン」キャラクターグッズを用いた募金の呼びかけ ・仮設住宅への「アヲカ」等の寄贈、園庭緑化等の実施	熊本県産産材を使用し、県内加工の「くまモン」キャラクターグッズを用いた募金の呼びかけ ・仮設住宅への「アヲカ」等の寄贈、園庭緑化等の実施	熊本県産産材を使用し、県内加工の「くまモン」キャラクターグッズを用いた募金の呼びかけ ・仮設住宅への「アヲカ」等の寄贈、園庭緑化等の実施			

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	指標	最新値	2020年の目標
「緑の募金」「緑と水の森林ファンダ」を通じたNPO等による生物多様性取組のための森づくり・木づかい活動支援	23-8	2②	(公社)国土緑化推進機構	各都道府県緑化推進委員会、助成先のNPO等	【緑の募金】 「国内緑化事業(森林整備、緑化推進)」、「国際緑化事業」 【緑と水の森林ファンダ】 「普及啓発」「調査研究」「活動基盤の整備」 「国際交流」	【緑の募金】 「国内緑化事業(森林整備、緑化推進)」、「国際緑化事業」 【緑と水の森林ファンダ】 「普及啓発」「調査研究」「活動基盤の整備」 「国際交流」	【緑の募金】 「国内緑化事業(森林整備、緑化推進)」、「国際緑化事業」 【緑と水の森林ファンダ】 「普及啓発」「調査研究」「活動基盤の整備」 「国際交流」	【緑の募金】 「国内緑化事業(森林整備、緑化推進)」、「国際緑化事業」 【緑と水の森林ファンダ】 「普及啓発」「調査研究」「活動基盤の整備」 「国際交流」	【緑の募金】 「国内緑化事業(森林整備、緑化推進)」、「国際緑化事業」 【緑と水の森林ファンダ】 「普及啓発」「調査研究」「活動基盤の整備」 「国際交流」			
「国際森林子」2019みどりの地球を未来へ〜次世代へつなぐ森林と木の文化〜	23-9	2②	(公社)国土緑化推進機構	林野庁(公財)森林文化協会、(公財)オカサ環境(NPO)樹木・環境ネットワーク協会、(公財)PHOENIX、(一社)TOBUSA	・主催者挨拶、国連サミット紹介、ミス日本みどりの女神挨拶 ・映画上映会、木工教室、交流会等	・オーブニングレモニー、対談、お楽しみコンサート ・木工教室、森の教室、森のつみみ広場、ほくら松博物館見学	※調整中					
国民参加の森づくり活動の促進	28-1	2② 3②①②	農林水産省	公益財団法人国土緑化推進機構、美しい森づくり全国推進会議	・森づくりサポーター組織のネットワーク化 「美しい森づくり推進国民運動」を活かし、各種メディアを通じた情報発信、イベントの開催、出展等による普及啓発を行った。 ・森林づくりの場の提供と技術的支援、多様な主体が実施する活動支援(NPOや市民等幅広い層)による森づくり活動に対して支援した。	・森づくりサポーター組織のネットワーク化 「美しい森づくり推進国民運動」を活かし、各種メディアを通じた情報発信、イベントの開催、出展等による普及啓発を行った。 ・森林づくりの場の提供と技術的支援、多様な主体が実施する活動支援(NPOや市民等幅広い層)による森づくり活動に対して支援した。	・森づくりサポーター組織のネットワーク化 「美しい森づくり推進国民運動」を活かし、各種メディアを通じた情報発信、イベントの開催、出展等による普及啓発を行った。 ・森林づくりの場の提供と技術的支援、多様な主体が実施する活動支援(NPOや市民等幅広い層)による森づくり活動に対して支援した。	・森づくりサポーター組織のネットワーク化 「美しい森づくり推進国民運動」を活かし、各種メディアを通じた情報発信、イベントの開催、出展等による普及啓発を行った。 ・森林づくりの場の提供と技術的支援、多様な主体が実施する活動支援(NPOや市民等幅広い層)による森づくり活動に対して支援した。	・森づくりサポーター組織のネットワーク化 「美しい森づくり推進国民運動」を活かし、各種メディアを通じた情報発信、イベントの開催、出展等による普及啓発を行った。 ・森林づくりの場の提供と技術的支援、多様な主体が実施する活動支援(NPOや市民等幅広い層)による森づくり活動に対して支援した。			
漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動の支援	28-1	2②	農林水産省	全国漁業協同組合連合会、地域協議会	・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動を支援した。	・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動を支援した。	・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動を支援した。	・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動を支援した。	・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動を支援した。			
多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進(東京湾再生官民連携フォーラムによる取組のみ)	30-3	2② 3①②	国土交通省	東京湾再生官民連携フォーラム	・各プロジェクトチームの活動等、各種取組の推進 ・CSR-NPO未来交流会開催 ・東京湾大感謝祭2016開催 ・ウェブによる取組周知	・各プロジェクトチームの活動等、各種取組の推進 ・CSR-NPO未来交流会開催 ・東京湾大感謝祭開催 ・ウェブによる取組周知	・各プロジェクトチームの活動等、各種取組の推進 ・CSR-NPO未来交流会開催 ・ウェブによる取組周知	・各プロジェクトチームの活動等、各種取組の推進 ・CSR-NPO未来交流会開催 ・ウェブによる取組周知	・各プロジェクトチームの活動等、各種取組の推進 ・CSR-NPO未来交流会開催 ・ウェブによる取組周知			
生物多様性地域戦略の策定促進	31-3	2② 4②	環境省	生物多様性官民連携ネットワーク等	・生物多様性地域戦略策定の引き(改訂版)の普及やこれに基づく助言による策定支援 ・地域戦略の分析や策定済み自治体のヒアリング等 ・地域戦略が有効に機能している事例収集等	・地域戦略の分析や策定済み自治体のヒアリング等 ・地域戦略が有効に機能している事例収集等 ・上記「情報収集書」を活用した自治体に対する支援	・地域戦略の分析や策定済み自治体のヒアリング等 ・地域戦略が有効に機能している事例収集等 ・上記「情報収集書」を活用した自治体に対する支援	・地域戦略の分析や策定済み自治体のヒアリング等 ・地域戦略が有効に機能している事例収集等 ・上記「情報収集書」を活用した自治体に対する支援	・地域戦略の分析や策定済み自治体のヒアリング等 ・地域戦略が有効に機能している事例収集等 ・上記「情報収集書」を活用した自治体に対する支援	都道府県の生物多様性地域戦略策定数	44	47

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標	
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)				
地域における生物多様性保全活動支援	31-4	2②	環境省	地方自治体、NPO、地域の関係団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支障事業による地域の自主的な活動の取組支援</li> <li>・自治体ネットワークの活動、運営等を支援</li> <li>・各地域の活動に関する情報収集・発信</li> </ul>	同左	同左	同左	同左	同左	生物多様性保全推進支援事業数	68	62
自然再生の取り組みの推進	31-7	2② 4①②③	環境省	国土交通省、農林水産省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国6カ所の国立公園において、自然再生事業を実施した。</li> <li>・各地で実施される自然再生活動に対して、技術的課題の解消に向けた検討を行うなど、自然再生の推進を図った。</li> <li>・自然再生専門家会議を1回開催した。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国6カ所の国立公園において、自然再生事業を実施した。</li> <li>・各地で実施される自然再生活動に対して、技術的課題の解消に向けた検討を行うなど、自然再生の推進を図った。</li> <li>・自然再生専門家会議を1回開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国6箇所の国立公園において、自然再生施設の実施した。</li> <li>・自然再生活動にかかわる普及啓発を行うとともに、各地で実施される自然再生事業等に対して支援等を行った。</li> <li>・自然再生基本方針の策定を閣議決定した。</li> <li>・自然再生専門家会議を2回開催した。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の国立公園における自然再生施設の整備等の実施。</li> <li>・各地で実施される自然再生活動への支援、推進の開催。</li> </ul>			
世界自然遺産登録への取組及び登録地域の自然環境保全	31-8	2②	環境省		<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の世界遺産地域について、管理体制と保全施策を充実するとともに、適切な保全管理を推進</li> <li>・国内候補地について、世界自然遺産登録を目指すとして、国際自然保護連合(IUCN)の現地調査の受入れ等を行った。</li> <li>・国内候補地について、平成29年2月1日に世界遺産登録を推薦書をユネスコに提出。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の世界遺産地域について、管理体制と保全施策を充実するとともに、適切な保全管理を推進</li> <li>・国内候補地について、平成30年5月に世界遺産委員会からの諮問機関(LUCN)から記載延期の勧告を受け、推薦を一旦取り下げたが、必要な対応を行った上で平成31年2月1日に世界遺産登録書を再度ユネスコに提出。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の世界遺産地域について、管理体制と保全施策を充実するとともに、適切な保全管理を推進</li> <li>・国内候補地について、平成30年5月に世界遺産委員会からの諮問機関(LUCN)から記載延期の勧告を受け、推薦を一旦取り下げたが、必要な対応を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界自然遺産地域への広域的保全管理の実施地域</li> </ul>	4	5	
生物多様性の観点から重要な高い湿地における保全の推進	31-9	2②	環境省	都道府県、市町村等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の観点から重要な高い湿地を公表した。また、重要な湿地に関するパンフレットを作成し、その普及啓発を図った。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の観点から重要な高い湿地の保全上の配慮を促す基礎資料等として活用し、湿地の保全を推進する。</li> <li>・生物多様性の観点から重要な高い湿地の保全の拡充に向けた調査を行った。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の観点から重要な高い湿地の保全上の配慮を促す基礎資料等として活用し、湿地の保全を推進する。</li> <li>・生物多様性の観点から重要な高い湿地の保全の拡充に向けた調査を行った。</li> </ul>				
里地里山保全行動計画の推進	31-10	2②	環境省		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特約的な取組事例等を継続的に情報発信</li> <li>・本質/バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画事業により、34自治体において、木質・草本質系バイオマス設備導入に向けた調査・調査の実施及び計画を策定</li> <li>・重要里地里山500パンフレットを作成し、各都道府県へ配布。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続支援(H28採択の25自治体については、H31選フォロアップ、H29採択の34自治体についてはR2選フォロアップ)</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続支援(H28採択の25自治体については、H31選フォロアップ、H29採択の34自治体についてはR2選フォロアップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続支援(H28採択の34自治体についてはR2選フォロアップ)</li> </ul>			

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
鳥獣保護管理の推進	31-13	2.② 4.①	環境省	農林水産省、地方公共団体、認定鳥獣捕獲事業者等	同左	同左	同左	同左	同左	【平成29年度】二ホンツシギ約310万頭、イノシシ約88万頭(ともに推定個体数の中央値)	2023年度に二ホンツシギ・イノシシの生鳥数を半減させる(参考程度)。
ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発	31-15	2.② 3.②①② 4.②	環境省	農林水産省、国土交通省、地方公共団体、NPO、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合	同左	同左	同左	同左	同左	52(R2年3月末現在)	56
公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援【再掲】	1-1	1.① 2.② 3.②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
企業とNGOの連携、協働の促進【再掲】	1-2	1.① 2.② 4.②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
いきもの学びネット【再掲】	14-3	2.①② 4.①②	日本動物園水族館協会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
自然ふれあい行事【再掲】	19-1	2.①②	一般財団法人自然公園財団	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
多様な主体の参加による協働活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
東日本大震災復興支援【海岸防災林再生活動】【再掲】	23-5	2.① 2.②	(公社)国土緑化推進機構(一社)宮城県緑化推進委員会、福島県森林・林業・緑化協会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
絶滅のおそれのある野生生物種の保全【再掲】	31-12	2.①②	環境省	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
外来種対策の推進【再掲】	31-14	2.①②	環境省	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性3.(1)自然あふれる都市空間の創造	25-2	3.(1)①②	① 生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	60回(5年累計)
生物多様性に配慮した緑地整備の推進			公益社団法人国土緑化推進機構	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	2018年度実績：約52% 2019年度実績：約50%
都市公園等、都市における緑地による生態系ネットワークの形成	30-2	3.(1)①	国土交通省	地方自治体等	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」等の普及啓発を実施。	2018年度実績：約52% 2019年度実績：約50%
多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進 (東京湾再生官民連携フォーラムによる取り組み)【再掲】	30-3	2.② 3.(1)②	国土交通省									
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省									

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性3.(2)生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性3.(2)生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化	28-1	3.(2)①②	農林水産省	農林漁業者の組織する団体等	① 生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化 ・農林漁業者の組織する団体等 ・農地保全等の地域ぐるみ共同活動を支援した。 ・耕作放棄防止・多面的機能確保施策を推進した。 ・農産物ブランド化や農山村の教育・観光目的活用の取組支援を実施した。 ・グリーンツーリズム等都市農村交流や定住促進に向けた取組支援を実施した。	① 生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化 ・農地保全等の地域ぐるみ共同活動を支援した。 ・耕作放棄防止・多面的機能確保施策を推進した。 ・農産物ブランド化や農山村の教育・観光目的活用の取組支援を実施した。 ・グリーンツーリズム等都市農村交流や定住促進に向けた取組支援を実施した。 ・農泊の推進による地域の所得向上や定住促進に向けた取組支援を実施した。	・農地保全等の地域ぐるみ共同活動を支援した。 ・耕作放棄防止・多面的機能確保施策を推進した。 ・グリーンツーリズム等都市農村交流や定住促進に向けた取組支援を実施した。 ・農泊の推進による地域の所得向上や定住促進に向けた取組支援を実施した。	同左	同左	① 地域共同活動への延べ参加者数 ② 中山間地域等の農用地の減少を防止する面積 ③ グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数	① 地域共同活動への延べ参加者数 (H28～22:1,200万人・団体以上) ② 中山間地域等の農用地面積減少防止 (H27～31:8.0万ha) ③ グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数(1,000万人)
公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援【再掲】	1-1	1.① 2.② 3.(2)	経団連自然保護協議会								
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.(2)①② 4.①②	経団連自然保護協議会								
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.(2)①② 4.①②	経団連自然保護協議会								
水産多面的機能発揮対策【再掲】	6-1	2.② 3.(2)①	JF全漁連、漁業者、地域住民等								
J都市農村交流優良活動表彰【再掲】	9-1	1.① 3.(2)①	J都市農村交流全国協議会(事務局:JA全中)								

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
多様な主体の参加による協働活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク								
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユネスコエコパーク登録支援・国有林の協働管理～【再掲】	21-4	2.② 3.②①② 4.①②	公益財団法人日本自然保護協会								
生物多様性に配慮した農業の推進【再掲】	25-1	1.② 3.②①②	生物多様性自治体ネットワーク								
国民参加の森林づくり活動の促進【再掲】	28-1	2.② 3.②①②	農林水産省								
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.② 3.②①② 4.①②	環境省								
日本発の水産エコラベルの普及促進	5-1	1.① 3.②.①	大日本水産会								

再掲のため施策名の  
み

取組	取組番号	取組の方向性	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標	
						2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)				2020年(R2)
取組の方向性3.(2)生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化 ② 多様な主体の連携による、農林漁業を活用した環境学習を通じた生物多様性理解のための取組を推進する。□													
地域における生物多様性保全活動支援	10-1	3.(2)②	J.A全農	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	田んぼのまきも、小学校などへの出前授業の実施と関係先と連携したイベント開催	65回(令和元年年度末)	実施回数:100回(年間)
公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援【再掲】	1-1	1.① 2.② 3.(2)	経団連自然保護協議会										
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.(2)①② 4.①②	経団連自然保護協議会										
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.(2)①② 4.①②	経団連自然保護協議会										
多様な主体の参加による協同活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.(2)①② 4.②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク										
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユネスコエコパーク登録支援・国有林の協働管理～【再掲】 森林ESDの推進【再掲】	21-4 23-2	2.② 3.(2)①② 4.①② 2.① 3.(2)②	公益財団法人日本自然保護協会 (公社)国土緑化推進機構、美しい森林づくり全国推進会議										
生物多様性に配慮した農業の推進【再掲】	25-1	1.② 3.(2)①②	生物多様性自治体ネットワーク										
農村環境の保全・利用と地域資源活用による農村振興(地域の活動支援)【再掲】	28-1	3.(2)①②	農林水産省										
国民参加の森林づくり活動の促進【再掲】	28-1	2.② 3.(2)①②	農林水産省										
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省										
ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.② 3.(2)①② 4.①②	環境省										

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標	
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)				
取組の方向性4. ① 生物多様性に関する普及啓発、取組を推進する人材育成を行う。													
eco検定(環境社会校 定試験)の実施	3-1	4.0①	東京商工会議所(約240箇所)	各地の商工会議所(約240箇所)	3人1組で得点を競う「eco-MASTER GRAND PRIX」スタート・eco検定合格者支援事業の継続(eoピープル・エコユニット)、大学との連携	「eco-MASTER GRAND PRIX」12回目の実施・eco検定合格者支援事業の継続(エコピープル・エコユニット)	「eco-MASTER GRAND PRIX」13回目の実施・eco検定合格者支援事業の継続(エコピープル・エコユニット)	同左	同左	①2019受験者数:31,703人 2019時点の累計受験者数:489,925人 ②2019:9.0%	①累計受験者数50万人 ②学生受験割合10.0%		
国際情報取組・発信(ユース育成事業等)UNDG最終年に向けた検討と実施	12-1	4.0③	国際自然保護連合日本委員会	生物多様性わかものネットワーク	生物多様性条約関連会合への出席・UNDB-DAY2への協力	生物多様性条約関連会合への出席・UNDB-DAY3への協力	生物多様性条約関連会合への出席	生物多様性条約関連会合への出席	生物多様性条約関連会合への出席				
国際会議へのユースの派遣	18-2	4.0①	生物多様性わかものネットワーク	国際自然保護連合日本委員会	COPI3への派遣・報告会の実施	COPI4への派遣・GYBNと連携強化・共同キャンペーン・報告会の実施	SBSITTAへの派遣・報告会の実施	SBSITTAへの派遣・OEWGI派遣・報告会の実施	OEWGI派遣・COPI5への派遣・ユースの立構からレピュを行なう・報告会の実施		派遣人数:9人(4年間の累積)	累積派遣人数7人	
5月22日「国際生物多様性の日」の構成自治体による一斉PR	25-3	4.0①	生物多様性自治体ネットワーク	NPO等団体	生物多様性の浸透、主流化を一層推進するため、国際生物多様性の日におわせ、統一ロゴマーク等を活用し、構成自治体による一斉PR、web等による情報発信	同左	同左	同左	同左			5回(5年累積)	
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.0② 2.2 3.2①② 4.0②	経団連自然保護協議会										
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.0② 2.0② 3.2①② 4.0②	経団連自然保護協議会										
いきもの学びネット【再掲】	14-3	2.0② 4.0②	日本動物園水族館協会										
生物多様性力タリスト【再掲】	18-3	1.0① 4.0①	生物多様性わかものネットワーク										
自然観察指導員講習会・自然の守り手の育成【再掲】	21-1	2.2 4.0①	公益財団法人日本自然保護協会										
自然しらべ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～【再掲】	21-2	2.0① 4.0②	公益財団法人日本自然保護協会										
STOP! 日本の絶滅危惧種【再掲】	21-3	2.2 4.0②③	公益財団法人日本自然保護協会										

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略 策定支援・ユネスコエコ パーク登録支援・国有 林の協働管理～【再掲】	21-4	2.2) 3.2)①② 4.1)②	取組主体 公益財団法人 日本自然保護協 会								
国連大学／地方EPOと の協働による生物多様 性の普及【再掲】	22-1	2.1) 4.1)②	GECC								
生物多様性国家戦略の 推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
自然再生の取り組みの 推進	31-7	2.2) 4.1)②③	環境省								
鳥獣保護管理の推進	31-13	2.2) 4.1)	環境省								
ラムサール条約湿地の 新登録録及び湿地保全 に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.2) 3.2)①② 4.1)②	環境省								

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性・項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性4.② 生物多様性地域戦略の策定、様々な主体が意見交換を行う場の設定等を通じて、取組の促進を図る。												
にしゅうまるパートナーズ会の開催	12-1	4.②③	国際自然保護連合日本委員会	日本自然保護協会、CEPAジャパン、国連生物多様性の10年市民ネットワーク、日本動物園水族館協会、生物多様性わかものネットワーク、環境省、その他UNDB-J構成団体	第3回にしゅうまるパートナーズ会(2018年2月17-18日@東京)開催	第4回にしゅうまるパートナーズ会(2020年1月12-13日@名古屋・国際会議場)	第5回にしゅうまるパートナーズ会	第9回生物多様性わかもの会議開催	第10回生物多様性わかもの会議開催	参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
生物多様性わかもの会議	18-4	4.②	生物多様性わかものネットワーク	国際自然保護連合日本委員会	第6回生物多様性わかもの会議開催 ユニークの認知ターゲット達成目標を作成	第7回生物多様性わかもの会議開催 目標達成へ向け地方の活動とも連携	第8回生物多様性わかもの会議開催 達成状況をレビュー	第9回生物多様性わかもの会議開催	第10回生物多様性わかもの会議開催	参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
流域連携の広域化による生態系ネットワーク形成	30-1	4.②	国土交通省	地方自治体等	多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催	25-4		生物多様性自治体ネットワーク	UNDB-J事務局 環境省 NPO等団体 事業者等	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成28年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成29年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成30年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(令和元年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催	参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
企業とNGOの連携・協働の促進【再掲】	1-2	1.① 2.② 4.②	経団連自然保護協議会		多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会		多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会		多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
いきもの学びネットワーク【再掲】	14-3	2.①② 4.①②	日本動物園水族館協会		多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
多様な主体の参加による協同活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク		多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
自然しらす～身近な生きものから見えてくる生物多様性～【再掲】	21-2	2.① 4.①②	公益財団法人日本自然保護協会		多様な主体と連携して取組を推進					参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
STOP！日本の絶滅危惧種【再掲】	21-3	2.2) 4.1)2)3)	取組主体 公益財団法人 日本自然保護協会								
自然を活かした地域づくりに 生物多様性地域戦略 策定支援・ユネスコエコ パーク登録支援・国有 林の協働管理～【再掲】	21-4	3.2)1)2) 4.1)2)	公益財団法人 日本自然保護協会								
国連大学／地方EPOと の協働による生物多様 性の普及【再掲】	22-1	2.1) 4.1)2)	GECC								
生物多様性国家戦略の 推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
生物多様性地域戦略の 策定促進【再掲】	31-3	2.2) 4.2)	環境省								
自然再生の取り組みの 推進【再掲】	31-7	2.2) 4.1)2)3)	環境省								
ラムサール条約湿地の 新規登録及び湿地保全 に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.2) 3.2)1)2) 4.1)2)	環境省								

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性4.③ 生物多様性に配慮した取組について適切な評価を行う。												
普及啓蒙の結果分析	17-1	4.③	CEPAジャパン			普及啓蒙の結果分析	同左	同左	同左	過去全てのアクション大の募集結果および効果を分析し総括。	「いきまのぐらし」のサイトで紹介する優良事例数	308件 400件
にじみまるパートナーズ会合の開催【再掲】	12-1	4.②③	国際自然保護連合日本委員会									
国際情報収集・発信(ユース育成事業含む) UNDB最終年に向けた検討と実施【再掲】	12-1	4.①③	国際自然保護連合日本委員会									
生物多様性わかもの白書【再掲】	18-5	2.② 4.③	生物多様性わかものネットワーク									
STOP! 日本の絶滅危機種【再掲】	21-3	2.② 4.①②③	公益財団法人日本自然保護協会									
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省									
生物多様性の経済価値評価【再掲】	31-5	1.① 4.③	環境省									
自然再生の取り組みの推進【再掲】	31-7	2.② 4.①②③	環境省									
再掲のため施策名のみ												

■構成団体の連携による取組（「取組の方向性」に沿った取組）

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性1. ①企業・消費者に対して、生物多様性に配慮した生産・流通・消費活動等に関する教育・普及啓発を行う。	1-1	1.① 2.② 3.②	経団連自然保護協議会	環境省、外務省、農林水産省、関係NGO等、関係企業、基金、寄附金、企業・団体、基金、研究機関、地方公共団体等	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（168件、約1億4,900万円） (2)平成29年度支援に係る公募を実施 (3)創設25周年記念特別助成事業の企画・募集（平成29～31年度の3年間で1億5,000万円の支援） (4)現地視察会の開催	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（168件、約1億4,900万円） (2)平成30年度支援に係る公募を実施 (3)協議会・基金創設25周年記念特別助成事業の企画・募集（平成30～31年度の2年度の第2年度助成の実施） (4)現地視察会の開催	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（72件、約1億5,906万円） (2)令和2年度支援に係る公募を実施 (3)協議会・基金創設25周年記念特別助成事業（3か年）の総括助成の実施 (4)現地視察会の開催	(1)国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援（82件、約1億7,392万円） (2)令和3年度支援に係る公募を実施 (3)協議会・基金創設25周年記念特別助成事業（3か年）の総括助成の実施 (4)現地視察会の開催			
企業とNGOの交流・協働	1-2	1.① 2.② 4.②	経団連自然保護協議会	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体、企業・団体、NGO等や大学・研究機関、地方公共団体等	(1)企業とNGOの交流と協働をテーマとしたシンポジウムの開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（2017年1月） (3)海外視察ミッション（マヤンマー・バートナム、10月） (4)国内視察（鳥取県）等を実施（11月） (5)協議会ホームページ上にビジネスマッチング方式の「連携・協働先募集コーナー」の創設（11月）	(1)協議会・基金創設25周年記念式典、NGO等との交流会の開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（12月） (3)海外視察ミッション（インドネシア、10月） (4)国内視察の実施（新潟・佐渡、7月）	(1)協議会・基金・シンポジウム、NGO等との交流会の開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（12月） (3)海外視察ミッション（実施）（行先・時期未定） (4)国内視察の実施（青森・白神山地、9月）	(1)協議会・基金・シンポジウム、NGO等との交流会の開催（5月） (2)NGO活動報告会の開催（12月） (3)海外視察ミッション（実施）（行先・時期未定） (4)国内視察の実施（青森・白神山地、9月）			
企業への啓発・情報提供	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体、企業・団体、NGO等や大学・研究機関、地方公共団体等	(1)経団連環境基礎講座の開催（8月～12月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月） (5)協議会・基金創設25周年記念講演の開催（5月）	(1)経団連環境基礎講座の開催（8月～12月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月） (5)協議会・基金創設25周年記念講演の開催（5月）	(1)国内外へアピールするため、「経団連生物多様性宣言」に賛同する企業を募集（1月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)講演会・シンポジウム等の開催（5月） (5)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月）	(1)国内外へアピールするため、「経団連生物多様性宣言」に賛同する企業を募集（1月） (2)生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3)機関誌の発行（年3回） (4)講演会・シンポジウム等の開催（5月） (5)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月）	(1)経団連生物多様性宣言「J」の賛同企業の一覧と取組事例集を日英で作成（6月） (2)機関誌の発行（年3回） (3)講演会・シンポジウム等の開催（未定） (4)生物多様性民間参画ハートネット第6回会合の開催（2月）		

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
生物多様性保全を通じた地域創生支援	1-4	1.0② 2.0② 3.0①② 4.0②	総団連自然保護協議会	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体、企業、団体、NGO等や大学・研究所、民間企業、地方公共団体等	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-選定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-選定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-選定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)岩手県宮古市「震災メモリアルパーク」中の「浜」の植樹管理と環境教育支援(6月、9月、10月) (2)基金を通じた国内の自然保護プロジェクトへの支援 (3)UNDB-選定「生物多様性の本箱」の寄贈(通年)	(1)石巻・南三陸プロジェクトの実施(通年) (2)生物多様性の寄贈の働きかけ(通年)	44都道府県、49府県(2020年3月末時点)	少なくとも全都道府県に1セットずつ寄贈	
生物多様性カタリスト	18-3	1.0① 4.0①	生物多様性ネットワーク	国際自然保護連合日本委員会	関東を中心に講演・カタリストを育成	関東を中心に講演・カタリストを育成	全国で講演・カタリストを育成	全国で講演・カタリストを育成	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①累積講演回数 20回 ②累積育成人数 10人	
多様な主体の参加による協同活動	20-1	1.0② 2.0② 3.0①② 4.0②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク	政府機関、市民団体、NGO、研究所、民間企業、大学、地方自治体等	総会、エクスカーション、フォーラムの開催 ●SATOYAMA保全事例集のHP掲載 ●環境展示会にてSATOYAMA関連の出版	総会、エクスカーション、フォーラムの開催 ●SATOYAMA保全事例集のHP掲載 ●環境展示会にてSATOYAMA関連の出版	総会、エクスカーション、フォーラムの開催 ●SATOYAMA保全事例集のHP掲載 ●環境展示会にてSATOYAMA関連の出版	総会、エクスカーションの開催 ●環境展示会にてSATOYAMA関連の出版	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	30団体	
新・木づかい顕彰「ワッツトデザイン賞」	23-7	1.0②	(公社)国土緑化推進機構、(NPO)活木活用ネットワーク、株式会社カーサリサーチ 総合研究所	林野庁、各種森林・林業・木材団体	合法木材の利用を応募要件として位置付けて、募集・審査・公表 ●表彰式・展示会・セミナー開催 ●普及啓蒙(パンフレット・ウェブサイト・WEB・SNS等)	合法木材の利用を応募要件として位置付けて、募集・審査・公表 ●表彰式・展示会・セミナー開催 ●普及啓蒙(パンフレット・ウェブサイト・WEB・SNS等)	合法木材の利用を応募要件として位置付けて、募集・審査・公表 ●表彰式・展示会・セミナー開催 ●普及啓蒙(パンフレット・ウェブサイト・WEB・SNS等)	合法木材の利用を応募要件として位置付けて、募集・審査・公表 ●表彰式・展示会・セミナー開催 ●普及啓蒙(パンフレット・ウェブサイト・WEB・SNS等)	令和元年度 ①413点 ②197点(うち上位賞23点)	令和元年度 ①413点 ②197点(うち上位賞23点)		
経済産業分野における生物多様性関連の取組み	29-1	1.0①	経済産業省	(一財)バイオインダストリー協会(独)製品評価技術基盤機構	我が国産業界が選伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ●ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ●国内取得書発給開始	我が国産業界が選伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ●ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ●国内取得書発給開始	我が国産業界が選伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ●ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ●国内取得書発給開始	我が国産業界が選伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備 ●ABS(遺伝資源へのアクセスと利益配分)に関する情報発信 ●国内取得書発給開始	過去16回開催(日本開催は2004年と2010年02回)	過去16回開催(日本開催は2004年と2010年02回)	第17回会合を開催し、参加機関と生物多様性の保全とその持続可能な利用についての意見交換を行う。	
生物多様性国家戦略の推進	31-1	全て	環境省	環境省、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省等	各種取組の推進 ●関係省庁が取り組む体系的施策の関連省庁連絡会議での公表	各種取組の推進 ●第6回国別報告書作成 ●次期国家戦略の改定に向けた課題抽出および検討	各種取組の推進 ●次期国家戦略の検討等に向けた「次期国家戦略研究会」の設置	各種取組の推進 ●次期国家戦略の検討等に向けた「次期国家戦略研究会」の設置	75%	100%	生物多様性国家戦略に定める国別目標の関連指標の改善割合(※現状維持が目標のものには現状維持も含む)	

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
名古屋議定書に関する取組	31-2	1.①	環境省	外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、内閣官庁、財務省、厚生労働省	・可能な限り早期の名古屋議定書の締結と国内措置の実施に向けた国内措置検討 ・名古屋議定書及びABSについての普及啓発	・名古屋議定書の国内措置の公布、締結 ・国内措置の実施 ・ABS名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発	・国内措置の実施 ・ABS名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発	同左	同左	55 ・諸外国のABS法令の和訳作成と情報提供(数)	60
ワシントン条約を通じた絶滅危惧種に対する国際取引の影響の抑制	31-16	1.①	環境省	経産省、外務省、農林水産省、適正な象牙の推進に関する官民協議会、企業、NGO等	・COP17での適切な対応 ・普及啓発等	・COP17決定事項の履行 ・普及啓発等	同左	開催地の拡大 ・普及啓発等	同左	674件(令和元年)	400件
MY行動宣言農林水産関係アクションの推進	28-1	1.①②	農林水産省、環境省、JA全中、JA全農、大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、全国森林組合連合会、国土緑化推進機構、日本林業協会	UNDB-J事務局	・MY行動宣言農林水産関係アクションのパンフレットを作成した。	・各種イベントにおけるMY行動宣言農林水産関係アクションの普及	同左	同左	同左	6,602 (R1 1,848、H30 2,006、H29 2,748)	5万宣言
日本発の水産エコーラベルの普及促進	5-1	1.① 3.②.①	大日本水産会	マリン・エコラベル・ジャパン協議会、水産庁、各漁業、水産関係団体	・国際的に認められる日本発の水産エコーラベルの構築のための取組み(団体設立)	・国際的に認められる日本発の水産エコーラベルとなるための認証規格の改定・再構築。 ・制度と取組の紹介、普及のための講習会の開催	同左	・普及のための講習会開催 ・セミナー・ショーほかの展示会開催による広報活動	・国内外認証制度管理者と認証事業者および認証物のパイプラインを構築し、取組の紹介と展示商談会を同時に行うプラットフォーム・ミーティングを開催。	・65 (2020年2月) ・講習会300名 ・ワークショップ240名 (2020年3月)	・認証数の確保 ・500名(延べ)

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性1. ②それぞれのもつ既存のツールの活用し、認証商品等の生物多様性に配慮した商品について、消費者に対して的確な情報提供を行う。												
生物多様性に配慮した農業の推進	25-1	1.② 3.②①②	全国農業協同組合連合会(JA全農)等	全国農業協同組合連合会(JA全農)等	2016年(H28) ・水田部会の開催(平成28年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	2017年(H29) ・水田部会の開催(平成29年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	2018年(H30) ・水田部会の開催(平成30年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	2019年(R1) ・水田部会の開催(令和元年度:1回) ・生物多様性に配慮した農業の推進	2020年(R2) 同左	指標 水田部会の開催 4回	最新値 4回	2020年の目標 5回(5年累計)
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	経団連自然保護協議会								
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	経団連自然保護協議会								
多様な主体の参加による協同活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMA-イニシアティブ推進ネットワーク	SATOYAMA-イニシアティブ推進ネットワーク								
新・木づかい顕彰「うつろ」デザイン賞【再掲】	23-7	1.①②	(公社)国土緑化推進機構、(NPO)活木活木ネットワーク、株式会社ハーバルデザイン総合研究所	(公社)国土緑化推進機構、(NPO)活木活木ネットワーク、株式会社ハーバルデザイン総合研究所								
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省	環境省								

再掲のため施挙名のみ

取組	取組番号	取組の方向性2. ① 自然のフィールドにおける自然体験活動や動物園、水族館、博物館、図書館、植物園、水族館、動物園、図書館、図書館等における環境学習の場において、学校教育とも連携しながら、生物多様性に関する普及啓発活動を行う。	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	指標	最新値	2020年の目標
いきもの学びネット	14-3	2.0② 4.0②	日本動物園水族館協会	日本動物園水族館協会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	情報提供を行う情報提供を行っている図書館数	情報提供実施箇所6箇所(令和元年度)	15箇所以上(何らかの形で情報提供を行っている)
UNDB-J事業の周知啓発もよう支援	15-1	2.0①	日本博物館協会	日博協加盟館	同左	同左	同左	同左	同左	同左	総合博物館、自然史系博物館での情報提供	10館	全国の支部、会場への周知・活動への働きかけ。
自然ふれあい行事	19-1	2.0②	一般財団法人自然公園財団	地元小中学校、地元の植物研究会、立公園のボランティア	同左	同左	同左	同左	同左	同左	参加者数	R01:204,300人	3万人を目標に参加者数の増加を図る
自然ふれあいきまのから見えにくる生物多様性	21-2	2.0① 4.0②	公益財団法人日本自然保護協会	市民、市民団体、NGO、研究者、企業、博物館、環境省、文部科学省	同左	同左	同左	同左	同左	同左	参加者	6516人(4年累積)	1万人(5年累積)
国連大学/地方EPOとの協働による生物多様性の普及	22-1	2.0① 4.0②	GEOC	環境省、国連大学、地方EPO、NPO、自治体、中間支援組織、ESD実践団体等	同左	同左	同左	同左	同左	同左	主流化を軸にした生物多様性の情報発信(協力件数)や広報(メルマガ)による情報発信	メルマガ年間25件 機関紙「つな環」●つな環34号:2件 ●「国連大学」を起す～平成から令和へ～ ●国内事例「生物多様性の主流化に向けた取り組み」千葉県いすみ市 ●つな環35号:2件 ●GEOC/EPOからのお知らせ「未来へつなぐ『国連生物多様性の10年』はいかり」 ●「データで見る気候変動による影響」 ●総合計 29件	年間30件





取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性2.② 国、自治体、NPO等の民間団体、地域住民、農林漁業者、企業、専門家等様々な関係者の連携による自然環境保全活動を推進する。	11-1	2.②	(一社)日本旅行業協会	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	①合計168名参加 ②6地域で実施	①参加者、合計250名
					当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	当協会地方支部(北海道、中部、関西)の在る6地域で実施	①合計168名参加 ②6地域で実施	①参加者、合計250名
JATAの連携プロジェクト	11-2	2.②	(一社)日本旅行業協会	地域行政や交通機関、宿泊機関等の地域の観光事業者	岩手県岩手郡野田村の「みちのく潮風トレイル」地域で実施	宮城県石巻市、東松島市、塩釜市エリアでの「みちのく潮風トレイル」地域で実施予定	宮城県石巻市、東松島市、塩釜市エリアでの「みちのく潮風トレイル」地域で実施予定	宮城県石巻市、東松島市、塩釜市エリアでの「みちのく潮風トレイル」地域で実施予定	①参加者数 (2019年度末までの累積) ①333名参加	①参加者、延べ700名 本プロジェクトは2019年で終了。2020年からは「古連」プロジェクトを計画予定。	
植物多様性保全拠点ネットワーク事業	13-1	2.②	日本植物園協会	全国各地の植物園、博物館等施設、NPO、植物研究団体、愛好会、研究者、地方公共団体等	・日本産絶滅危惧植物種の生息域外保全数増加のため、種子等収集活動の実施。(1162種の生息域外保全、334種の種子保存) ・(野生種園芸種間わず、生育特性情報収集とデータベース構築。	同左	同左	同左	・生息域外保全数 70% (1241種 (2019.4)) ・種子・胞子等保存数 25% 451種 (2020.3)	①日本産絶滅危惧植物種1335種の生息域外保全実施 ②356種の生息域外保全実施 ③2356種の種子等保存	
生物多様性わかもの白書	18-5	2.② 4.③	国際自然保護連合日本委員会	国際自然保護連合日本委員会	・Ver1について見直し ・Ver2についての準備	・Ver2の配布 ・情報の発信 ・Ver2について見直し ・Ver3についての準備	・Ver2について見直し ・Ver3についての作成	・Ver2の配布 ・Ver3について発信 ・より多くの方へ発信	日本語版(vol.17)ルバーション:640部 英語版(COP13にて、概略版):180部 vol.2(日本語版のみ):40部	累積配布数700部	
自然観察指導員講習会・自然の守り手の育成	21-1	2.② 4.①	公益財団法人日本自然保護協会	地方公共団体、企業、NGO、市民団体、大学等	・自主+新規による自然観察指導員511人 ・ネイチャーフューリング研修会・若手育成支援 ・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者4000人超	・自主+新規による自然観察指導員511人 ・ネイチャーフューリング研修会・若手育成支援 ・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者4000人超	・自主+新たなセクターとの連携による自然観察指導員500人超 ・研修会・若手育成支援 ・新たな自然の守り手育成 ・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者13637人	・自主+新たなセクターとの連携による自然観察指導員500人超 ・研修会・若手育成支援 ・新たな自然の守り手育成 ・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者7000人超	36229人(4年累計) ①イベント参加者数	①、②の合算で5万人(5年累積)	
STOP! 日本の絶滅危機種	21-3	2.② 4.①②③	公益財団法人日本自然保護協会	市民団体、NGO、企業、研究者、環境省、動物園、博物館	・イソワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノクマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数12000件 ・2020年に向けての事業モデル策定	・イソワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノクマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数1322件 ・地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング	・イソワシ、サンバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノクマとその生息地の保全活動 ・保全活動への寄付者数1600件 ・地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング	・日本の絶滅危惧種保全活動への寄付者数	5572件(4年累計) (積)	8000件(5年累積)	

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)	指標	最新値	2020年の目標
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユニバーク登録地域・国営林の協働管理・保全事業人材育成～	21-4	2② 3②①② 4①②	公益財団法人 日本自然保護協会	自治体、研究者、市民、環境省、林野庁、文部科学省、生物多様性自治体ネットワーク	生物多様性地域戦略策定自治体、ユニバーク登録自治体での保全事業育成 ・ユニバーク登録支援活動(綾町・みなかみ・志賀・只見町・南アルプス・国営林の協働管理(赤谷・綾)) ・自然資源を活かした地域創生保全人材育成23人/シンポジウム参加者350人 ・民間保護地域、Green List研究	生物多様性地域戦略策定自治体、ユニバーク登録自治体での保全事業育成 ・ユニバーク登録支援活動(綾町・みなかみ・志賀・只見町・南アルプス・白山・甲武信ほか) ・国営林の協働管理 ・ユニバーク移行地域での市民参加のモニタリングシステム構築 ・ニホンジカの低密度管理の検討	生物多様性地域戦略策定自治体、ユニバーク登録自治体での保全事業育成 ・ユニバーク登録支援活動(綾町・みなかみ・志賀・只見町・南アルプス・白山・甲武信ほか) ・国営林の協働管理 ・ユニバーク移行地域での市民参加のモニタリングシステム構築 ・ニホンジカの低密度管理	生物多様性地域戦略策定自治体、ユニバーク登録自治体での保全事業育成 ・ユニバーク登録支援活動(綾町・みなかみ・志賀・只見町・南アルプス・白山・甲武信ほか) ・国営林の協働管理 ・ユニバーク移行地域での市民参加のモニタリングシステム構築 ・ニホンジカの低密度管理	①地域戦略策定 ②保全事業育成 人材数	①7件 ②人材493人(4年累積)	①8件 ②人材500人(5年累積)	
「グリーンウェイブ」	23-1	2②	(公社)国土緑化推進機構、生物多様性と子どへの森」キャンペーン実行委員会	美しい森林づくり全国推進会議	キックオフ・フォーラム開催 ・基調報告、事例報告 ・パネルディスカッション	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・UNDB-Jによる「モデルキャンペン」を実施	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・グリーンウェイブオフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ募金」実施	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・グリーンウェイブオフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ募金」実施	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」任命 ・グリーンウェイブオフィシャル・パートナー任命 ・「グリーンウェイブ募金」実施			
「緑の募金」(用途限定募金(熊本地震復興支援事業))	23-6	2②	(公社)国土緑化推進機構	(公社)熊本県緑化推進委員会、各種NPO等	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・避難所等への間伐材等使用什器の寄贈、仮設住宅へのフランチ等の寄贈、森林復旧等の実施	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・避難所等への間伐材等使用什器の寄贈、仮設住宅へのフランチ等の寄贈、園庭緑化等の実施	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・仮設住宅へのフランチ等の寄贈、園庭緑化等の実施	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・仮設住宅へのフランチ等の寄贈、園庭緑化等の実施				
「緑の募金」(緑と水の森林ファンド)を通じたNPO等による生物多様性保全のための森づくり・木づかい活動支援	23-8	2②	(公社)国土緑化推進機構	各都道府県緑化推進委員会、助成先のNPO等	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・「緑の募金」(緑と水の森林ファンド)【普及啓発】調査研究「活動基盤の整備」【国際交流】	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・「緑の募金」(緑と水の森林ファンド)【普及啓発】調査研究「活動基盤の整備」【国際交流】	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・「緑の募金」(緑と水の森林ファンド)【普及啓発】調査研究「活動基盤の整備」【国際交流】	熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」リサイクル紙を使用した募金の呼びかけ ・「緑の募金」(緑と水の森林ファンド)【普及啓発】調査研究「活動基盤の整備」【国際交流】				
「国際森林子2019」みどりの地球を未来へ」～次代へつなぐ森林と木の文化～	23-9	2②	(公社)国土緑化推進機構	林野庁、(公社)森林文化協会、(公社)オイスカ、(NPO)樹木・環境ネットワーク協会、(公社)PHOENIX、(一社)TOBUSJA	植樹会(1,500本)、交流会(合唱交歓、森の教室、パネル展示等)の教室、ハルネ展示室、交流会等	主催者誘致、国連ウレシイ森の紹介、ミス日本みどりの女神挨拶、映画上映会、木工教室、森の教室、森のつみ木広場、はぐらの里山ゲーム、木材・白板博物館見学	中止(新型コロナウイルスの拡大を受けて)	※調整中				



取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程						指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)				
生物多様性の観点から重要な高い湿地における保全の推進	31-9	2(2)	環境省	都道府県、市町村等	生物多様性の観点から「重要な高い湿地」を公表した。また、重要湿地に関する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。	生物多様性の観点から「重要な高い湿地」に関する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。	生物多様性の観点から「重要な高い湿地」に関する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。	生物多様性の観点から「重要な高い湿地」に関する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。	生物多様性の観点から「重要な高い湿地」に関する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。	生物多様性の観点から「重要な高い湿地」に関する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。また、重要湿地を構成する普及啓発を推進する。			

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
鳥獣保護管理の推進	31-13	2.② 4.①	埼玉県	農林水産省、地方公共団体、認定鳥獣捕獲事業者等	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	2023年度に二ホンカ・イノシシの生鳥数を半減させる(参考程度)。
ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発	31-15	2.② 3.②①② 4.②	埼玉県	農林水産省、国土交通省、地方公共団体、NPO、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	52(R2年3月末現在)
公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援【再掲】	1-1	1.① 2.② 3.②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
企業とNGOの連携、協働の促進【再掲】	1-2	1.① 2.② 4.②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
いきもの学びネット【再掲】	14-3	2.①② 4.①②	日本動物園水族館協会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
自然ふれあい行事【再掲】	19-1	2.①②	一般財団法人自然公園財団	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
多様な主体の参加による協働活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMA-イニシアティブ推進ネットワーク	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
軍日本大震災復興支援【海岸防災林再生活動】【再掲】	23-5	2.① 2.②	(公社)国土緑化推進機構(一社)宮城県緑化推進委員会、福島県森林・林業・緑化協会	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
絶滅のおそれのある野生動物種の保全【再掲】	31-12	2.①②	埼玉県	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
外来種対策の推進【再掲】	31-14	2.①②	埼玉県	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	埼玉県	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標	
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)				
取組の方向性3.(1)自然あふれる都市空間の創造	25-2	3.(1)①②	① 生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	生物多様性に配慮した緑地の整備等を通じて、既存の緑地等とのネットワークとしてつなげていく。② 都市の緑地等におけるイベント等を通じて、普及啓発を行う。□	60回(5年累計)	
生物多様性に配慮した緑地整備の推進			公益社団法人国土緑化推進機構	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	2018年度実績: 約52% 2019年度実績: 約50%	
都市公園等、都市における緑地による生態系ネットワークの形成	30-2	3.(1)①	国土交通省	地方自治体等	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体において、都市における生物多様性の取組状況を簡便に把握・評価し、将来の施策立案や普及等に活用することを目的とした「都市の生物多様性指標(簡易版)」を策定。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定に配慮した緑の基本計画の策定の手引きを作成。	2018年度実績: 約52% 2019年度実績: 約50%	
多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進 (東京湾再生官民連携フォーラムによる取り組み)【再掲】	30-3	2.② 3.(1)②	国土交通省										
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省										

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性3.(2)生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化	28-1	3.2①②	農林水産省	農林漁業者の組織する団体等	① 生物多様性に配慮した農林漁業を通じた地域活性化 ・農林漁業者の組織する団体等 ・農地保全等の地域ぐるみ共同活動を支援した。 ・耕作放棄防止・多面的機能確保施策を推進した。 ・農産物ブランド化や農山村の教育・観光目的活用の取組支援を実施した。 ・グリーンツーリズム等都市農村交流や定住促進を実施した。	・農地保全等の地域ぐるみ共同活動の支援 ・耕作放棄防止・多面的機能確保施策推進 ・グリーンツーリズム等都市農村交流や定住促進に向けた取組支援 ・農泊の推進による地域の所得向上や定住促進に向けた取組支援	同左	同左	①地域共同活動への延べ参加者数 ②中山間地域の農用地の減少を防止する面積 ③グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数	①地域共同活動延べ参加者数(H28～22:1,200万人・団体以上) ②中山間地域等農用地面積減少防止(H27～31:8.0万ha) ③グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数(1,000万人)	
公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援【再掲】	1-1	1.① 2.② 3.②	経団連自然保護協議会								
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会								
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会								

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
多様な主体の参加による協働活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOVAMAイニシアティブ推進ネットワーク								
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユネスコエコパーク登録支援・国有林の協働管理～【再掲】	21-4	2.② 3.②①② 4.①②	公益財団法人日本自然保護協会								
生物多様性に配慮した農業の推進【再掲】	25-1	1.② 3.②①②	生物多様性自治体ネットワーク								
国民参加の森林づくり活動の促進【再掲】	28-1	2.② 3.②①②	農林水産省								
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.② 3.②①② 4.①②	環境省								
日本発の水産エコラベルの普及促進	5-1	1.① 3.②.①	大日本水産会								

再掲のため施策名の  
み



取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
取組の方向性4. ① 生物多様性に関する普及啓発、取組を推進する人材育成を行う。												
eco検定(環境社会校 定試験)の実施	3-1	4.①	東京商工会議所(約240箇所)	各地の商工会議所(約240箇所)	3人1組で得点を競うeco-MASTER GRAND PRX/スタート・eco検定合格者支援事業の継続(eoピュール・エコユニット)、大学との連携	eco-MASTER GRAND PRX/12回目の実施・eco検定合格者支援事業の継続(エコピュール・エコユニット)	eco-MASTER GRAND PRX/13回目の実施・eco検定合格者支援事業の継続(エコピュール・エコユニット)	同左	同左	①2019受験者数:31,703人 2019時点の累計受験者数:489,925人 ②2019:9.0%	①累計受験者数50万人 ②学生受験割合100%	
国際情報収集・発信(ユース育成事業(心)UNDB最終年に向けた検討と実施)	12-1	4.③	国際自然保護連合日本委員会	生物多様性わかものネットワーク	生物多様性条約関連会合への出席 ・UNDB-DAY2への協力	生物多様性条約関連会合への出席 ・UNDB-DAY3への協力	生物多様性条約関連会合への出席	生物多様性条約関連会合への出席 ・UNDB-DAY4への協力				
国際会議へのユースの派遣	18-2	4.①	生物多様性わかものネットワーク	国際自然保護連合日本委員会	・COP13への派遣 ・報告会の実施	・COP14への派遣 ・GYBNと連携強化 ・共同キャンペーン ・報告会の実施	・SBSTTAへの派遣 ・OEWGI派遣 ・報告会の実施	・SBSTTAへの派遣 ・OEWGI派遣 ・報告会の実施	派遣人数:9人 (4年間の累積)	累積派遣人数7人		
5月22日「国際生物多様性の日」の構成自治体による一斉PR	25-3	4.①	生物多様性自治体ネットワーク	NPO等団体	生物多様性の浸透、主流化を一層推進するため、国際生物多様性の日におわせ、統一ロゴマーク等を活用し、構成自治体による一斉PR、web等による情報発信	同左	同左	同左	同左	同左	5回(5年累積)	
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会									
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会									
いきもの学びネットワーク【再掲】	14-3	2.①② 4.①②	日本動物園水族館協会									
生物多様性力タリスト【再掲】	18-3	1.① 4.①	生物多様性わかものネットワーク									
自然観察指導員講習会・自然の守り手の育成【再掲】	21-1	2.② 4.①	公益財団法人日本自然保護協会									
自然しらべ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～【再掲】	21-2	2.① 4.①②	公益財団法人日本自然保護協会									
STOP! 日本の絶滅危惧種【再掲】	21-3	2.② 4.①②③	公益財団法人日本自然保護協会									

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略 策定支援・ユネスコエコ パーク登録支援・国有 林の協働管理～【再掲】	21-4	2.2) 3.2)①② 4.①②	取組主体 公益財団法人 日本自然保護協 会								
国連大学／地方EPOと の協働による生物多様 性の普及【再掲】	22-1	2.① 4.①②	GECC								
生物多様性国家戦略の 推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
自然再生の取り組みの 推進	31-7	2.2) 4.①②③	環境省								
鳥獣保護管理の推進	31-13	2.2) 4.①	環境省								
ラムサール条約湿地の 新発登録及び湿地保全 に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.2) 3.2)①② 4.①②	環境省								

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性・項目番号	取組主体	連携主体	工程					指標	最新値	2020年の目標			
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)						
取組の方向性4.② 生物多様性地域戦略の策定、様々な主体が意見交換を行う場の設定等を通じて、取組の促進を図る。															
にしゅうまるパートナーズ会会の開催	12-1	4.②③	国際自然保護連合日本委員会	日本自然保護協会、CEPAジャパン、国連生物多様性の10年市民ネットワーク、日本動物園水族館協会、生物多様性わかものネットワーク、環境省、その他UNDB-J構成団体	第3回にしゅうまるパートナーズ会会(2018年2月17-18日@東京)開催	第4回にしゅうまるパートナーズ会会(2020年1月12-13日@名古屋・国際会議場)	第5回にしゅうまるパートナーズ会会	第6回にしゅうまるパートナーズ会会(2018年2月17-18日@東京)開催	第7回生物多様性わかもの会議開催	第8回生物多様性わかもの会議開催	第9回生物多様性わかもの会議開催	第10回生物多様性わかもの会議開催	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人	
生物多様性わかもの会議	18-4	4.②	生物多様性わかものネットワーク	国際自然保護連合日本委員会	第6回生物多様性わかもの会議開催	第7回生物多様性わかもの会議開催	第8回生物多様性わかもの会議開催	第9回生物多様性わかもの会議開催	第10回生物多様性わかもの会議開催	第11回生物多様性わかもの会議開催	第12回生物多様性わかもの会議開催	第13回生物多様性わかもの会議開催	参加者人数	91%(H30年度)	100%
流域連携の広域化による生態系ネットワーク形成	30-1	4.②	国土交通省	地方自治体等	多様な主体と連携して取組を推進	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	生態系ネットワークの構築に向けた協議会の設置	4回	5回(5年累積)
生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催	25-4		生物多様性自治体ネットワーク	UNDB-J事務局 環境省 NPO等団体 事業者等	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成28年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成29年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成30年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(平成31年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(令和元年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(令和2年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(令和3年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(令和4年度:1回)	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催(令和5年度:1回)	4回	5回(5年累積)
企業とNGOの連携・協働の促進【再掲】	1-2	1.① 2.② 4.②	経団連自然保護協議会												
企業への啓発・情報提供【再掲】	1-3	1.①② 2.② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会												
生物多様性保全を通じた地域創生支援【再掲】	1-4	1.①② 2.①② 3.②①② 4.①②	経団連自然保護協議会												
いきもの学びネットワーク【再掲】	14-3	2.①② 4.①②	日本動物園水族館協会												
多様な主体の参加による協同活動【再掲】	20-1	1.①② 2.② 3.②①② 4.②	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク												
自然しらす～身近な生きものから見えてくる生物多様性～【再掲】	21-2	2.① 4.①②	公益財団法人日本自然保護協会												

再掲のため施策名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	工程					指標	最新値	2020年の目標
				2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)	2020年(R2)			
STOP！日本の絶滅危惧種【再掲】	21-3	2.2) 4.1)2)3)	取組主体 公益財団法人 日本自然保護協会								
自然を活かした地域づくりに 生物多様性地域戦略 策定支援・ユネスコエコ パーク登録支援・国有 林の協働管理～【再掲】	21-4	3.2)1)2) 4.1)2)	公益財団法人 日本自然保護協会								
国連大学／地方EPOと の協働による生物多様 性の普及【再掲】	22-1	2.1) 4.1)2)	GECC								
生物多様性国家戦略の 推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
生物多様性地域戦略の 策定促進【再掲】	31-3	2.2) 4.2)	環境省								
自然再生の取り組みの 推進【再掲】	31-7	2.2) 4.1)2)3)	環境省								
ラムサール条約湿地の 新規登録及び湿地保全 に係る普及啓発【再掲】	31-15	2.2) 3.2)1)2) 4.1)2)	環境省								

再掲のため施業名のみ

取組	取組番号	取組の方向性の項目番号	取組主体	連携主体	工程				指標	最新値	2020年の目標
					2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(R1)			
取組の方向性4、③ 生物多様性に配慮した取組について適切な評価を行う。											
にじゅうまるハートナーズ会合の開催【再掲】	12-1	4.②③	国際自然保護連合日本委員会								
国際情報収集・発信(ユース育成事業含む) UNDB最終年に向けた検討と実施【再掲】	12-1	4.①③	国際自然保護連合日本委員会								
生物多様性わかもの白書【再掲】	18-5	2.② 4.③	生物多様性わかものネットワーク								
STOP! 日本の絶滅危惧種【再掲】	21-3	2.② 4.①②③	公益財団法人日本自然保護協会								
生物多様性国家戦略の推進【再掲】	31-1	全て	環境省								
自然再生の取り組みの推進【再掲】	31-7	2.② 4.①②③	環境省								

再掲のため施策名のみ

参考1

具体的な取組の指標・2020年の目標  
(工程表からの抜粋)



取組	取組主体	指標	最新値	2020年の目標
様々なツールによる普及啓発	UNDB-J	MY行動宣言数	約24.4万宣言 (2020.3)	100万宣言
	日本動物園水族館協会 (JAZA) 国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)	MY行動宣言数	約9.5万宣言 (2019.12)	10万宣言
	IUCN-J	MY行動宣言数	2558宣言 (2020.3)	5,000宣言
生物多様性の本箱の普及啓発	UNDB-J (寄贈プロジェクトのiki-tomo推進事務局: 日本自然保護協会)	生物多様性の本箱展示施設数	232館・施設等 (2020.3)	300館・施設等
	IUCN-J	にじゅうまる宣言数	1054宣言 (2020.03)	2020宣言
生物多様性アクション大賞	UNDB-J (iki-tomo推進事務局: CEPAジャパン)	応募数	2013年 122件 2014年 124件 2015年 135件 2016年 104件 2017年 116件 2018年 100件 2019年 91件	

■構成団体による取組(「取組の方向性」に沿った取組)

取組	取組主体	指標	最新値	2020年の目標
生物多様性保全を通じた地域創生支援	経団連自然保護協議会	1 生物多様性の本箱」の寄贈数	44都道府県、49カ所(2020年3月末時点)	少なくとも全都道府県に1セットずつ寄贈
eco検定(環境社会検定試験)の実施	東京商工会議所	①受験者数 ②学生受験割合	①2019受験者数:31,703人 2019時点の累計受験者数:489,925人 ②2019:9.0%	①累計受験者数50万人 ②学生受験割合10.0%
日本発の水産エコラベルの普及促進	大日本水産会	・認証数 ・イベントの参加者	・65(2020年2月時点) ・講習会300名(2020年3月時点) ・ワークショップ240名(2020年3月時点)	・認証数の倍増 ・500名(延べ)
水産多面的機能発揮対策	JF全漁連、漁業者、地域住民等	生物量の増加、参加人数等		(活動を行う全国約650の活動組織が、それぞれ活動水域の生物量の増加等の目標を設定)
漁民の森づくり活動	JF全漁連、漁業者、地域住民等	①植樹本数 ②参加人数	平成28年 ①49,921本 ②15,471人	活動が継続して実施されていること。
地域における生物多様性保全活動支援	JA全農	田んぼの生きもの調査実施回数	65回(令和元年度末)	実施回数:100回(年間)
外来種駆除等環境保全活動	(一社)日本旅行業協会	①参加者数 ②実施地域数	(2019年度) ①合計168名参加 ②6地域で実施	①参加者、合計250名
JATAの道プロジェクト	(一社)日本旅行業協会	①参加者数	(2019年度末までの累積) ①333名参加	①参加者、延べ700名(2014年開始)
植物多様性保全拠点ネットワーク事業	日本植物園協会	植物園未保有种で新たに生息域外保全/種子保存が実施された絶滅危惧種の数	・生息域外保全数 70% 1241種(2019.4) ・種子・胞子等保存数 25% 451種(2020.3)	①日本産絶滅危惧植物種1335種の生息域外保全実施 ②356種の自生地情報を持つ種子等保存
いきもの学びネット	日本動物園水族館協会	情報提供を行っている園館数	情報提供実施園館数0園館11件(令和元年度)	全加盟園館が何らかの形で情報提供を行っている

取組	取組主体	指標	最新値	2020年の目標
生物多様性カタリスト	生物多様性わかものネットワーク	①講演回数 ②カタリスト(講師)育成人数	①14回(4年間の累積) ②9人(4年間の累積)	①累積講演回数20回 ②累積育成人数10人
ごごとプロジェクト	生物多様性わかものネットワーク	参加者人数	54人	累積参加者数200人
生物多様性わかもの白書	生物多様性わかものネットワーク	配布部数	日本語版(vol.1フルバージョン):640部 英語版(COP13にて。概略版):180部 vol.2(日本語版のみ):40部	累積配布部数700部
国際会議へのユースの派遣	生物多様性わかものネットワーク	派遣人数	派遣人数:9人 (4年間の累積)	累積派遣人数7人
生物多様性わかもの会議	生物多様性わかものネットワーク	参加者人数	19人(4年間の累積、同一人物を除く)	20人
自然ふれあい行事	一般財団法人 自然公園財団	参加者数	R01:24,300人	3万人を目標に参加者数の増加を図る
多様な主体の参加による協同活動	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク	にじゅうまるプロジェクト宣言団体数	31団体	30団体
自然しらべ ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～	公益財団法人 日本自然保護協会	参加者	6516人(4年累積)	1万人 (5年累積)
自然観察指導員講習会・自然の守り手の育成	公益財団法人 日本自然保護協会	①指導員養成数 ②イベント参加者数	36229人(4年累積)	①、②の合算で5万人 (5年累積)
STOP! 日本の絶滅危惧種	公益財団法人 日本自然保護協会	日本の絶滅危惧種保全活動への寄付件数	5572件(4年累積)	9000件 (5年累積)

取組	取組主体	指標	最新値	2020年の目標
自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユネスコエコパーク登録支援・国有林の協働管理・保全事業人材育成～	公益財団法人 日本自然保護協会	①地域戦略策定地域・エコパーク登録地域支援数 ②保全事業育成人材数	①17件 ②人材493人(4年累積)	①18件 ②人材500人 (5年累積)
国連大学／地方EPOとの協働による生物多様性の普及	GECC	主流化を軸にした生物多様性の情報発信や広報協力件数(メルマガや機関誌等による情報発信)	メルマガ 年間24件 機関誌「つな環」 32号、2件 国際サング礁年の紹介/サングにやさしい日焼け止め開発者インタビュー 33号、2件 UNU-IASOUJK発行 里山里海の理解を深める出版物2冊を紹介	年間30件
新・木づかい顕彰「ウッドデザイン賞」	(公社)国土緑化推進機構、(NPO)活木活木森ネットワーク、(株)エコバーカルデザイン総合研究所	①応募数 ②入賞数	令和元年度 ①413点 ②197点(うち上位賞23点)	
生物多様性に配慮した農業の推進	生物多様性自治体ネットワーク	水田部会の開催	4回	5回(5年累計)
生物多様性に配慮した緑地整備の推進	生物多様性自治体ネットワーク	緑地を利用したイベント等の開催	26回	60回(5年累計)
5月22日「国際生物多様性の日」の構成自治体による一斉PR	生物多様性自治体ネットワーク	「国際生物多様性の日」一斉PRの実施	4回	5回(5年累積)
生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催	生物多様性自治体ネットワーク	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催	4回	5回(5年累積)
MY行動宣言 農林水産関係アクションの推進	農林水産省、環境省、JA全中、JA全農、大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、全国森林組合連合会、国土緑化推進機構、日本林業協会	MY行動宣言数	6,602 (R1 1,848、H30 2,006、H29 2,748)	5万宣言
農村環境の保全・利用と地域資源活用による農村振興(地域の活動支援)	農林水産省	①地域共同活動への延べ参加者数 ②中山間地域等の農用地の減少を防止する面積 ③グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数	①(H28～30: 775万人・団体) ②(H27～R1: 7.5万ha) ③(H30: 1,212万人)	①地域共同活動延べ参加者数(H28～32: 1,200万人・団体以上) ②中山間地域等農用地面積減少防止(H27～31: 8.0万ha) ③グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数(1,050万人)

取組	取組主体	指標	最新値	2020年の目標
都市公園等、都市における緑地による生態系ネットワークの形成	国土交通省	生物多様性の確保に配慮した緑の基本計画策定割合	2018年度実績：約52%	約50%
流域連携の広域化による生態系ネットワーク形成	国土交通省	生態系ネットワークの構築に向けた協議会の設置	91%(H30年度)	100%
経済産業分野における生物多様性関連の取組み	経済産業省	ACMの開催	過去16回開催(日本開催は2004年と2010年の2回)	第17回会合を開催し、参加機関と微生物資源の保全とその持続可能な利用についての意見交換を行う。
生物多様性国家戦略の推進	環境省	生物多様性国家戦略に定める国別目標の関連指標の改善割合(※現状維持が目標のものは現状維持も含む)	75%	100%
名古屋議定書に関する取組	環境省	・ 諸外国のABS法令の和訳作成と情報提供(数)	55	60
フシントン条約を通じた絶滅危惧種に対する国際取引の影響の抑制	環境省	フシントン条約該当物品の輸入差止等実績	674件(令和元年)	400件
自然公園等利用ふれあい推進事業	環境省	参加者数	R1:20,733人	3万人
絶滅のおそれのある野生生物種の保全	環境省	国内希少野生動物植物種の追加指定種数	270種(令和元年度)	2014年から2020年までに300種
外来種対策の推進	環境省	「外来種」という言葉の意味を知っている人の割合	59.3%(2019年度)	80%
生物多様性地域戦略の策定促進	環境省	都道府県の生物多様性地域戦略策定数	44	47

取組	取組主体	指標	最新値	2020年の目標
世界自然遺産登録への取組及び登録地域の自然環境保全	環境省	・世界自然遺産地域の順応的保全管理の実施地域	4	5
鳥獣保護管理の推進	環境省	「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」における半減目標の達成	【平成29年度】 二ホンカ約310万頭・イノシシ約88万頭(ともに推定個体数の中央値)	2023年度に二ホンカ・イノシシの生息数を半減させる(参考年度)。
ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発	環境省	国内ラムサール条約湿地数	52(R2年3月末現在)	56
地域における生物多様性保全活動支援	環境省	生物多様性保全推進支援事業 事業数	68	62
経済社会における生物多様性の保全等の促進	環境省	にしゅうまるプロジェクト宣言数(主に事業者によるもの、累積)	404宣言(2019.3)	400宣言

参考2

## 具体的な取組の個票



国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
UNDB-Jの取組

団体名：国連生物多様性の10年日本委員会

取組0-1		MY 行動宣言 5つのアクションの呼びかけ		
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」について、主流化の取組の初動となるツールとして活用を広く呼びかける。</li> </ul>		
該当する愛知目標		・ 目標 1		
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1. ①、2. ①、3. (1)②、3. (2)②		
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体				
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種団体に対して個別に協力を依頼</li> <li>・ 事例集の作成</li> </ul>		
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">C</td> <td>着実に数を増やしているものの、このままでは100万宣言への到達は厳しい状況である。</td> </tr> </table>	C	着実に数を増やしているものの、このままでは100万宣言への到達は厳しい状況である。
C	着実に数を増やしているものの、このままでは100万宣言への到達は厳しい状況である。			
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たに連携して取り組む協力団体の発掘、連携の促進。</li> </ul>		
【参考】令和3年度実施内容等(予定)				
指標	定義	MY 行動宣言数		
	2020年の目標値	100万宣言		
	最新値	約24万宣言(2020.3)		

取組 0-2		生物多様性の本箱の普及啓発
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>UNDB-J が推薦する子供向け図書「生物多様性の本箱」について、常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を 2020 年までに 300 館達成することを目指して普及啓発を実施。</li> <li>「生物多様性の本箱」を普及啓発施設、小・中学校、図書館等に寄贈（企業等に寄付協賛を呼びかけ）。</li> </ul>
該当する愛知目標		・ 目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		※寄贈プロジェクトの iki-tomo 推進事務局：日本自然保護協会
取組にあたって連携するその他の団体		図書館関係団体
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館関係団体を通じた展示の働きかけ</li> <li>地方自治体における展示の働きかけ</li> <li>寄贈プロジェクトの実施</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A
令和2年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館関係団体を通じた展示の働きかけ</li> <li>地方自治体における展示の働きかけ</li> <li>寄贈プロジェクトの実施</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		
指標	定義	生物多様性の本箱展示施設数
	2020 年の目標値	300 館・施設等
	最新値	232 館・施設等（2020.3）

取組 0-3		グリーンウェイブ
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性に関する理解が社会に浸透するように、植樹等をきっかけとした生物多様性の広報、教育、普及啓発を推進するため、3月1日から6月15日までの期間を国連生物多様性の10年「グリーンウェイブ2018」として広く本活動への参加を呼びかけ</li> </ul>

	る。
該当する愛知目標	・目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①、2. ①、3. (1)②、3. (2)②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	環境省、林野庁、国土交通省 ※iki-tomo 推進事務局：国土緑化推進機構
取組にあたって連携するその他の団体	
令和元年度実施内容等	・ グリーンウェイブ 2019、2020 への参加呼びかけの実施
令和元年度取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A 「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに 1 団体を任命するなど、継続して取組を実施。
令和 2 年度実施内容等（予定）	・ グリーンウェイブ 2020 への参加呼びかけの実施。 ・ 「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーの任命を実施（継続）
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）	

取組 0-4	連携事業の認定
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知目標の達成に向けた各セクターの参加と連携を促進するため、国際自然保護連合日本委員会が実施する「にじゅうまるプロジェクト」の登録事業のほか、UNDB-J 構成団体や関係省庁の関連する事業の中から、「多様な主体の連携」、「取組の重要性」、「取組の広報の効果」の観点から総合的に判断し、UNDB-J が推奨する事業を認定。</li> <li>・ UNDB-J が実施する生物多様性全国ミーティングにおける認定団体の表彰、UNDB-J のウェブサイトへの掲載等、積極的な広報を実施。</li> </ul>
該当する愛知目標	・目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	4. ③
取組にあたって連携す	※iki-tomo 推進事務局：国際自然保護連合日本委員会

る他の UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和元年 11 月に第 15 弾の認定として 9 事業を認定。、令和 2 年 4 月に第 16 弾として 10 事業を認定。</li> <li>・ 「あいち・なごや生物多様性 EXPO」にて、認定連携事業の表彰を実施。</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A
令和 2 年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携事業の成果をとりまとめ、2021 年度以降の検討にいかす（新たな認定は行わない）</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）	

取組 0-5	生物多様性アクション大賞
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民一人ひとりが MY 行動宣言 5 つのアクションを理解し実践するため、全国各地から事例を収集してウェブサイトに掲載することと、各地の活動を応援することを目的に、企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の 5 つのアクションに即した活動を募集し表彰する「生物多様性アクション大賞」を実施。</li> </ul>
該当する愛知目標	・ 目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①②、2. ②、3. (2)、4. ②③
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	※iki-tomo 推進事務局：CEPA ジャパン
取組にあたって連携するその他の団体	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の 5 つのアクションに即した活動を表彰する「生物多様性アクション大賞 2019」を実施。</li> <li>・ エコプロダクツ 2019 イベントステージにて生物多様性リーダー・さかなクンと一緒に生物多様性について考える企画を行いアクション大賞および、大賞</li> </ul>

	受賞者の活動を紹介・発表。	
令和元年度の実施結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性アクション大賞の総括を行う、生物多様性アクションフォーラムの開催及びレポートの策定</li> <li>・ COP15 での本活動の報告</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		
指標	定義	応募数
	2020年の目標値	
	最新値	122件(2013年) 124件(2014年) 135件(2015年) 104件(2016年) 116件(2017年) 100件(2018年) 91件(2019年)

取組0-6	様々な形での情報発信等
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民の皆様に生物多様性の保全と持続可能な利用について理解を深め、行動につなげていただくことを目的に「生物多様性全国ミーティング」を年1回開催。</li> <li>・ 各地域における関係者が一堂に会し、事例紹介やワークショップを行う「地域フォーラム」を開催。</li> <li>・ 生物多様性条約締約国会議において UNDB-J の取組を発信。</li> <li>・ ウェブ(UNDB-Jウェブサイト、生物多様性.com)を活用した情報発信を実施。</li> <li>・ 地球生きもの応援団、小冊子 iki-tomo 等による普及啓発を実施。</li> </ul>
該当する愛知目標	・ 目標1

ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①、2. ①、3. (1)①、3. (2)②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	※ウェブを活用した情報発信の iki-tomo 推進事務局： 日本自然保護協会
取組にあたって連携するその他の団体	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県名古屋市で「あいち・なごや生物多様性 EXPO」を開催。</li> <li>・ ウェブを活用し、UNDB-J の活動状況等を発信。</li> <li>・ 地球生きもの応援団の全国ミーティング等での出演を通じた普及啓発の実施、小冊子 iki-tomo を 2 号発行。</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A
令和 2 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クロージングイベントを開催予定</li> <li>・ ウェブを活用し、UNDB-J の活動状況等を発信。</li> <li>・ 地球生きもの応援団のイベント等での出演を通じた普及啓発の実施、小冊子 iki-tomo を発行。</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等(予定)	

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：経団連自然保護協議会

取組 1 - 1	公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護・生物多様性保全活動への支援	
概要・目的	・公益信託経団連自然保護基金により、国内外のNGO等が行う自然保護・生物多様性保全プロジェクトに対する資金的支援。基金の原資は経団連自然保護協議会が企業や個人に呼びかけて集めた寄付金等。	
該当する愛知目標	・目標5、目標9、目標10、目標11、目標12、目標14、目標15、目標18、目標19、目標20	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1①、2②、3(2)	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	環境省、外務省、農林水産省、関係NGO等	
取組にあたって連携するその他の団体	会員企業、寄附企業・団体、基金支援先のNGO等、大学・研究機関、地方公共団体など	
令和元年度実施内容等	(1) 国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトの支援（72件、約1億5,906万円） (2) 令和2年度支援に係る公募の実施 (3) 創設25周年記念特別基金助成事業（3ヶ年）の第3年度助成の実施（平成29年度～令和2年度の3年間で1億5000万円の支援） (4) 現地視察会の実施	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	国内外のプロジェクト支援に着実に取り組んでいる。加えて、創設25周年記念特別基金助成事業の対象プロジェクトを選定し3年度目の助成を実施した。
令和2年度実施内容等（予定）	(1) 国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトの支援（82件、約1億7,392万円） (2) 令和3年度支援に係る公募の実施 (3) 創設25周年記念特別助成事業の対象プロジェクト（3カ年事業）の総括 (4) 現地視察会の開催	
【参考】令和3年度実施内容等（予定）	(1) 継続して国内外の自然保護・生物多様性保全プロジェクトに支援 (2) 現地視察会の開催など	

取組 1 - 2	企業とNGO等の交流・協働の促進	
概要・目的	・生物多様性に関する取組みを促進するため、企業が民間の自然保護団体や、公共組織、研究者・専門家など、様々なセクターの関係組織と交流・協働して活動を推進できるように支援する。	
該当する愛知目標	・目標 1、目標 4	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1 ①、2 ②、4 ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体	
取組にあたって連携するその他の団体	企業・団体、NGO等や大学・研究機関、地方公共団体など	
令和元年度実施内容等	(1) 企業とNGOの交流と協働をテーマとしたシンポジウムの開催（5月） (2) NGO活動報告会の開催（12月） (3) 海外視察ミッション（ガラパゴス）の実施（1月） (4) 国内視察（長野県信濃町）を実施（8月）	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	シンポジウムや活動報告会、視察を通じたNGO等との交流・協働に着実に取り組んでいる。
令和2年度実施内容等（予定）	(1) NGO等との交流会の開催 (2) NGO活動報告会の開催 (3) 海外視察ミッションの実施 (4) 国内視察の実施	
【参考】令和3年度実施内容等（予定）	継続して下記の事業などを実施予定 (1) 企業とNGOの連携と協働をテーマとしたシンポジウムや交流会の開催 (2) NGO活動報告会の開催 (3) 海外視察ミッションの実施 (4) 国内視察の実施	

取組 1 - 3	企業への啓発・情報提供	
概要・目的	・生物多様性の主流化促進を図るため、民間参画において重要な役割を担う企業に対し、関係組織や専門家とも連携しながら各種の手段で啓発・情報提供を行う。	
該当する愛知目標	・目標 1、目標 4	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1 ①②、2 ②、3 (2) ①②、4 ①②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体	
取組にあたって連携するその他の団体	会員企業・団体、NGO等や大学・研究機関、地方公共団体など	
令和元年度実施内容等	(1) 国内外に日本経済界取組をアピールするため、「経団連生物多様性宣言」に賛同する企業を募集（1月） (2) 生物多様性に関するアンケートの実施・とりまとめ（2月） (3) 機関誌の発行（年3回） (4) 講演会・シンポジウム等の開催 * 生物多様性民間参画パートナーシップ会合は2月に開催予定であったが、コロナウィルスにより中止となった。	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	生物多様性に関するアンケートは平成23年以降毎年実施しており、回答数も着実に増加、企業の取組みも進展している。
令和2年度実施内容等(予定)	(1) 「経団連生物多様性宣言」の賛同企業のロゴ一覧と取組事例集を日英で作成 (2) 機関紙の発行（年3回） (3) 講演会・シンポジウム等の開催 (4) 生物多様性民間参画パートナーシップ会合の開催	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	継続して下記の事業などを実施予定 (1) 改訂版「経団連生物多様性宣言・行動指針」の普及 (2) 機関紙の発行（年3回） (3) 講演会・シンポジウム等の開催	

取組 1 - 4		生物多様性保全を通じた地域創生
概要・目的		自然保護、生物多様性保全を通じて地域創生を図る活動を支援し、地域社会の持続的な発展に貢献する。
該当する愛知目標		・目標 1、目標 14
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1①②、2①②、3(2)①②、4①②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		環境省、農林水産省、他経済団体、事業者団体
取組にあたって連携するその他の団体		会員企業・団体、NGO等や大学・研究機関、地方公共団体など
令和元年度実施内容等		(1) 岩手県宮古市「震災メモリアルパーク中の浜」の植樹管理と環境教育支援（6月、9月） (2) UNDB-J 選定「生物多様性の本箱」の寄贈（通年） (3) 石巻・南三陸ビジターセンターと連携して東北復興支援プロジェクトを支援（通年）
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 6年継続した「震災メモリアルパーク中の浜」の植樹管理と環境教育支援を地元主体とするため、報告会を実施した。 協議会としての寄贈に加えて、協議会会員企業にも「生物多様性の本箱」について呼びかけ、寄贈した。
令和2年度実施内容等(予定)		(1) 石巻・南三陸プロジェクトの継続実施 (2) 「生物多様性の本箱」の寄贈、企業への寄贈の働きかけ
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		継続して下記の事業などを実施予定 (1) 南三陸・石巻プロジェクトの実施 (2) 「生物多様性の本箱」の寄贈、企業への寄贈の働きかけ
指標	定義	「生物多様性の本箱」の寄贈数
	2020年の目標値	少なくとも全都道府県に1セットずつ寄贈
	最新値	44 都道府県、49 ヲ所（2020年3月末時点）

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名：日本商工会議所

取組3-1	e c o 検定（環境社会検定試験）の実施	
概要・目的	<p>環境に関する幅広い知識を礎とし積極的に環境問題に取り組む「人づくり」と、環境と経済を両立させた「持続可能な社会づくり」を目的とし、環境問題に関する幅広い基礎知識の習得を促す検定試験。</p> <p>東京商工会議所を中心に全国の商工会議所が連携して運営している。試験は年に2回、47都道府県・約200箇所にて実施しており、2006年の創設以来、累計で約48万人が受験し、約29万人の合格者（エコピープル）が誕生している（2020年3月末日現在）。</p> <p>&lt;「持続可能な社会をわたしたちの手で&gt;</p> <p>世界的な環境意識の高まりにともない、国内でも企業のSDGsに関する取組みが広がっており、企業においては、ビジネスと環境の相関を的確に説明できる人材の育成が急務となっている。e c o 検定は、ますます多様化・複雑化する環境問題の知識を幅広く体系的に身に付けることのできる「環境教育ツール」として、多くの企業や大学等にて活用されている。</p> <p>ホームページ URL : <a href="https://www.kentei.org/eco/">https://www.kentei.org/eco/</a></p>	
該当する愛知目標	目標1、目標19	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	4. ①	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	各地の商工会議所	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験日 7月21日、12月15日</li> <li>・ 試験箇所数 205箇所（商工会議所）</li> <li>・ 受験者数 31,703名</li> <li>・ 合格者数 21,722名</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	受験者数の拡大を狙い、7月試験を対象に3人1組で合計得点を競う「eco-MASTER GRAND PRIX」の3回目を開催した。併せてe c o 検定合格者支援事業を継続した。

令和2年度実施内容等(予定)		・ 試験日 7月12日、12月13日
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		・ 未定
指標	定義	①受験者数 ②学生受験割合
	2020年の目標値	①累計受験者数 50万人 ②学生受験割合 10.0%
	最新値	①2019 受験者数 : 31,703 人 2019 時点の累計受験者数 : 489,925 人 ②2019 : 9.0%

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名：(一社)大日本水産会

取組5-1		日本発の水産エコラベルの普及促進
概要・目的		・我が国の生物多様性を反映した日本発の水産エコラベルであるMEL（マリン・エコラベル・ジャパン）の買う同を支援し、水産資源の持続的利用と生態系の保全に寄与する。
該当する愛知目標		目標1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		【1. ①】 【3. (2). ①】
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		マリン・エコラベル・ジャパン協議会 水産庁 各漁業、水産関係団体
令和元年度実施内容等		・普及のための講習会開催 ・シーフードショーほかの展示会開催による広報活動
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 講習会を9回開催、約300名の参加。 ワークショップ（セミナー、討論会）1回開催 240名参加 展示商談会2回開催（東京、大阪）
令和2年度実施内容等（予定）		・国内外認証制度管理者と認証事業者および認証物のバイヤーを一堂が会し、取組の紹介と展示商談会を同時に行うグランドミーティングの開催。
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		（未定）
指標	定義	・認証数 ・イベントの参加者
	2020年の目標値	・認証数の倍増 ・500名（延べ）
	最新値	・認証数65（2020年2月現在） ・イベント参加者（講習会300名、WS240名） （2020年3月現在）

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：全国漁業協同組合連合会

取組 6 - 1		水産多面的機能発揮対策
概要・目的		・ 環境・生態系の維持・回復や安心して活動できる海域の確保など、漁業者が行う水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する地域の活動を支援
該当する愛知目標		目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ② 3. (2) ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		活動組織 地域協議会（県・市・漁協等）
令和元年度実施内容等		・ 環境・生態系保全
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 活動を行う全国の活動組織は増加傾向にあり、それぞれ活動水域の生物量の増加等の目標を設定し取り組んでいる。
令和2年度実施内容等（予定）		・ 藻場、サンゴ礁の保全、種苗放流等の活動を支援 ・ 干潟、ヨシ帯の保全、内水面の生態系の維持・保全、漂流漂着物の回収・処理等の活動を支援
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		・ 同上 ・
指標	定義	・ 生物量の増加、参加人数等
	2020年の目標値	・ 全国の活動組織約770が設定した目標の達成
	最新値	・

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：全国農業協同組合中央会

取組 9-1	JA 都市農村交流優良活動表彰	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国のJAグループ各組織の取組事例について情報を収集し、グループ内で共有することにより、意識啓発や取組の促進を促す。</li> <li>・ 生物多様性をはじめとした農業の多面的機能に関する理解促進を目指し、消費者を対象とした広報活動を展開する。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標 1、目標 7	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1 ①、3 (2) ①	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	JA グループ各団体	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市と農村の交流活動の取り組みを通じて、ファンづくりおよび地域活性化を図ることを目的に、特に優れた活動に取り組む会員に対して優良活動事例を表彰するため、事例の募集活動を行った。</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA 都市農村交流優良活動表彰について、団体の優良事例の表彰に向け募集活動を行った。</li> </ul>
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA 都市農村交流優良活動表彰を行う。</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA 都市農村交流優良活動表彰を行う。</li> </ul>	

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：全国農業協同組合連合会

取組 10-1	地域における生物多様性保全活動支援
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における生物多様性の保全に資する活動等を支援するため、以下の事業を実施</li> <li>「田んぼの生きもの調査」</li> <li>生産者と消費者と一緒に水田に接することを通じて、水田が果たしている環境保全などの多面的機能や農業価値の理解深耕を促進</li> </ul>
該当する愛知目標	・目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	3. (2) ②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAグループ</li> <li>・生活協同組合（コープ）</li> <li>・生物多様性保全活動先進地の大崎市、佐渡市、豊岡市</li> </ul>
令和元年度実施内容等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生きもの調査」実施回数：延べ〇〇回（30年度：83回）</li> <li>2. 実施内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次世代を対象とした食農・環境教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・高校への「出前授業」の実施</li> <li>・JA・生産者と協力して一般親子対象のイベントを開催</li> </ul> </li> <li>(2) 生協等との産直交流として実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本会子会社と生協との田植え、草取り、稲刈り交流の一メニューとして実施し、本会は講師として参加</li> </ul> </li> <li>(3) 普及・拡大に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識向上と実践ノウハウ習得のための研修会を開催</li> <li>・ラジオ、テレビで活動を放送</li> </ul> </li> <li>(4) 行政・NPO法人等と協働した環境保全活動として実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」を主宰するNPO法人ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）を支援</li> <li>・JAグループ内イベントのほか、小学校の教育大会等で生きもの調査ブースを出展。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>

令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 昨年度、本会の実施回数は減少ながらも継続した取り組みとして定着しており、また当活動に興味をもつ地域は増えていることから、今後の取り組み増加が期待できる。本会の実施回数には含まれないが、独自に取り組みを行う生産者団体への支援等も実施している。
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JAグループ全体を対象とした研修会を継続して年2回開催</li> <li>・ 消費者向けのイベントの開催。</li> <li>・ 農学系高校や大学との取り組み強化。</li> <li>・ SNSでの活動のさらなる拡散。</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JAグループ職員を対象にしたノウハウ習得の研修会内容の充実と参加者の増加。</li> <li>・ 小学校をはじめ次世代に向けた食農・環境教育としての「出前授業」の実施、またJA・生産者と協力して一般親子対象のイベント開催による理解深耕はかる。</li> <li>・</li> </ul>
指標	定義	田んぼの生きもの調査実施回数
	2020年の目標値	実施回数：100回(年間)
	最新値	65回(令和元年度)

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般社団法人 日本旅行業協会

取組 1 1 - 1		外来種駆除等環境保全活動
概要・目的		・ 外来種駆除活動を通じて、日本古来の自然環境を学び、旅行商品造成に生かす。
該当する愛知目標		・ 目標 9：侵略的外来種が制限され、根絶される。 ・ 目標 14：自然の恵みが提供され、回復・保全される。
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ②日頃から自然とふれあうライフスタイルが一般化：関係者の連携で推進
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		なし
取組にあたって連携するその他の団体		外来種駆除活動をはじめとした環境保全活動を行う NPO、NGO や地域行政との協力
令和元年度実施内容等		当協会地方支部（北海道、関東、中部、関西、九州、沖縄）の在る 6 地域で実施。
令和元年度取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		A 参加者より自然環境保全活動への意識が高まったとの声が寄せられ、活動目的が実行されていると感じる。中四国のみコロナ影響で中止（3月）
令和2年度実施内容等（予定）		当協会地方支部（各7支部）が中心となり外来種駆除をはじめとした環境保全活動を検討・実施予定。
令和3年度実施内容等（予定）		外来種駆除活動は今後も継続予定。
指標	定義	① 参加者数 ② 実施地域数
	2020年の目標値	② 250名 ② 地域数は変わらず
	最新値	（2019年度） ① 合計 168名参加 ③ 6地域で実施

取組 1 1 - 2		J A T A の道プロジェクト
概要・目的		環境省の設定する東北地方太平洋沿岸地域のトレイルコース：みちのく潮風トレイルを活用し、東北復興支援活動として「新しい東北観光」の実現に向け、東北地方太平洋沿岸エリアの「自然環境の整備活動」を通じ、「自然景観の復興」・「生活文化の再生と向上」に取り組むもので、2014年4月から震災発生10年後の2021年3月までの7年間実施する。特に「旅行業界らしい」事業として、実地踏査による地域の観光資源開発や地域の方々との交流を設け、旅行による人的交流拡大に寄与し、よって、復興支援とする。
該当する愛知目標		目標14：自然の恵みが提供され、回復・保全される。
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ②日頃から自然とふれあうライフスタイルが一般化：関係者の連携で推進
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		なし
取組にあたって連携するその他の団体		地域行政や交通機関、宿泊機関等の地域の観光サービス提供事業者
令和元年度実施内容等		宮城県気仙沼市～南三陸町の「みちのく潮風トレイル」地域で実施。
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		A 東北・三陸地域には魅力的な資源が沢山ある一方でその魅力があまり知られていない。実際に体験・視察しトレイルコースの情報を発信し、地元の方々と一緒に地域を盛り上げることに繋がられている。
令和2年度実施内容等(予定)		・宮城県石巻市、東松島市、塩釜市エリアの「みちのく潮風トレイル」地域で10月上旬に実施予定。 ・「みちのく潮風トレイル」体験ウォーキング、宮城県太平洋沿岸地域の視察、地元観光関係者と会員旅行会社との意見交換会を実施予定。
令和3年度実施内容等(予定)		J A T A の道プロジェクト「みちのく潮風トレイル」は令和2年で終了。令和3年からは「古道」プロジェクトを計画予定。
指標	定義	①参加者数
	2020年の目標値	① 参加者、延べ700名(2020年より開始予定) J A T A 「古道」プロジェクトの企画(予定)
	最新値	(2019年度末までの累積J A T A の道) ① 333名参加

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

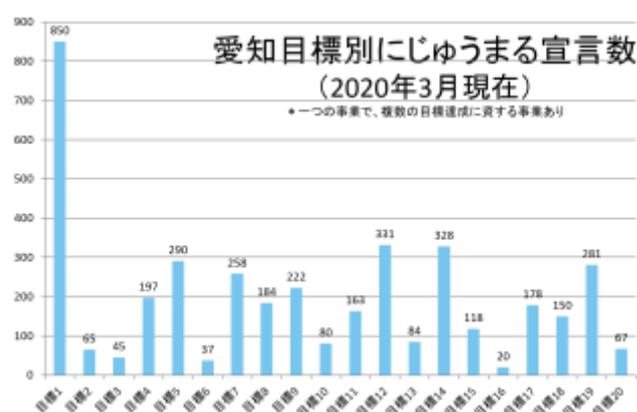
団体名：国際自然保護連合日本委員会

取組 1 2 - 1	にじゅうまるプロジェクト	
概要・目的	<p>・国際情報も含む情報を収集・提供し、②目標への取り組みを動機づけし、③効果的な活動を提案し、④個別目標毎のネットワーク化を推進し、⑤目標達成状況を評価する場の設定に貢献すること</p> <p>「愛知目標を知り、自分達の活動とのつながりに気づき、そして、生物多様性のアクションを宣言（にじゅうまる宣言）する。」という参加型キャンペーン。愛知目標達成に向けた行動を奨励し、かつ、見える化（指標化）と宣言団体間の連携を図ることで上記目的を達成する</p>	
該当する愛知目標	・目標 1～20 まで	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2①、2② 4① 4② 4③	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	日本自然保護協会、CEPA ジャパン、国連生物多様性の10年市民ネットワーク、日本動物園水族館協会、生物多様性わかものネットワークおよび COND、環境省、その他 UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	IUCN-J 加盟団体、国立環境研究所、生物多様性条約事務局、認定連携事業実施団体など	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ にじゅうまる宣言の拡大（別紙）</li> <li>・ 電機電子4団体との連携や、田んぼ10年事業を通じての宣言数拡大など</li> <li>・ 日本動物園水族館協会加盟園館との MY 行動宣言拡大支援</li> <li>・ にじゅうまるプロジェクトの10年成果の取りまとめと、宣言団体による総会（第4回パートナーズ会合）の開催</li> <li>・ 生物多様性条約関連プロセスへのユース参画支援（生物多様性ユースアンバサダー）の発足</li> <li>・ ポスト2020 枠組みに関する情報収集と発信</li> </ul>	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A	予定した取り組みは概ね実施。ただし、にじゅうまる宣言数は、目標値2020に至らなかった。

令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ にじゅうまる宣言の拡大に向けた連携</li> <li>・ 生物多様性条約関連プロセスへのユース参画支援 (生物多様性ユースアンバサダー)</li> <li>・ IUCN 世界自然保護会議や、CBD-COP15 における日本の優良事例発信 (UNDB-day の開催支援)</li> <li>・ UNDB 最終年 (2020 年) に向けた今後の方向性検討と実施</li> <li>・ ポスト 2020 枠組みに関する情報収集と発信</li> <li>・ 生物多様性国家戦略検討プロセスへの参画支援</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ にじゅうまるプロジェクトの後継の仕組みの発足 (2021 年 5 月 22 日)</li> <li>・ 生物多様性国家戦略検討プロセスへの参画支援</li> </ul>
指標	定義	・ にじゅうまる宣言数
	2020 年の目標値	・ 2020 宣言
	最新値	・ 1054 宣言

#### にじゅうまるプロジェクト宣言数の推移について

2020 年 3 月末段階で 670 団体、902 事業であったにじゅうまる宣言は、2020 年 3 月末時点で、729 団体、1054 事業となりました。目標値 1500 には届きませんでした。着実に宣言数を伸ばしています。



国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益社団法人日本植物園協会

取組 1 3 - 1		植物多様性保全拠点園ネットワーク事業
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物園での保全植物種増加と保全植物の質の向上を目指し、全国の保全拠点植物園が地域ごとにネットワークを構築し効率的な保全活動を進める。</li> <li>①2020年までに植物園において日本産絶滅危惧植物種（CR, EN, VU）の75%の生息域外保全を行う</li> <li>②日本産絶滅危惧植物種の生育特性情報収集とデータベース構築による、効果的な保全手法の提示</li> <li>③全国の植物園での絶滅危惧植物種の生息域外保全状況（5年ごと）の調査、集計</li> </ul>
該当する愛知目標		・目標11、目標12、目標13
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		環境省
取組にあたって連携するその他の団体		全国各地の植物園と連携して活動を進める博物館等施設、植物研究団体、愛好会、研究者、行政
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅危惧植物保有状況調査の継続</li> <li>・絶滅危惧植物の生育特性情報収集とデータ入力</li> <li>・植物園で未保有の絶滅危惧種の種子等収集</li> <li>・外来植物対策：オオキンケイギクの調査</li> <li>・ナショナルコレクション認定</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 令和元年度の生息域外保全追加種48種、特性情報データ増加数53種、ナショナルコレクション認定数3件、オオキンケイギクの実用的な同定方法の広報など、着実に実績を増やした。
令和2年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅危惧植物保有状況調査の継続</li> <li>・絶滅危惧植物の生育特性情報収集とデータ入力</li> <li>・植物園で未保有の絶滅危惧種の種子等収集</li> <li>・ナショナルコレクション認定</li> <li>・種子保存技術の向上</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスト2020年目標の策定</li> <li>・種子等収集による生息域外保全数の増加</li> </ul>
指標	定義	・日本植物園協会の植物多様性保全2020年目標
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産絶滅危惧植物種の75%の生息域外保全を実施し、65%は自生地情報を持つ個体を保全する。</li> <li>・日本産絶滅危惧植物種の20%について自生地情報</li> </ul>

		を持つ種子・胞子を保存する。
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生息域外保全数 70% 1241 種 (2019.4)</li> <li>・ 種子・胞子等保全数 25% 451 種 (2020.3)</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益社団法人日本動物園水族館協会

取組 1 4 - 1		絶滅危惧種の生育域外保全
概要・目的		絶滅危惧種の絶滅を回避する保険として、野生復帰させ得る資質を備えた生息域外（飼育下）個体群を形成、維持するとともに、動物園等における普及啓発の推進を図ることを目標とする。
該当する愛知目標		目標 1 2、目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ①② 4. ①②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		環境省
取組にあたって連携するその他の団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟園館</li> <li>・日本獣医生命科学大学</li> <li>・岐阜大学</li> <li>・中部大学創発学術院</li> <li>・宮崎大学</li> <li>・琉球大学</li> </ul>
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツシマヤマネコ生息域外保全及び普及啓発</li> <li>・ ライチョウ生息域外保全及び普及啓発</li> <li>・ トゲネズミ類生息域外保全</li> <li>・ ミヤコカナヘビ生息域外保全</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		A
令和2年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の実施内容の継続的实施</li> <li>・ スジシマドジョウ類の生息域外保全及び普及啓発</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の実施内容の継続的实施</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個体群維持のために有意な取組み成果の有無</li> <li>・ 加盟園館における普及啓発活動の実績の有無</li> </ul>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象種の全てで一定の個体数を確保できている。</li> <li>・ （公社）日本動物園水族館協会加盟園館における普及啓発活動が定常的に実施されている。</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツシマヤマネコ 令和元年12月31日現在9施設で31頭（♂16、♀</li> </ul>

		<p>15) 飼育中。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライチョウ 令和2年3月31日現在6施設で42羽(♂25、♀17)飼育中。</li> <li>トゲネズミ類(アマミトゲネズミ) 令和元年12月31日現在3施設で62頭(♂35、♀27)飼育中。</li> <li>ミヤコカナヘビ 令和元年12月31日現在、2施設で100頭以上(性別は不明)を飼育中。</li> </ul>
--	--	---

取組14-2	外来生物対策	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来種問題に係る理解と関心を高めることで、外来種への取組を社会に浸透させ、主流化へ導くことを目的とする。</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標9、目標1</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①②	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	4. ①②	
取組にあたって連携するその他の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省</li> <li>(公社) 日本動物園水族館協会加盟園館</li> </ul>	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿御苑みどりフェスタへのブース出展(4/29)</li> <li>動物愛護週間中央行事へのブース出展(9/14)</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>みどりフェスタでは外来種が描かれた缶バッジ原画、中央行事では外来種と在来種が対になって描かれた葉原画を使用したぬり絵ワークショップを行い、その場で缶バッジ・葉を制作し参加者へ渡すことで外来種を印象づけることができた。</li> </ul>
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿御苑みどりフェスタへのブース出展(中止となりました)</li> <li>動物愛護週間中央行事へのブース出展</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿御苑みどりフェスタへのブース出展(4/29)</li> <li>動物愛護週間中央行事へのブース出展</li> <li>※上記の活動を毎年、継続的に実施</li> </ul>	
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者への「しおり」、「缶バッジ」配布数</li> </ul>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年から2020年までの4年間で累計1500件</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年～ 1205件</li> </ul>

取組 1 4 - 3		いきもの学びねっと
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の動物園と水族館で実施される教育普及プログラムや特別展・企画展の情報を事前に日本全体に発信するためのポータルサイトを開設し、広く市民一般を対象に生きものとのふれあいや環境学習の機会を提供することを目的とする。</li> </ul>
該当する愛知目標		目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟園館</li> </ul>
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ポータルサイトの継続的運用</li> <li>・情報元となる動物園・水族館の参加数の増加</li> <li>・本ポータルサイトと他の関連ウェブサイトとのリンク網の拡充</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		C <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイト運営は継続して実施。</li> <li>・令和元年度の JAZA の WEB サイト全面リニューアルによる情報のリセット後、情報数が激減したままとなっている。</li> <li>・リンク先拡充については、30 年度については、実施していない。</li> </ul>
令和 2 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ポータルサイトの継続的運用</li> <li>・情報元となる動物園水族館の参加数の増加</li> <li>・情報掲載の手続き簡素化を検討</li> <li>・本ポータルサイトと他の関連ウェブサイトとのリンク網の拡充</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ポータルサイトの継続的運用</li> <li>・情報元となる動物園水族館の参加数の増加</li> <li>・本ポータルサイトと他の関連ウェブサイトとのリンク網の拡充</li> <li>・※上記の活動を毎年、継続的に実施</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供を行っている園館数</li> </ul>
	2020 年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15 園館以上が当サイト情報を掲載し活用している。</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供園館数 2 園館</li> </ul>

取 1 4 - 4		MY 行動宣言
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟の 143 の動物園・水族館で行われるイベントにおいて、MY 行動宣言シートを活用した、生物多様性に関する普及啓発の取組を推進し、2020 年までに 10 万宣言を集めることを目標とする。</li> </ul>
該当する愛知目標		目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ①②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		IUCN-J
取組にあたって連携するその他の団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境省</li> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟園館</li> </ul>
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟園館での MY 行動宣言シートの活用推進</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A   2019 年 12 月末までに約 9.5 万宣言
令和 2 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟園館での MY 行動宣言シートの活用推進</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本動物園水族館協会加盟園館での MY 行動宣言シートの活用推進</li> <li>・ ※上記の活動を毎年、継続的に実施</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MY 行動宣言シート宣言数</li> </ul>
	2020 年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年までに 10 万宣言</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019 年 12 月末時点：95,000 宣言</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益財団法人 日本博物館協会

取組 15-1		UDNB-J 事業の周知啓もう支援
概要・目的		・ 日本博物館協会の会員、関連組織等への UDNB-J の目的、活動の周知啓もうの支援を行う。
該当する愛知目標		・ 目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1 ①（博物館関係機関、利用者を中心とする取組み）
取組にあたって連携する他の UDNB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国 10 支部の総会等において活動周知</li> <li>・ ICOM 京都大会での国内外博物館関係者への周知</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A	日本博物館協会の地方支部等での周知。個別博物館への情報提供も実施した。ICOM 京都大会での周知は一定程度行えた。
令和2年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウェブによる取組強化</li> <li>・ 総合博物館、自然史系博物館への情報提供強化</li> <li>・</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関誌による情報提供</li> <li>・ ウェブによる取組強化</li> <li>・ 全国大会での報告</li> </ul>
指標	定義	・ 総合博物館、自然史系博物館での情報提供
	2020年の目標値	・ 10 施設
	最新値	・ 10

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般社団法人CEPAジャパン

取組 17-1	普及計発の結果分析
概要・目的	<p><u>1. MY 行動宣言 5つのアクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」の活用。</li> </ul> <p><u>2. CEPA ツールキットの開発・公開、HP「いきものぐらし」での事例展開</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきものぐらし」のサイトでの企業事例紹介、英文対応の取組も推進。</li> </ul> <p><u>3. MY 行動宣言 5つのアクションのモデルとなる取組—生物多様性アクション大賞による表彰</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の5つのアクションに即した活動を表彰する「生物多様性アクション大賞 2019」を実施。(7回目 2019年度は92件の応募があり、応募件数累計 792件)</li> <li>・エコプロ 2019にてアクション大賞および、大賞受賞者の活動を紹介・発表。</li> </ul> <p><u>4. 自然観察会・CEPAさんぽ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察指導員東京連絡会の協力他を得て、都会の中で生物多様性を感じる自然観察会を3回実施。</li> </ul>
該当する愛知目標	目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	<p>1. ①②</p> <p>2. ②</p> <p>3. (2)</p> <p>4. ②③</p>
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MY 行動宣言 5つのアクション(継続)</li> <li>・生物多様性アクション大賞の実施(継続)および CEPA ツールキットの開発・公開、HP「いきものぐらし」での事例展開 (継続)真円度は、92件の応募があり、18件が受賞。エコプロ 2019 での大臣賞の発表および、「さかなクンと考える、生物多様性と SDGs」「いきものぐらし」ウェブに生物多様性アクション</li> </ul>

		<p>大賞事例を追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>自然観察会・CEPA さんぽ(継続)</u>  ネイチャーガイドと歩こう!身近な自然発見など、身近な自然を感じる自然観察会を実施(東京都内の野川公園、石上井公園、根津での 合計3回)。</li> <li>・ <u>生物多様性に配慮した購買行動を促進する活動</u>  WEBサイト「いろ、とりどり」を開設。生物多様性に配慮した商品27事例を「市民認証」Webで公開。</li> </ul>
<p>令和元年度の実施結果に対する自己評価</p> <p>A: 予定した取組を概ね実施できた  C: 予定した取組を実施できず</p>	A	<p>生物多様性アクション大賞・グリーン復興の取り組みを継続し、日本固有の生態系を活かした主流化・生物多様性配慮購買行動の促進の取り組みも拡大出来た。</p>
<p>令和2年度実施内容等(予定)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性アクション大賞の総括を行う、生物多様性アクションフォーラムの開催及び、そのレポートの策定</li> </ul> <p>平成28年から新たに取り組んできた事業を検証し、愛知ターゲット達成に向けて生物多様性の主流化の加速支援を継続。そして10年間を振り返り、またこれからの10年をSDGsの主流化と達成に向けた取り組みを推進できるよう、2020年に仕上げと節目と新たなキックオフのイベント開催を検討する。</p>
<p>【参考】令和3年度実施内容等(予定)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CBD COP15での本活動の報告</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いきものぐらし」のサイトで紹介する優良事例数</li> </ul>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 400件</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 308件</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：生物多様性わかものネットワーク

取組 18-1		ごごとプロジェクト
概要・目的		目的：「世の中、まるごと、自分ごと！」をテーマに、生物多様性をはじめ、環境問題を自分ごととして捉え、自分の言葉で発信することのできる人材を育成する。 ・参加体験型のイベントを中心に普及啓発を行なう。
該当する愛知目標		目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		
令和元年度実施内容等		・ 生物多様性わかものサミットの企画 ・
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A フィールドで活動する人を対象にしたイベントを行う準備を進めることができた。弊団体にとってチャレンジな内容に取り組んでいる。
令和2年度実施内容等(予定)		・ 生物多様性わかものサミットの実施 ・ 参加者のその後フォローアップ企画
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		・ 全国規模で生物多様性の楽しさ・大切さを実感できるイベント
指標	定義	・ 参加者人数
	2020年の目標値	・ 200人
	最新値	・ 54人

取組 18-2		国際会議へのユースの派遣
概要・目的		目的：若い世代、将来世代までを意識した政策提言を行う。 ・生物多様性に関する国際的な若者ネットワークへの参画

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際的な動向の収集や活動を行うことのできる人材の育成</li> <li>・ 若者の立場としての政策提言活動の実施</li> </ul>
該当する愛知目標		目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		4. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		国際自然保護連合日本委員会
取組にあたって連携するその他の団体		GYBN (Global Youth Biodiversity Network)
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ OEWG1 派遣 (2 名)</li> <li>・ OEWG2 派遣 (3 名)</li> <li>・ OEWG1, 2 とも勉強会、事前意見交換会、報告会を実施</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	<p>海外のユースとの協力体制を充実させ、多くの議題に関して積極的な政策提言を実施しているほか、海外での普及啓発等イベント協働に向けた有意義な交流ができています。</p> <p>国内でも派遣メンバーとそれ以外の育成を進めている。</p>
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポスト 2020 枠組みに対する若者の意見の収集、提言</li> <li>・ 国際会議派遣</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際会議 (SBSTTA、SBI、CBD-COP、WCC など) への継続的な派遣</li> </ul>
指標	定義	派遣人数
	2020 年の目標値	7 人
	最新値	9 人 (複数の国際会議に参加しているメンバーがいるため)

取組 18-3		生物多様性カタリスト
概要・目的		<p>目的：より多くの人々が生物多様性に関する興味関心を深め、行動するきっかけを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生を対象としたイベントを中心として、生活に身近な視点を多くもりこんだ講演を行なう。</li> <li>・ 講演を行えるユースを育成する。</li> </ul>
該当する愛知目標		目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1. ① 4. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		国際自然保護連合日本委員会
取組にあたって連携するその他の団体		学生環境団体
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコラボ in 新潟、関西（愛知目標を使った企画づくりをするイベント）</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		<p>A</p> <p>出前講演の実施及びカタリストの育成を実施できた。</p> <p>今後、地方での出前講演の実施や、カタリストの育成人数の増加に努める。</p>
令和2年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコラボを愛知での実施</li> <li>・ 他分野の学生団体活動と生物多様性をコラボさせた普及啓発イベントの実施</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年度の取り組みによってつながった全国の団体と連携した啓発活動</li> <li>・ カタリストの育成</li> </ul>
指標	定義	①実施回数 ②カタリスト育成人数
	2020年の目標値	①20回（5年累積） ②10人（5年累積）
	最新値	①14回（4年累積） ②9人（4年累積）

取組 18-4		生物多様性わかもの会議
概要・目的		<p>目的：生物多様性に関心がある若者が集まり合宿し、互いの活動やその悩みなどの情報交換の場となることで、活動の活性化と連携を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃交流が難しい全国各地の団体が、合宿という時間を密に使えるイベントを通して意見交換する。</li> </ul>

		・特定のテーマを設定し時間を気にせず議論を行なう。
該当する愛知目標		目標 1、目標 19
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		4. ②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		国際自然保護連合日本委員会
取組にあたって連携するその他の団体		生物多様性に関わる活動を行なう全国の団体
令和元年度実施内容等		・ 10/19～10/20 に、八王子セミナーハウスにて開催 生物多様性保全のために、社会の何がどのように変わらなければならないのかを考え、愛知目標最後の年の活動について議論を行った。
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	参加者の獲得や話し合った内容の活かし方など課題となった部分は多々見られたが、参加者同士の交流や議論等は十分に行い、今後につながる新たな繋がりを作ることができた。合宿形式での交流・議論の場は、課題を見直しつつ今後も継続して設けて行く。
令和2年度実施内容等(予定)		・ 団体内外問わず、フィールドで活動する学生が交流し、協働のきっかけや各々が抱える課題解決の糸口を見つける合宿を開催(8～9月を検討中)
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		・ 団体内外の参加者による情報交換と交流に重きを置いた、フィールドワーク重視の合宿企画の開催
指標	定義	参加人数
	2020年の目標値	20人
	最新値	19人(累積、同一人物を除く)

取組 18-5	生物多様性わかもの白書
概要・目的	<p>目的：国内の生物多様性に関する活動を行う若者の活動を把握し、特に特徴的な活動事例などを発信することで、生物多様性の主流化に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に関するアンケート調査などを行い冊子にまとめ、普及する。</li> <li>・アンケート調査にあたっては、愛知目標に沿って活動内容の把握を行い、アンケート対象者に対してにじゅうまるプロジェクトの登録を促し、若者の登録数の増加を狙う。</li> </ul>

該当する愛知目標	目標 1、目標 19	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ② 4. ④	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	国際自然保護連合日本委員会	
取組にあたって連携するその他の団体	生物多様性に関わる活動を行なう全国の団体	
令和元年度実施内容等	・ 生物多様性わかもの白書 vol3 作成 (アンケート調査の実施、分析)	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	生物多様性わかもの白書 vol3 作成に向け、具体的に話を進めている。
令和2年度実施内容等(予定)	・ 生物多様性わかもの白書 vol3 の作成 (アンケート調査の分析、対面インタビュー実施、編集、製本作業)	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	・ 頻繁に若者の認識や活動など実態を測れるような仕組みを検討中	
指標	定義	配布部数
	2020年の目標値	700部(既に達成しているが、今後も配布を続けていく)
	最新値	860部(vol.1日本語フルバージョン:640部、英語概略版:180部、vol2日本語フルバージョン:40部)

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般財団法人自然公園財団

取組19-1		自然ふれあい行事
概要・目的		・生物多様性に対する認識・知識の普及を促進することを目的として、財団の支部で、動植物の観察会、ガイドウォーク、植樹会などを企画し、実施
該当する愛知目標		・目標1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		・2. ① ②
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		・地元小中学校 ・地元の植物研究会等 ・各地の国立公園パークボランティア
令和元年度実施内容等		・全国20カ所の支部で延べ約1550回実施、参加者約24,300名
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	C	開催した自然観察会やイベントについて、地元新聞に取り上げられることで、普及促進につながっているが、台風や新型コロナウイルス感染の影響を受け、参加人数は前年度比約82%に留まった。
令和2年度実施内容等（予定）		・令和元年度と同様に実施 ・さらに、地域に特化した自然情報誌「パークナビ」の作成やホームページによる告知強化を行う
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		・今後も毎年実施し、多数の参加を得て普及啓発を推進
指標	定義	・参加者数
	2020年の目標値	・増加を図る（30,000名）
	最新値	・令和元年度 約24,300名

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク

取組20-1	SATOYAMAにおける生物多様性の保全や利用に向けたネットワークの構築
概要・目的	国内における多様な主体（民間企業をはじめ、自然環境の保全・再生の活動団体、政府機関、地方自治体、大学等）が垣根を越えて、様々な交流・連携・情報交換等を図るためのネットワークを構築し、SATOYAMAにおける生物多様性の保全や利用の取組を国民的取り組みへ展開していくことを目的とする。
該当する愛知目標	・戦略目標A 目標1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①②、2. ②、3. (2) ①②、4. ②
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	国際自然保護連合日本委員会、国連生物多様性の10年日本委員会市民ネットワーク、CEPA ジャパン、農林水産省、環境省（ネットワーク参加団体）
取組にあたって連携するその他の団体	政府機関、市民団体、NGO、研究機関、企業、大学、地方自治体等
令和元年度実施内容等	<p>◆<u>総会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク総会（場所：熊本県、期日：令和元年9月4日）</li> </ul> <p>◆<u>IPSI-8 公開フォーラムへの参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IPSI-8 公開フォーラム（場所：熊本県、期日：令和元年9月4日）</li> </ul> <p>◆<u>エクスカーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークエクスカーション（場所：熊本県、期日：令和元年9月5日）</li> </ul> <p>◆<u>環境展示会への出展</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いしかわ環境フェア2019（場所：石川県、期日：令和元年8月24日～25日）</li> <li>・ ふるさと環境フェア2019（場所：福井県、期日：令和元年11月23日）</li> <li>・ エコプロ2019（場所：東京都、令和元年12月5日～7日）</li> </ul> <p>◆<u>後援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業の協働活動促進セミナー～企業の里山づくり活動のすすめ～（石川県主催、期日：令和2年3月23日）（中止）</li> </ul>

令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 総会・エクスカージョンの開催や展示会への出展等、着実に実施したが、新型コロナウイルスの影響で開催できないものがあった。
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境展示会への出展</li> <li>・ 総会等を通じた会員間の相互交流</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未定</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ にじゅうまるプロジェクト宣言団体数 (SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク加入団体内)</li> </ul>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30 団体</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 31 団体</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益財団法人 日本自然保護協会

取組 2 1 - 1		自然観察指導員講習会・自然の守り手の育成
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざした自然観察会を開き、自然を自ら守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダーである自然観察指導員を養成。登録後も研修会や会報『自然保護』・メールマガジンによる情報提供を行い、地域の自然を守る人材を育てています。</li> <li>・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手を増やすイベントを開催し、自然を守る心の育成、自然の見方を伝えています。</li> </ul>
該当する愛知目標		1, 5, 9, 10, 12
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ② 4. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		経団連自然保護協議会
取組にあたって連携するその他の団体		地方公共団体、NGO、市民団体、企業、大学、専門学校等
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主+新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員 470 人</li> <li>・研修会・若手育成支援</li> <li>・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者 13637 人</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 全国での自然観察指導員講習会の開催による新たな指導員、企業との連携拡大による自然とのふれあいの機会や自然の守り手拡大イベントへ参加者を順調に伸ばした。
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主+新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員 500 人/年へ</li> <li>・研修会・若手育成支援</li> <li>・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者 7000 人/年へ</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主+新たなセクターとの共催含め講習会開催で登録指導員 600 人/年へ</li> <li>・研修会・若手育成支援</li> <li>・企業との連携による自然とのふれあいの機会や自然の守り手イベント参加者 7000 人/年へ</li> </ul>
指標	定義	①自然観察指導員養成数 ②企業連携イベント参加者数

	2020年の目標値	①、②合算5万人（5年累積）
	最新値	・3万6229人（4年累積）

取組21-2	自然しらべ ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなでみれば、みえてくる」を合い言葉に、1995年から毎年継続している、身近な自然の状況を知る「自然の定期健康診断」。市民調査で集まった情報の結果を、学術協力者とまとめ、日本の自然を守る活動に活用。自然への愛着と関心を高め、日本の生物多様性を守ることにつなげることを目的に実施。</li> </ul>	
該当する愛知目標	・1, 9, 10, 12, 14, 19	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ① 4. ①	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	市民、市民団体、NGO、研究者、企業、博物館、メディア	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然しらべ番外編 身近な自然の健康診断市民調査</li> <li>・参加人数：611人</li> <li>・専門家による外来種識別講座</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A	2年で287地点、81種のアリの報告を得た。2019年はアルゼンチンアリを2か所で確認。外来アリの分布変化を多く確認できた。市民が外来種検知の大きな役割を担える状況ができた。
令和2年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民科学のツール活用を通じた身近な自然の健康診断市民調査</li> <li>・参加目標：3000人</li> <li>・自然への愛着と、絶滅危惧種保全、多様な生育生息環境の保全への関心強化</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民科学のツール活用を通じた身近な自然の健康診断市民調査</li> <li>・参加目標：4000人</li> <li>・自然への愛着と、絶滅危惧種保全、多様な生育生息環境の保全への関心強化</li> </ul>	
指標	定義	・参加者
	2020年の目標値	・1万人（5年累積）

	標値	
	最新値	・ 6516 人（4 年累積）

取組 2 1 - 3		STOP! 日本の絶滅危惧種
概要・目的		・ 日本の生物のうち約 3500 種が絶滅危惧種と報告されている。地域 NGO や専門家との協働し、絶滅危惧種とその生育生息地の保全や、各地の地域絶滅を食い止める活動支援のマッチングを行う。
該当する愛知目標		・ 1, 10, 12, 14, 20
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ② 4. ①②③
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		環境省, IUCN-J
取組にあたって連携するその他の団体		市民団体、NGO、企業、研究者、環境省、動植物園、博物館
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヌワシ、サシバ、ウミガメ、草原性のチョウ、クマタカ、四国のツキノワグマとその生息地の保全活動</li> <li>・ 保全活動への寄付者件数 1600 件</li> <li>・ 地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 6 種の希少動植物の生息地保全プログラムを実施し、繁殖成功や活動協力者、支援の拡大を進めることができた。
令和 2 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本絶滅危惧種 6 種以上の保全活動を広く支援</li> <li>・ 保全活動への寄付者件数 2500 件</li> <li>・ 地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本絶滅危惧種 6 種以上の保全活動を広く支援</li> <li>・ 保全活動への寄付者件数 3000 件</li> <li>・ 地域の絶滅危惧種保全活動と支援者のマッチング</li> </ul>
指標	定義	・ 日本の絶滅危惧種保全活動への寄付件数
	2020 年の目標値	・ 8000 件（5 年累積）
	最新値	・ 5572 件（4 年累積）

取組 2 1 - 4	自然を活かした地域づくり ～生物多様性地域戦略策定支援・ユネスコエコパーク登録支援・国有林の民間協働管理～	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化や人口減少、雇用喪失といった課題に対し、保護地域を活用したブランディングや、地域づくりに取り組む地方の市町村の取り組みを積極的に支援するとともに、地域活性化にもつながる新たな生態系管理のモデルとなる地域づくりを現場で進める。</li> </ul>	
該当する愛知目標	・ 1, 2, 3, 5, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 17, 18	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②、3. (2) ①② 4. ①②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	経団連自然保護協議会、環境省、文部科学省、林野庁、IUCN-J、生物多様性自治体ネットワーク	
取組にあたって連携するその他の団体	市民団体、NGO、研究者、地方公共団体、企業	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性地域戦略策定自治体、エコパーク登録自治体での保全人材育成企画、生物多様性復元事業</li> <li>・ ユネスコエコパーク支援活動</li> <li>・ 国有林の協働管理</li> <li>・ エコパーク移行地域で市民モニタリング体制構築</li> <li>・ ニホンジカの低密度管理の検討、環境教育の推進</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	生物多様性地域戦略策定自治体、エコパーク登録・推進自治体で、管理計画策定、登録支援活動を7地域、国有林の協働管理として2地域の活動を実施できた。
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域戦略・地域計画・エコパーク登録地域の支援。</li> <li>・ 保全事業人材育成、市民セミナー等教育普及事業</li> <li>・ 国有林の協働管理</li> <li>・ ニホンジカの低密度管理、環境教育の推進</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域戦略・地域計画・エコパーク登録地域の支援。</li> <li>・ 保全事業人材育成、市民セミナー等教育普及事業</li> <li>・ 国有林の協働管理</li> <li>・ ニホンジカの低密度管理、環境教育の推進</li> </ul>	
指標	定義	①地域戦略策定地域・エコパーク登録地域支援数 ②保全事業育成人材数
	2020年の目標値	①8件 ②人材500人(5年累積)
	最新値	①7件 ②人材493人(4年累積)

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

取組 2 2 - 1	国連大学/地方 EPO との協働による生物多様性の普及
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連大学との連携・協働による生物多様性の国際的情報の収集・国内への発信及び GEOC/地方 EPO（地方環境パートナーシップオフィス）を活用した生物多様性の普及啓発</li> <li>・国際生物多様性の日シンポジウム（平成 20 年度～） 国連大学において、毎年、国際生物多様性の日シンポジウムを共同開催</li> <li>・GEOC の場を活用した、生物多様性保全、国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）に関する展示、セミナー等の普及啓発事業を展開</li> <li>・地方 EPO との連携による、MY 行動宣言の実施、UNDB-J 資料の配布、セミナー等の開催・広報を展開</li> </ul>
該当する愛知目標	・目標 1、目標 2
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①. 4. ①②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	環境省
取組にあたって連携するその他の団体	国連大学、地方 EPO、NPO・自治体・中間支援組織、ESD 実施団体等
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際生物多様性の日「生物多様性と食と健康～SDGs を身近に～」(5/11)</li> <li>・ SDGs への挑戦～サンゴ礁の現状と保全の取り組み～市民上映会「チェイシング・コーラル消えゆくサンゴ礁」から考える (7/23)</li> <li>・ 2020 年世界湿地の日記念シンポジウム【湿地と生物多様性】(2/1)</li> <li>・ GEOC 森里川海シリーズ企画「里とともにある日本の農とゆたかな食」(2/5)</li> <li>・ GEOC 森里川海シリーズ企画（インタビュー） 「海の恵みを活かして地域を食でつなぐ」</li> <li>・ GEOC 森里川海シリーズ企画（インタビュー） 「コーヒーとチョコレートの時間」</li> <li>・ 第 2 回ポスト 2020 作業部会 合同報告会 ～生物多様性 Super Year 連続セミナー～</li> <li>・ 「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる-日本</li> </ul>

		<p>編（「お山ん画」コラボレーション企画）展示（通年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パートナーシップをつくる私たちの世界パネル展示（通年）</li> <li>・ 環境月間展示「海の生き物～サンゴ礁」（6月）</li> <li>・ UNDB-J 推薦「子供向け図書」（愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる 100冊～）展示（通年）</li> <li>・ 「グリーンウェイブ 2019」に参加（グリーンカーテンの実施）</li> </ul>
<p>令和元年度の実施結果に対する自己評価</p> <p>A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず</p>	A	<p>生物多様性スーパーイヤーが始まり、2月には世界湿地の日記念シンポジウム（共催）から森里川海シリーズ企画、OEWG 報告会につなげることができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、当初企画したようなオンサイト開催はできなかった反面、遠隔地へ情報を届けることができるオンライン開催・発信に可能性を感じた。</p>
<p>令和2年度実施内容等（予定）</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際生物多様性の日シンポジウム（5/11）</li> <li>・ 国際会議報告会</li> <li>・ 森里川海シリーズ企画</li> <li>・ 生物多様性展示「Biodiversity 生物多様性のなかで生きる」</li> <li>・ パートナーシップをつくる私たちの世界パネル展示（通年）</li> <li>・ UNDB-J 推薦「子供向け図書」（愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる 100冊～）展示（通年）</li> <li>・ 「グリーンウェイブ 2020」に参加（グリーンカーテンの実施）</li> </ul>
<p>令和2年度実施内容等（予定）</p>		<p>※新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら上記と同様の内容を実施、オンライン配信</p>
指標	定義	<p>主流化を軸にした生物多様性の情報発信や広報協力件数（メルマガや機関誌等による情報発信）</p>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間 30 件</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間 29 件</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益社団法人国土緑化推進機構

取組 2 3 - 1	「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」 「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命式 「グリーンウェイブ募金」実施	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幅広いセクターへの「グリーンウェイブ」の普及・定着に向けて、先導的な取組を行う行政・大学・企業・NPO等を「オフィシャル・パートナー」として任命するとともに、「地球いきもの応援団」の枠組みで「グリーンウェイブ大使」を任命。</li> <li>・ 「グリーンウェイブ募金」(緑の募金使途限定募金)を設定して、募金箱の貸出・チャリティグッズの制作等をしながら、幅広い担い手の取組への参加促進。</li> </ul>	
該当する愛知目標	・ 目標1: 生物多様性の価値と行動の認識	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	みどりの感謝祭 運営委員会	
令和元年度実施内容等	(「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命式) 3月18日に3グループの取組を任命 (「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」) 3月18日に藤本麗華さん(ミス日本みどりの女神 2019)を任命 各地域で開催される植樹祭等3行事に出演 (「グリーンウェイブ募金」) ・店頭・職場に募金箱の設置(ワタミグループ等) ・「里山トロッコ」(小湊鐵道)のピンバッチを制作・頒布	
令和元年度の取組結果に対する自己評価	A	
令和2年度実施内容等(予定)	(「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナー任命式) 4月13日/1団体の取組を任命 (「地球いきもの応援団・グリーンウェイブ大使」) 4月13日/井戸川百花さん(ミス日本みどりの女神 2020)を任命 (「グリーンウェイブ募金」) 店頭・職場に募金箱の設置、企業募金の実施	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	※関係省庁等と調整	

取組 2 3 - 2	森林ESDの推進	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習指導要領」の改訂や「次世代学校・地域」創生プラン」等の教育改革の動向に対応して、アクティブ・ラーニングの視点から森林を活用した教育活動のあり方と、企業・NPO等と連携した支援体制のあり方を検討し、汎用的な普及の仕組みを検討・実践。</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標1: 生物多様性の価値と行動の認識</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ② 3. (2). ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	林野庁、都道府県、都道府県緑化推進委員会 その他、企業・NPO等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林 ESD ガイドブックの配布</li> <li>・ 都道府県・青少年教育施設等の実態調査実施</li> <li>・ 全国・ブロックレベルでのセミナー開催</li> <li>・ 「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」と連携した調査研究・研修交流会等の検討</li> </ul>	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	
令和2年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林 ESD ガイドブック(改訂版)の製作</li> <li>・ 全国・ブロックレベルでのセミナー開催</li> <li>・ 「指導者養成」「出前授業」「体験活動受入」のモデル的な仕組みづくり</li> <li>・ 「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」と連携した調査研究・研修交流会等の実施</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等（予定）	※ 上記の内容を継承	

取組 2 3 - 3	「みぢかな樹木のえほん」の製作・配布・普及	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが「1本の木」を事例に、「3つの多様性」(生きものとの繋がり)と「4つの生態系サービス」(暮らしとの繋がり)を一体的に理解できるような教材として、「みぢかな樹木のえほん」(ポプラ社)を普及</li> <li>※平成28年度までは普及教材「1本の木の物語」制作・配布</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標1: 生物多様性の価値と行動の認識</li> </ul>	

ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	林野図書資料館、 「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育(理科、社会等)に対応させ、30 樹種を題材に「みぢかな樹木のえほん」の教材の普及(増刷)</li> <li>・ 林野図書資料館と連携し、パネル貸出と一体となった普及</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材「みぢかな樹木のえほん」の普及</li> <li>・ 林野図書資料館と連携し、パネル貸出と一体となった普及</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	※ 上記の内容を継承

取組 2 3 - 4	機関紙における生物多様性連載記事の掲載
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国土緑化推進機構機関紙「ぐりーん・もあ」(季刊)において、生物多様性保全等に関わる記事等を紹介。</li> </ul>
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標1:生物多様性の価値と行動の認識</li> </ul>
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地域の森づくり活動等のレポート</li> <li>・ 連載記事:森ともっと身近に感じよう for KIDS6 『森からもらったものを家でも使おう』をシリーズで連載</li> <li>・ 連載記事:『種を運び、森林づくりをする野鳥たち』を長期シリーズとして連載</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた	A

C: 予定した取組を実施できず	
令和2年度実施内容等 (予定)	※上記を継承したものを実施(予定)
【参考】令和3年度実施内容等 (予定)	※上記を継承したものを実施(予定)

取組23-5	東日本大震災復興支援「海岸防災林再生活動」	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の大津波で失われた1,000haを越える海岸防災林の再生に向けて、地域住民や企業・NPO等の植樹祭等への参画の促進を通して、被災地の復興や生物多様性保全を図る。</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標1:生物多様性の価値と行動の認識</li> <li>目標5:森林を含む自然生息地の損失を半減→ゼロへ、劣化・分断を顕著に減少</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①②	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	林野庁(東北森林管理局・関東森林管理局) 岩手県、宮城県、福島県、(公社)岩手県緑化推進委員会、(公社)宮城県緑化推進委員会、(公社)福島県森林・林業・緑化協会、(一社)宮城県森林インストラクター協会、海岸防災林再生活動参画NPO等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・NPO等向けセミナー開催、現地検討会の開催、情報発信、企業と地域NPOとのマッチング等</li> <li>「緑の募金」(東日本大震災復興事業)を通じた、地域住民や企業・NPO等の参画した海岸防災林再生活動を支援</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症対策として一部中止</li> </ul>
令和2年度実施内容等 (予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)	
【参考】令和3年度実施内容等 (予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)	

取組 2 3 - 6	「緑の募金」使徒限定募金(熊本地震復興支援事業)	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成 28 年熊本地震」の被災地において、避難所の生活環境改善や、被災地の森林復旧・緑化推進等を通じた、被災地の復興や生物多様性保全を図る。</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標 1: 生物多様性の価値と行動の認識</li> <li>・ 目標 5: 森林を含む自然生息地の損失を半減→ゼロへ、劣化・分断を顕著に減少</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	(公社)熊本県緑化推進委員会、各種 NPO 等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県産材を使用し、県内加工の「くまモン」チャリティ・ピンバッジを用いた募金の呼びかけ</li> <li>・仮設住宅へのプランター等の寄贈、園庭緑化等の実施</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	
令和 2 年度実施内容等 (予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)	
【参考】令和 3 年度実施内容等 (予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)	

取組 2 3 - 7	新・木づかい顕彰『ウッドデザイン賞』	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“暮らしを豊かに”、“人を健やかに”、“社会を豊かに”という 3つの消費者視点から、全国の優れた「木」に関するモノ・コトを表彰する顕彰制度。</li> <li>・合法木材利用を応募要件に位置付け。</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標 1: 生物多様性の価値と行動の認識</li> <li>・ 目標 7: 農業・養殖業・林業が持続可能に管理</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	全国森林組合連合会	
取組にあたって連携するその他の団体	(NPO)活木活木森ネットワーク、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所	

令和元年度実施内容等	<p><b>【応募対象分野】</b>  ①建築・空間・建材・部材分野、②木製品分野、③コミュニケーション分野、④技術・研究分野</p> <p><b>【表彰部門】</b>  ①ライフスタイルデザイン部門、②ハートフルデザイン部門、③ソーシャルデザイン部門</p> <p><b>【審査委員】</b>  赤池 学、隈 研吾、益田文和、日比野克彦、伊香賀俊治等</p> <p><b>【実績】</b>  応募総数 413 点、入賞 197 点</p> <p><b>【表彰】</b>  最優秀賞(農林水産大臣賞)  「日本初となる中高層木造ハイブリッド建築を実現する技術の実証」(三菱地所(株)等)  優秀賞(林野庁長官賞):9作品  奨励賞(審査委員長賞):9作品  特別賞(木のおもてなし賞):4作品  ウッドデザイン賞(入賞):197 作品</p> <p><b>【その他】</b>  合法木材の利用を応募要件として位置付け</p>
令和元年度 of 取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A
令和2年度実施内容等(予定)	※上記と同一の内容を実施
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)

取組 23-8	「緑の募金」「緑と水の森林ファンド」を通じた NPO 等による生物多様性保全のための森づくり・木づかい活動支援
概要・目的	・「緑の募金」および「緑と水の森林ファンド」の各助成事業において、NPO 等による生物多様性保全のための森づくり・木づかいに関する活動を支援する。
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標1: 生物多様性の価値と行動の認識</li> <li>・ 目標5: 森林を含む自然生息地の損失を半減→ゼロへ、劣化・分断を顕著に減少</li> <li>・ 目標7: 農業・養殖業・林業が持続可能に管理</li> </ul>

ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	各都道府県緑化推進委員会 助成先の NPO 等	
令和元年度実施内容等	【緑の募金】 「国内事業(森林整備、緑化推進)」、「国際緑化事業」 【緑と水の森林ファンド】 「普及啓発」「調査研究」「活動基盤の整備」「国際交流」	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	・新型コロナウイルス感染症対策として一部イベントは中止
令和2年度実施内容等(予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	※上記と同一の内容を実施(予定)	

取組 23-9	『国際森林デー2020 みどりの地球を未来へ』 ～次代へつなぐ森林と木の文化～	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2012年12月の国連総会で、森林や樹木に対する意識を高める記念日として、毎年3月21日を「国際森林デー」とすることが決議されたことを踏まえて、中央行事を開催。</li> <li>・ 駐日各国大使館・国際機関職員とその家族、留学生や一般の参加を得て、人種、民族、国籍を超えて交流を深め、樹木に親しむ機会を通して、森林を尊ぶ心を世界に普及。</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標1: 生物多様性の価値と行動の認識</li> <li>・ 目標5: 森林を含む自然生息地の損失を半減→ゼロへ、劣化・分断を顕著に減少</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	林野庁、(公財)森林文化協会、(公財)オイスカ、(NPO)樹木・環境ネットワーク協会、(公財)PHOENIX、(一社)TOBUSA	
令和元年度実施内容等	※新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて中止	

令和元年度の取組結果 に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施 できた C：予定した取組を実施できず	C	
令和2年度実施内容等 (予定)	※調整中	
【参考】令和3年度実 施内容等 (予定)	※調整中	

取組23-10	みどりの感謝祭「みどりとふれあうフェスティバル」	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月15日～5月14日の「みどりの月間」のフィナーレとして、また5月22日の「生物多様性の日」を間近に控えた5月第2土曜日・日曜日に開催される式典・フェスティバル。</li> <li>・自然豊かな日比谷公園を舞台に、親子で楽しめる体験プログラムやステージ、企業・NPO等の出展ブースを設置して、都市部で生物多様性の恵みにふれ、親しみ、学ぶ場を設定。</li> <li>・「グリーンウェイ」への参加の呼びかけ、「生物多様性の本箱」の絵本の読み聞かせ等を実施。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標1：生物多様性の価値と行動の認識	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	国連生物多様性の10年日本委員会	
取組にあたって連携するその他の団体	図書館流通センター	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式典(眞子内親王殿下のご臨席の下、各種表彰等の実施)</li> <li>・ステージ(くまモン、ぐんまちゃん、なめこ、杉浦太陽、なすび、飯窪春菜、まこと、野口健、野中ともよ、ミス日本みどりの女神等登壇)</li> <li>・体験プログラム(森のようちえん、森ヨガ、ツリークライミング、アロママッサージ等)</li> <li>・出展ブース(企業・自治体・NPO等のブース。熊本復興支援ブース等)</li> <li>・飲食ブース(ジビエ料理や椎茸等の里山再生に貢献する料理等を提供)</li> <li>・クイズラリー(「山の日」制定記念として会場内で実施)</li> </ul>	
令和元年度の取組結果 に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施 できた C：予定した取組を実施できず	A	
令和2年度実施内容等	※新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて中止	

【参考】令和3年度実施内容等（予定）	※令和元年度と同一の内容を実施（予定）
--------------------	---------------------

取組23-11	エコプロ2019「森林からはじまるエコライフ展」
概要・目的	・生物多様性保全等に向けて、「森づくりの循環」の再生に向けた多様な取組を紹介するテーマゾーンを設定するとともに、ステージプログラム、ワークショップ等を実施。
該当する愛知目標	目標1:生物多様性の価値と行動の認識
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	日本経済新聞社、(一社)産業環境管理協会
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマゾーン(30の企業・自治体・NPOによる展示・ワークショップを実施)</li> <li>・セミナー(「ウッドデザイン賞2019」記念のセミナーを開催)</li> <li>・ステージ(ウッドデザイン賞2019表彰式を開催)</li> <li>・スタンパラー(会場内36の企業・NPO等のブースとの連携で実施)</li> <li>・会場木装化(テーマゾーン内やお休み処等を木装化)</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A
令和2年度実施内容等（予定）	※上記と同一の内容を実施（予定） （7月締切でテーマゾーンの出展団体を募集中）
【参考】令和3年度実施内容等（予定）	※上記と同一の内容を実施（予定）

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ

関係団体・関係省庁の取組

団体名：生物多様性自治体ネットワーク（NLGB）

取組 25-1		生物多様性に配慮した農業の推進
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治体において、自治体の状況に応じて、生物多様性に配慮した農業を推進し、地域活性化を図る。</li> <li>また、環境学習のフィールドとしても活用する。</li> </ul>
該当する愛知目標		目標 1、2、3、4、7、12、13、14
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1. ②、3. (2) ①②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>全国農業協同組合連合会（JA 全農）</li> </ul>
取組にあたって連携するその他の団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO 等団体、事業者等</li> </ul>
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体ネットワーク水田部会報告会（1月11日名古屋国際会議場）を開催し、水田部会設立の経緯、活動内容、各地域の取組状況、新規部会地域の呼びかけなど報告。</li> <li>自治体ネットワーク水田部会を開催（1月11日名古屋市にて開催）</li> <li>生物多様性自治体ネットワーク総会（1月12日名古屋国際会議場）にて、報告会や取組み事例の紹介</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		<p>A</p> <p>28年度に第1回を実施した水田部会について、自治体ネットワーク総会に合わせて開催することができた。</p> <p>また、報告後、兵庫県丹波篠山市から加入の申し出があった。</p>
令和2年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>水田部会の開催</li> <li>各自治体において、生物多様性に配慮した農業の推進</li> </ul>
指標	定義	水田部会の開催
	2020年の目標値	5回（5年累積）
	最新値	4回

取組 25-2		生物多様性に配慮した緑地整備の推進
概要・目的		・各自治体において、自治体の状況に応じて、生物多様性に配慮した緑地の整備を推進する。また、緑地を利用した生物多様性のイベント等による普及・啓発を行う。
該当する愛知目標		目標 1、2、3、5、14、15
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		3. (1) ①②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		・公益社団法人国土緑化推進機構
取組にあたって連携するその他の団体		・NPO 等団体、事業者等
令和元年度実施内容等		・各自治体において、生物多様性に配慮した緑地整備の推進 ・各自治体において、緑地を利用したイベント等の開催 (取組例) 東浦の自然に親しむ観察会 (愛知県知多郡東浦町)
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		C 各自治体において実績なし。
令和2年度実施内容等(予定)		・各自治体において、生物多様性に配慮した緑地整備の推進 ・各自治体において、緑地を利用したイベント等の開催
指標	定義	緑地を利用したイベント等の開催
	2020年の目標値	60回(5年累積)
	最新値	26回

取組 25-3		5月22日「国際生物多様性の日」の構成自治体による一斉PR
概要・目的		・生物多様性の浸透・主流化を一層推進するため、「国際生物多様性の日」にあわせ、統一ロゴマーク等を活用し、構成自治体による一斉PR、web等による情報発信
該当する愛知目標		目標 1、2、3、4、5、7、8、9、10、11、12、13、14、15、18、19、20

ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		4. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		・ NPO 等団体
令和元年度実施内容等		・ 「国際生物多様性の日」一斉 PR (web 等での発信) ※環境省及び UNDB-J と同時実施
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 構成自治体等と連携することにより、効果的な PR を行うことができた。
令和2年度実施内容等 (予定)		・ 「国際生物多様性の日」一斉 PR (web 等での発信) ※環境省及び UNDB-J と同時実施
指標	定義	「国際生物多様性の日」一斉 PR の実施
	2020 年の目標値	5 回 (5 年累積)
	最新値	4 回

取組 25-4	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催	
概要・目的	・ 生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取り組みの情報共有と発信	
該当する愛知目標	目標 1、2、3、4、5、7、8、9、10、11、12、13、14、15、18、19、20	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	4. ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	・ UNDB-J 事務局 ・ 環境省	
取組にあたって連携するその他の団体	・ NPO 等団体、事業者等	
令和元年度実施内容等	令和元年 1 月 12 日開催 (名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)) 対象: NLGB 構成自治体職員、企業・NPO 関係者、市民等 (約 1,700 名参加) ※ NLGB 総会、UNDB-J 全国ミーティングとあわせて開催	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基調講演 生物多様性リーダー・地球いきもの応援団 さかなクン 氏</li> <li>・ 事例紹介 「あいち・なごやの取組紹介」 ○愛知商業高校ユネスコクラブ ○命をつなぐプロジェクト ○ソニーの森 ○なごや生物多様性保全活動協議会</li> <li>・ パネルディスカッション 「生物多様性からSDGs時代を考えよう」 出演： ○コーディネーター： 川延 昌弘 氏（CEPAジャパン代表） ○パネリスト： 事例紹介者 SKE48 MAGIC☆PRINCE 環境省</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		A NLGB 構成自治体職員をはじめ多くの方に参加いただき、生物多様性保全に関する取組を発信することができた。
令和2年度実施内容等（予定）		・ 生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催
指標	定義	生物多様性自治体ネットワークフォーラムの開催
	2020年の目標値	5回（5年累積）
	最新値	4回

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名：農林水産省

取組 28-1	ロードマップの推進	
概要・目的	<p>愛知目標達成に向けて、ロードマップ行程表に沿って次の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村環境の保全・利用と地域資源活用による農村振興（地域の活動支援）</li> <li>・国民参加の森林づくり活動の促進</li> <li>・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動の支援</li> <li>・MY 行動宣言農林水産関係アクションの普及</li> </ul>	
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知目標 1</li> </ul>	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1. ①、②</li> <li>・2. ②</li> <li>・3. (2)①、②</li> </ul>	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人 国土緑化推進機構</li> <li>・全国漁業協同組合連合会</li> </ul>	
取組にあたって連携するその他の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林漁業者の組織する団体等</li> <li>・美しい森林づくり全国推進会議</li> <li>・地域協議会</li> </ul>	
令和元年度実施内容等	<p>ロードマップに沿って次の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「美しい森林づくり推進国民運動」を活かしイベントの開催等による普及啓発を行うとともに、NPO や市民等による森林づくり活動を支援した。</li> <li>・漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動を支援した。</li> <li>・農地保全等の地域ぐるみ共同活動を支援した。耕作放棄防止・多面的機能確保施策の推進、農産物ブランド化や農山漁村の教育・観光目的活用の取組支援、グリーンツーリズム等都市農村交流や定住促進、農泊の推進による地域の所得向上や定住促進に向けた取組支援を実施した。</li> <li>・各種イベントにおける MY 行動宣言農林水産関係アクションの普及。</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A	<p>予定した取組を上記のとおり実施し、指標のとおり実績を上げた。</p>
令和2年度実施内容等（予定）	<p>次の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな生物多様性の世界目標に即した農林水産省生物多様性戦略の見直し</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農村環境の保全・利用と地域資源活用による農村振興（地域の活動支援）</li> <li>・ 国民参加の森林づくり活動の促進</li> <li>・ 漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動の支援</li> <li>・ 各種イベントにおける MY 行動宣言農林水産関係アクションの普及</li> </ul>
	【参考】令和3年度実施内容等（予定）	<p>次の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな農林水産省生物多様性戦略に即した取組の推進</li> <li>・ 農村環境の保全・利用と地域資源活用による農村振興（地域の活動支援）</li> <li>・ 国民参加の森林づくり活動の促進</li> <li>・ 漁業者等が行う藻場・干潟の保全活動の支援</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域共同活動延べ参加者数</li> <li>②中山間地域等の農用地面積の減少を防止</li> <li>③グリーンツーリズム施設年間延べ宿泊者数</li> <li>④MY 行動宣言数</li> </ul>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>①(H28～32: 約1,200万人・団体以上)</li> <li>②(H27～31: 8.0万ha)</li> <li>③(1,050万人)</li> <li>④5万宣言</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>①H28～30: 775万人・団体</li> <li>②H27～R1: 7.5万ha</li> <li>③H30: 1,212万人</li> <li>④H29～R1: 6,602宣言</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名：経済産業省

取組 29-1	経済産業分野における生物多様性関連の取組み	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性条約に掲げられている3つの目標のうち「遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分」に対応するため、我が国産業界が遺伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標 16	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>(一財) バイオインダストリー協会</li> <li>(独) 製品評価技術基盤機構</li> </ul>	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性総合対策事業において、海外生物遺伝資源の取得に関する企業の相談窓口を設置。インドネシアを訪問し、当該国の ABS 法令に関する調査を実施。</li> <li>(独) 製品評価技術基盤機構では、アジア諸国の政府機関との間で遺伝資源の移転に係る覚書を締結し、共同探索事業等を通じて採取された海外由来の微生物遺伝資源について、我が国産業界が円滑に活用できるよう環境を整備するとともに生物遺伝資源の提供を実施。また、企業からの依頼に基づき ABS 指針第5章の日本国内で取得されたことを示す「国内取得書」の発給を実施。</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性総合対策事業の実施により我が国産業界が海外生物遺伝資源に円滑にアクセスし、利用できる環境を整備</li> <li>(独) 製品評価技術基盤機構では、我が国産業界が海外生物遺伝資源を円滑に活用できる環境を整備するとともに機構が保有する海外遺伝資源の提供を実施</li> </ul>
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性総合対策事業を実施</li> <li>微生物遺伝資源の提供及び海外生物遺伝資源利用環境の整備を実施</li> <li>微生物資源の保全と持続可能な利用のためのアジアコンソーシアム (ACM) 第17回会合の日本開催</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性総合対策事業を実施</li> </ul>	

容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 微生物遺伝資源の提供及び海外生物遺伝資源利用環境の整備を実施</li> </ul>
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ACM の開催</li> </ul>
	2020 年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 17 回会合を開催し、参加機関と微生物資源の保全とその持続可能な利用についての意見交換を行う。</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去 16 回開催（日本開催は 2004 年と 2010 年の 2 回）</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名： 国土交通省

取組 30-1	流域連携の広域化による生態系ネットワーク形成	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の連続性の回復、氾濫原や湿地の再生、河川と流域の水路・池・沼・水田などの水域の連続性の確保、希少動植物の生息・生育地の保全再生、環境保全型農業の推進とこれら農業で生産された農産物のブランド化、自然資源を活用した観光などの取組を進め、生物多様性の保全、地域振興と経済活性化を促進する。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標 1、2	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	4. ②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	地方自治体 等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>円山川周辺や千歳川流域、関東地域等での、農作物のブランド化や観光等生態系ネットワークを活用した地域振興に係る先進的な取組事例について、シンポジウムを開催するなどして他地域へ展開した。</li> </ul>	
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず	A	<p>新たに2つの協議会を設立するとともに、各地域でコウノトリなどの大型鳥類の飛来・定住・営巣活動の確認がされるほか、農作物のブランド化や観光等の多様な関係者と連携した地域振興の事例が生まれてきている。</p> <p>また、これらの先進的な取組を全国へ展開する等、着実に取り組みを進めている。</p>
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在進められている生態系ネットワーク形成の取組を全国各地で継続するとともに、多様な関係者と連携した先進的な事例を全国へ展開することにより、より一層の推進を図る。</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体との連携を進め、河川を基軸とした生態系ネットワーク形成を全国的に推進。</li> </ul>	
指標	定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークの構築に向けた協議会の設置</li> </ul>
	2020年の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%</li> </ul>
	最新値	<ul style="list-style-type: none"> <li>91% (H30年度)</li> </ul>

取組 30-2		都市公園等、都市における緑地による生態系ネットワークの形成
概要・目的		水と緑のネットワークの形成を推進するため、都市に残された緑地や都市近郊の比較的大規模な緑地の保全を推進するとともに、多様な主体が参画した緑地の保全等により都市の緑地の一層の保全を推進する。
該当する愛知目標		目標 1、目標 2
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		30-2
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		国土交通省
取組にあたって連携するその他の団体		地方公共団体等
平成 30 年度実施内容等		「緑の基本計画における生物多様性の確保に関する技術的配慮事項」(H23 年 10 月)や「都市の生物多様性指標(簡易版)」(H28 年 11 月)、「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」(H30 年 5 月)により、地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、普及啓発を図った。
平成 30 年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、指標等の開発や普及啓発に取り組んだ。
令和元年度実施内容等(予定)		策定した「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」、「都市の生物多様性指標(簡易版)」等が地方公共団体において活用されるよう普及啓発を図り、都市の生物多様性の確保に配慮した緑の基本計画の策定に資する技術的支援を引き続き行う。
令和 2 年度実施内容等(予定)		策定した「生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引き」、「都市の生物多様性指標(簡易版)」等が地方公共団体において活用されるよう普及啓発を図り、都市の生物多様性の確保に配慮した緑の基本計画の策定に資する技術的支援を引き続き行う。
指標	定義	生物多様性の確保に配慮した緑の基本計画策定割合
	2020 年の目標値	約 50%
	最新値	2018 年度実績：約 52%

取組 30-3	多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進 (東京湾再生官民連携フォーラムによる取り組み)	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京湾の再生に意欲を持つ一般市民、NPO/NGO、水産業、事業者、レジャー産業、大学・研究機関、自治体、関係省庁等、自主的に参画する多様な主体により構成され、東京湾再生に向けた活動の輪を広げるとともに、活発化・多様化を図る。</li> <li>・東京湾再生に係る課題や知見、再生のための取組、ノウハウ等を共有し、改善方策を検討する。</li> <li>・フォーラムを構成する多様な主体の交流の場を提供し、ネットワークを構築する。</li> <li>・東京湾再生推進会議による「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づく取組その他、東京湾再生に向けて検討又は実施すべき事項等について、多様な主体の総意をとりまとめ、東京湾に関わる関係省庁及び自治体から構成される「東京湾再生推進会議」に対して提案する。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標 1	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②、3. (1)②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体	東京湾再生官民連携フォーラム	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域間、分野間での活動をつなげる調整役として、協働コーディネート、交流の場の提供 (CSR-NPO 未来交流会) を行い、45 団体が参加した。</li> <li>・生き物や環境全体への関心を高め、東京湾からの恵みの重要性を認識してもらえよう「東京湾大感謝祭 2019」を 10 月に横浜赤レンガ倉庫で開催した。</li> </ul>	
令和元年度実施予定に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	各種取組を継続して実施している。
令和 2 年度実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR-NPO 未来交流会の強化を図る。</li> <li>・「東京湾大感謝祭 2020」(10 月横浜赤レンガ倉庫で開催) などの東京湾再生イベントにおいて「東京湾再生アンバサダー」に参加いただき、東京湾の魅力や東京湾再生の必要性を広く、わかりやすく伝えて</li> </ul>	

	<p>もらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京湾への関心を高めるため、東京湾沿岸域のイベント等におけるフォーラム活動の告知、フォーラムロゴの使用や、イベント情報一覧の作成・公表などにより連携を図る。</li> </ul>
令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未定</li> </ul>

国連生物多様性の10年日本委員会ロードマップ  
関係団体・関係省庁の取組

団体名：環境省

取組 3 1 - 1		生物多様性国家戦略の推進
概要・目的		・生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において採択された愛知目標の達成に向け、「生物多様性国家戦略 2011-2020」（平成24年9月閣議決定）に沿って取組を推進する。
該当する愛知目標		・全て
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1. ①、2. ①②、3. (1) ①②、3. (2) ①②、4. ①②③
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		環境省、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、 など 全ての UNDB-J 構成団体
取組にあたって連携するその他の団体		地方自治体 など
令和元年度実施内容等		・「生物多様性国家戦略 2012-2020」に沿って取組を引き続き推進 ・次期生物多様性国家戦略の策定に向けて、課題の抽出及び対応の方向性の検討を行うため「次期生物多様性国家戦略研究会」を開催（2回）。
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		A 「生物多様性国家戦略 2012-2020」及び「生物多様性国家戦略 2012-2020 の達成に向けて加速する施策」に基づき、目標達成に向けて着実に取組を進めている
令和2年度実施内容等（予定）		・次期生物多様性国家戦略研究会の開催（5回） ・次期国家戦略の改定に向けた検討及び戦略の見直し ・現行の生物多様性国家戦略の最終点検
【参考】令和3年度実施内容等（予定）		・次期生物多様性国家戦略の策定
指標	定義	生物多様性国家戦略に定める国別目標の関連指標の改善割合（※現状維持が目標のものは現状維持も含む）
	2020年の目標値	100%
	最新値	・75%

取組 3 1 - 2		名古屋議定書に関する取組
概要・目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）で採択された「遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する名古屋議定書」の早期締結と、そのための国内措置の検討。</li> <li>・ 締結後の国内措置の円滑な実施</li> </ul>
該当する愛知目標		・ 目標 16
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省
取組にあたって連携するその他の団体		内閣官房、財務省、厚生労働省
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内措置の実施</li> <li>・ ABS, 名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 平成 29 年に施行された名古屋議定書の国内措置の実施と共に、ABS の国内の情報拠点である環境省のウェブサイト等により、ABS、名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発に努めた。
令和 2 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内措置の実施</li> <li>・ ABS, 名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発</li> </ul>
令和 3 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内措置の実施</li> <li>・ ABS, 名古屋議定書及び国内措置に関する普及啓発</li> </ul>
指標	定義	・ 諸外国の ABS 法令の和訳作成と情報提供（数）
	2020 年の目標値	・ 60
	最新値	・ 55

取組 3 1 - 3		生物多様性地域戦略の策定促進
概要・目的		・ 地域での自発的な行動につながるという観点から、地方公共団体における効果的な生物多様性地域戦略の策定を促進する。
該当する愛知目標		・ 目標 1
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ②、3. (2) ①、4. ②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		生物多様性自治体ネットワーク
取組にあたって連携するその他の団体		地方自治体
令和元年度実施内容等		・ 専門家等の派遣により、地方自治体の生物多様性地域戦略策定及び同戦略の推進を支援
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず		A 3自治体(うち、1カ所は8市町村合同)に対し、専門家等の派遣により、地方自治体の生物多様性地域戦略策定及び同戦略の推進を支援
令和2年度実施内容等(予定)		・ 専門家等の派遣により、地方自治体の生物多様性地域戦略策定及び同戦略の推進を支援
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		・ 専門家等の派遣及び「生物多様性地域戦略策定の手引き」の改定により、地方自治体の生物多様性地域戦略及び同戦略の推進を支援
指標	定義	・ 都道府県における生物多様性地域戦略の策定数
	2020年の目標値	・ 100%
	最新値	・ 94

取組 3 1 - 4		地域における生物多様性保全活動支援
概要・目的		・ 地域における生物多様性の保全に資する活動等を支援するため、以下の事業を実施 <生物多様性保全推進支援事業(平成20年度~)> 地方公共団体、NPO、地域の活動団体等からなる「地域生物多様性協議会」における先進的・効果的な活動等に対して、必要な経費の一部を交付

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性自治体ネットワークの活動支援</li> <li>・ 生物多様性地域連携促進法（平成 23 年 10 月施行）の活用促進のため、HP、パンフレット等広報による情報発信</li> <li>・ 地域自然資産法（平成 27 年 4 月 1 日施行）の活用促進のため、HP、パンフレット等広報による情報発信</li> </ul>
該当する愛知目標		・ 目標 1、目標 17
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		2. ②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		地方自治体、NPO、地域の関係団体等
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援事業により、62 事業を支援</li> <li>・ 自治体ネットワークの活動・運営等を支援</li> <li>・ 各地域の活動に関する情報収集を行い、HP、パンフレット等広報による情報発信</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	支援事業により地域の活動を支援するなど、着実に取組を進めている。
令和 2 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援事業により、適切な事業について支援を行い、地域の自主的な活動を促進</li> <li>・ 自治体ネットワークの活動・運営等を支援</li> <li>・ 各地域の活動に関する情報収集を行い、HP、パンフレット等広報による情報発信</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）		同上
指標	定義	・ 生物多様性保全推進支援事業 事業数
	2020 年の目標値	・ 62（令和元年度実績値）
	最新値	・ 68（4/22 時点の採択内示済件数）

取組 3 1 - 5	生物多様性の経済価値評価
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内の様々な主体が生物多様性や生態系サービスの重要性を認識し、自らの意思決定や行動に反映していくことを目的に、生物多様性の経済的な価値評価の試行とその普及を推進</li> </ul>

該当する愛知目標	・目標 1、目標 2、目標 1 4		
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①、4. ③		
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体			
取組にあたって連携するその他の団体			
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業の CSR 活動等による生物多様性保全への貢献度の経済価値評価の事例の蓄積と、評価手法の整備</li> <li>・ 企業の情報開示事例の調査</li> <li>・ サプライチェーンを含めた企業の本業における生態系への負荷量評価の手法・意義を整理</li> <li>・ 生物多様性の経済価値評価に関する各種情報を収集、発信</li> <li>・ 「環境経済の政策研究」による、森林の経済価値評価の精緻化</li> </ul>		
令和元年度実施予定に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">A</td> <td>企業 3 社の CSR 活動等における経済価値評価を実施する、森林における経済価値評価結果の精緻化を進めるなど、着実に取組を進めている。</td> </tr> </table>	A	企業 3 社の CSR 活動等における経済価値評価を実施する、森林における経済価値評価結果の精緻化を進めるなど、着実に取組を進めている。
A	企業 3 社の CSR 活動等における経済価値評価を実施する、森林における経済価値評価結果の精緻化を進めるなど、着実に取組を進めている。		
令和 2 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業の CSR 活動等による生物多様性保全への貢献度の経済価値評価の事例の蓄積と、評価手法の整備</li> <li>・ 企業の情報開示優良事例の調査</li> <li>・ サプライチェーンを含めた企業の本業における生態系への負荷量評価の手法・意義を整理</li> <li>・ 生物多様性の経済価値評価に関する各種情報を収集、発信</li> <li>・ 「環境経済の政策研究」による、森林の経済価値評価の精緻化</li> </ul>		
【参考】令和 3 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業活動に関する経済価値評価の活用事例の蓄積、普及</li> <li>・ 生物多様性の経済価値評価に関する各種情報を収集、発信</li> <li>・ 自然資本会計についての検討</li> <li>・ 「環境経済の政策研究」による、森林の経済価値評価の精緻化</li> </ul>		

取組 3 1 - 6		経済社会における生物多様性の保全等の促進
概要・目的		・ 経済社会における生物多様性の保全及び持続可能な利用の推進を図るため、必要な情報収集・発信等を実施
該当する愛知目標		・ 目標 1、目標 4
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号		1. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		
令和元年度実施内容等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性民間参画ガイドラインの普及及び、英語版の海外への発信。</li> <li>・ 生物多様性民間参画ガイドライン次期改定に向けた情報の蓄積</li> <li>・ 民間参画の優良事例の収集と整理</li> </ul>
令和元年度の取組結果に対する自己評価 A：予定した取組を概ね実施できた C：予定した取組を実施できず		A 事業者の取組を推進するため、民間参画ガイドラインの普及及び民間参画の優良事例の収集と整理を実施するなど、着実に取組を進めている。
令和 2 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優良事例集の英語版の作成、発信</li> <li>・ 優良事例（国内、海外）の収集、ポスト 2020 との関係性整理</li> <li>・ 生物多様性民間参画ガイドラインの次期改定に向けた情報収集</li> </ul>
【参考】令和 3 年度実施内容等（予定）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性民間参画ガイドラインの改定に向けた検討</li> <li>・ 優良事例（国内、海外）の収集、ポスト 2020 との関係性整理</li> </ul>
指標	定義	にじゅうまるプロジェクト宣言数（主に事業者によるもの、累積）
	2020 年の目標値	400 宣言
	最新値	404 宣言（2019. 3）

取組 3 1 - 7		自然再生の取り組みの推進
概要・目的		・ 失われた自然を積極的に再生することにより、政府が取り組むべき重要課題である「自然と共生する社会の実現」を生態系の観点から着実に推進
該当する愛知目標		・ 目標 1 5

ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②、4. ①②③
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	国土交通省、農林水産省
取組にあたって連携するその他の団体	自然再生協議会 等
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国6箇所の国立公園において、自然再生施設の整備等を実施した。</li> <li>・自然再生活動にかかる普及啓発を行うとともに、各地で実施される自然再生事業等に対して支援等を行った。</li> <li>・自然再生基本方針の変更を閣議決定した。</li> <li>・自然再生専門家会議を2回開催した。</li> </ul>
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A 予定していた取組を実施することで、自然再生基本方針の閣議決定を行うなど、自然再生の推進を図ることができた。
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の国立公園における自然再生施設の整備等の実施。</li> <li>・各地で実施される自然再生活動への支援、推進。</li> <li>・自然再生専門家会議の開催。</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の国立公園における自然再生施設の整備等の実施。</li> <li>・各地で実施される自然再生活動への支援、推進。</li> <li>・自然再生専門家会議の開催。</li> </ul>

取組 3 1 - 8	世界自然遺産登録への取組及び登録地域の自然環境保全
概要・目的	・国内の自然環境候補地が世界遺産登録されるよう取組を進め、世界的に優れた自然環境の価値を保全
該当する愛知目標	・目標 11
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	—
取組にあたって連携するその他の団体	都道府県、市町村等
令和元年度実施内容等	・既存の世界自然遺産地域(屋久島、白神山地、知床、

		<p>小笠原諸島) について、管理体制と保全施策を充実すると共に、適切な保全管理を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内候補地(奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島) については、可能な限り早期の世界自然遺産登録に向けて、必要な作業や、保全管理の強化等の取組を推進。</li> </ul>
<p>令和元年度取組結果に対する自己評価</p> <p>A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず</p>	A	<p>既存の世界自然遺産地域については、順応的な保全管理を充実させ、国内候補地については、世界遺産委員会の諮問機関による調査の受け入れを行うなど着実に取組みを進めている。</p>
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の世界自然遺産地域(屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島) について、管理体制と保全施策を充実させ、適切な保全管理を推進。</li> <li>国内候補地については、可能な限り早期の世界自然遺産登録に向けて、必要な作業や、保全管理の強化等の取組を推進。</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産地域管理計画に基づき、世界遺産地域の科学委員会を継続的に運営。</li> <li>長期的なモニタリング調査等を実施し、最新の科学的知見に基づく順応的保全管理を推進。</li> </ul>
指標	定義	世界自然遺産地域の順応的保全管理の実施地域
	2020年の目標値	5地域
	最新値	4地域

取組31-9	生物多様性の観点から重要度の高い湿地における保全の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26~28年度に選定、公表を行った「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」を開発案件における保全上の配慮を促す基礎資料などとして活用し、湿地保全を推進する。</li> </ul>
該当する愛知目標	・目標11
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	都道府県、市町村 等

令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」を基礎資料等として活用し、環境アセスメントの審査等の基礎資料として活用することにより、湿地の保全を推進した。</li> <li>・「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」の情報の拡充に向けた調査等を行った。</li> </ul>	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	予定していた取組を実施できた。
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」の保全上の配慮を促す基礎資料などとして活用し、湿地の保全を推進する。</li> <li>・「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」にかかる情報の拡充等を図る。</li> </ul>	
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」の保全上の配慮を促す基礎資料などとして活用し、湿地の保全を推進する。</li> <li>・「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」にかかる情報の拡充等を図る。</li> </ul>	

取組31-10	里地里山保全活用行動計画の推進	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里地里山に関わる様々な主体に対し、里地里山の重要性、里地里山の保全活用の理念、方向性、取組の基本方針及びその進め方を提示するとともに、国が実施する保全活用施策を具体的に示すことにより、里地里山の意義について国民の理解を促進し、多様な主体による保全活用の取組が全国各地で国民的運動として展開。</li> </ul>	
該当する愛知目標	・目標7、目標18	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体		
取組にあたって連携するその他の団体		
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画事業の活用により木質・草本質系バイオマス設備導入するための森林等の賦存量</li> </ul>	

	<p>調査や設備の計画策定を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重要里地里山 500 パンフレットの配布</li> </ul>
<p>令和元年度の実施結果に対する自己評価</p> <p>A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画事業により、採択された自治体に対し、木質・草本系バイオマス設備導入に向けたフォローアップを実施した。</li> <li>重要里地里山 500 パンフレットをイベント等で配布。</li> </ul>
令和2年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>同規模で実施</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>同規模で実施</li> </ul>

取組 3 1 - 1 1	自然公園等利用ふれあい推進事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然に対する理解、自然環境保全の重要性、自然保護思想の普及などを図るため、国民に自然とのふれあいの機会を広く提供。</li> <li>国立公園等における自然体験活動を通じて、地域の自然に理解を示し、自然への畏敬の念及び動植物などの命の尊さや自然の恩恵に対する認識を持つよう、重点推進期間（みどりの月間：4/15～5/14、自然に親しむ運動：7/21～8/20、全国・自然歩道を歩こう月間：10/1～31）を中心に、自然とふれあう活動の機会を提供。</li> </ul> <p>※R2年度からはみどりの月間のみ</p>
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標 1</li> <li>目標 1 4</li> </ul>
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	
取組にあたって連携するその他の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方公共団体</li> </ul>
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点推進期間に、全国の国立公園等において 140 件の自然ふれあい行事を実施（新規・継続含む）</li> </ul>

令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	予定していた取組を概ね実施できた
令和2年度実施内容等(予定)		・同規模で実施(新規・継続含む)
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		・平成30年度以降も継続して実施。
指標	定義	参加者数
	2020年の目標値	3万人
	最新値	20,733人(2019)

取組31-12	絶滅のおそれのある野生生物種の保全	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国に生息・生育する絶滅危惧種を保全するため、レッドリスト・レッドデータブックの作成・更新するとともに、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種の新規指定や保護増殖事業等を推進する。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標12	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①②	
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	公益社団法人 日本植物園協会 公益社団法人 日本動物園水族館協会	
取組にあたって連携するその他の団体	地方公共団体、企業、NGO等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省レッドリスト更新に向けた検討・調査等を実施</li> <li>環境省レッドリストと環境省版海洋生物レッドリストを統合した体制で第5次レッドリストの作成に向けた検討及び調査を実施</li> <li>2020年までに93種を追加指定することを目指し、国内希少野生動植物種の指定を実施</li> <li>特定第二種国内希少野生動植物種を指定</li> <li>既存の保護増殖事業の実施状況のレビュー結果を、種の保存法に基づく希少野生動植物種専門家科学委員会に対し報告</li> <li>保護増殖事業計画の策定推進</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本動物園水族館協会及び日本植物園協会等との連携により、絶滅危惧種の生息域外保全を実施</li> </ul>
<p>令和元年度の実施結果に対する自己評価</p> <p>A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず</p>	A	<p>レッドリストの更新・公表や特定第二種国内希少野生動植物種の指定も含めた国内希少野生動植物種の追加指定、環境省レッドリストと環境省版海洋生物レッドリストの統合方針の策定、保護増殖事業計画の策定推進、さらには希少種保全のための多様な主体と連携強化などの事業を着実に実施した。</p>
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省レッドリストと環境省版海洋生物のレッドリストを統合した体制で第5次レッドリストの作成に向けた検討及び調査を実施</li> <li>・2014年から2020年までに300種を追加指定することを目指し、国内希少野生動植物種の指定を推進</li> <li>・2021年以降の種指定・保全目標検討</li> <li>・国内希少野生動植物種の保護増殖事業計画の策定を推進</li> <li>・特定第二種国内希少野生動植物種の指定を推進</li> <li>・日本動物園水族館協会及び日本植物園協会等との連携により、絶滅危惧種の生息域外保全を推進</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		同上
指標	定義	国内希少野生動植物種の追加指定種数
	2020年の目標値	2014年から2020年までに300種
	最新値	270種(令和元年度)

取組31-13	鳥獣保護管理の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の鳥獣による生態系への影響や農林業被害等が深刻な問題となっていることから、鳥獣保護管理に係る担い手の確保、科学的・計画的な鳥獣保護管理に関する調査・検討、基本指針の改定に向けた点検・調査等を実施し、総合的な鳥獣保護管理を抜本的に強化。</li> </ul>
該当する愛知目標	目標5、目標7、目標12
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②、4. ①

取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	農林水産省	
取組にあたって連携するその他の団体	地方公共団体、認定鳥獣捕獲等事業者等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県による指定管理鳥獣捕獲等事業に交付金を交付し、ニホンジカ・イノシシの捕獲を強化する。さらに、捕獲体制の強化を図るため、認定鳥獣捕獲等事業者の捕獲従事者等を対象にした講習会の開催を支援する。</li> <li>・ 狩猟の魅力・社会的意義を PR し、狩猟免許の取得を促進するセミナー等を全国で開催する</li> <li>・ 行政担当職員等を対象とした科学的・計画的な鳥獣保護管理に係る研修会等を開催する</li> <li>・ 平成 29 年度に開発した捕獲情報を収集する情報システムを適切に運用し、都道府県における事務を支援等</li> </ul>	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	指定管理鳥獣捕獲等事業交付金によるニホンジカ・イノシシの捕獲強化の支援のほか、捕獲体制の強化・担い手育成を目指した講習会やセミナー等を全国で開催するなどの取組を着実に実施した。
令和 2 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県による指定管理鳥獣捕獲等事業に交付金を交付し、ニホンジカ・イノシシの捕獲を強化する。さらに、捕獲体制の強化を図るため、認定鳥獣捕獲等事業者の捕獲従事者等を対象にした講習会の開催を支援する。</li> <li>・ 狩猟の魅力・社会的意義を PR し、狩猟免許の取得を促進するセミナー等を全国で開催する。</li> <li>・ 行政担当職員等を対象とした科学的・計画的な鳥獣保護管理に係る研修会等を開催する。</li> <li>・ 平成 29 年度に開発した捕獲情報を収集する情報システムを適切に運用し、都道府県における事務を支援等</li> </ul>	
【参考】令和 3 年度実施内容等(予定)	同上	
指標	定義	「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」における半減目標の達成
	2020 年の目標値	2023 年度に、2011 年度比でニホンジカ、イノシシの生息数を半減させる(参考)
	最新値	【平成 29 年度】ニホンジカ約 310 万頭、イノシシ約 88

	万頭（ともに推定個体数の中央値）
--	------------------

取組 3 1 - 1 4	外来種対策の推進	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域固有の生物相や生態系に対する大きな脅威となっている外来種については、平成 24 年 9 月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」において生物多様性に対する第 3 の危機として位置づけられている。それら侵略的な外来種に関する飼養等の規制、防除等を推進する。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標 9	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ①②	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	公益社団法人 日本植物園協会 公益社団法人 日本動物園水族館協会 等	
取組にあたって連携するその他の団体	地方公共団体、各地の外来生物対策協議会、NGO 等	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に対策の優先度の高い侵略的外来種（昆虫類）について特定外来生物への指定を検討</li> <li>・ 沖縄本島やんばる地域、奄美大島のマングースなどの生態系保全上重要な地域における外来種や、近年国内定着が確認され、分布拡大が危惧されるツマアカスズメバチ等の防除の実施</li> <li>・ アカミミガメ等の国内に広く蔓延し対策が困難な外来種への対策の検討を実施し、アカミミガメについては防除に係る最新の知見を集めた「アカミミガメ防除の手引き」を公表</li> <li>・ 平成 29 年 6 月に国内で初確認されたヒアリについて、引き続き関係省庁や自治体、事業者と連携し、定着を防ぐための確認調査や防除を実施</li> <li>・ 動物愛護週間中央行事「動物愛護ふれあいフェスティバル」において、日動水と連携して外来種に関する普及啓発活動を実施</li> </ul>	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	特定外来生物の新規指定、防除事業の実施、連携団体と共同でイベント出展し外来種問題の普及啓発を実施する等、着実に取組を実施した。

令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に対策の優先度の高い侵略的外来種を特定外来生物に指定</li> <li>・ 生態系保全上重要な地域における外来種や、近年定着が確認され、分布が拡大する恐れのある外来種の防除および侵略的外来種の国内侵入の未然防止</li> <li>・ アカミミガメ等の国内に広く蔓延し対策が困難な外来種への対策の検討と防除の実施</li> <li>・ 各種行事において、日動水等と連携して外来種に関する普及啓発活動を実施 等</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		・ 同上
指標	定義	「外来種」という言葉の意味を知っている人の割合
	2020年の目標値	80%
	最新値	59.3% (2019年度)

取組31-15	ラムサール条約湿地の新規登録及び湿地保全に係る普及啓発
概要・目的	・ ラムサール条約（昭和46年採択、日本は昭和55年に加入）湿地の新規登録や既登録湿地の拡張等により、国際的に重要な湿地の保全と賢明な利用を推進。
該当する愛知目標	目標11
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	2. ②、3. (2)①②、4. ①②
取組にあたって連携する他のUNDB-J構成団体	農林水産省、国土交通省
取組にあたって連携するその他の団体	NPO法人ラムサール・ネットワーク日本、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COP14（2021年予定）におけるラムサール条約湿地の新規登録に向けた調整の実施</li> <li>・ ラムサール条約湿地RISの更新、条約湿地の保全や持続可能な利用の推進のための取組を実施</li> </ul>

令和元年度の取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	湿地の保全と賢明な利用の推進のため、国内ラムサール条約湿地の新規登録に向けた作業や普及啓発事業など、着実に取組を実施。
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COP14 (2021年予定) におけるラムサール条約湿地の新規登録に向けた調整の実施</li> <li>・ ラムサール条約湿地 RIS の更新、条約湿地の保全や持続可能な利用の推進のための取組を実施</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同上</li> <li>・</li> </ul>
指標	定義	国内ラムサール条約湿地数
	2020年の目標値	56
	最新値	52 (R2年3月末現在)

取組 3 1 - 1 6	ワシントン条約を通じた絶滅危惧種に対する国際取引の影響の抑制	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワシントン条約（昭和48年採択、日本は昭和55年に加入）は、過度の国際取引により野生動植物種が絶滅のおそれに瀕することを防止するため、一定の種の国際取引の規制を実施するもの。規制を受ける種の改正を提案することで、絶滅危惧種への国際取引による影響を抑制・防止する。以上のことについて一般への普及啓発を行う。</li> </ul>	
該当する愛知目標	目標 12	
ロードマップ「取組の方向性」の項目番号	1. ①	
取組にあたって連携する他の UNDB-J 構成団体	経済産業省、外務省、農林水産省	
取組にあたって連携するその他の団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正な象牙取引の推進に関する官民協議会</li> <li>・ 企業、NGO 等</li> </ul>	
令和元年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワシントン条約第18回締約国会議への参加</li> <li>・ 密輸出されている事例のある国内の希少野生動植物種等について、ワシントン条約附属書への掲載を検討</li> <li>・ 普及啓発のためのイベントを実施</li> </ul>	
令和元年度取組結果に対する自己評価 A: 予定した取組を概ね実施できた C: 予定した取組を実施できず	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワシントン条約第18回締約国会議に参加し、条約の適正かつより効果的な運用に貢献した。</li> <li>・ 密輸出されている事例のある国内の希少野生動植物種等について、ワシントン条約附属書への</li> </ul>

		<p>掲載に向けた調整を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及啓発媒体を制作し、絶滅危惧種の取引規制についてPRを行った。</li> </ul>
令和2年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設委員会への参加等により条約の適正かつ効果的な運用に努めることで、我が国の希少な野生動植物種を含む絶滅危惧種に対する国際取引の影響を抑制・防止</li> <li>・密輸出されている事例のある国内の希少野生動植物種等について、ワシントン条約附属書への掲載にむけた調整を進める。</li> </ul>
【参考】令和3年度実施内容等(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同上</li> <li>・</li> </ul>
指標	定義	・ワシントン条約該当物品の輸入差止等実績
	2020年の目標値	・400件
	最新値	・674件(令和元年)